

2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式1（基準4）教育課程・学習成果

学部・学科/研究科・専攻		人文学部		氏名		青柳 宏							
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展策	根拠資料	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況（○/×）	達成できていない理由（×の場合理由を記載）		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。					[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準4	教育課程・学習成果 ② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。	人文学部のカリキュラム・ポリシーでは、ディプロマ・ポリシーに定める、「文化、歴史、社会、および人間のあり方に関する幅広い教養を背景として、現代の問題状況を洞察・理解する能力」（能力1）、「多様な他者を柔軟なコミュニケーションを通して理解し、受け入れる能力」（能力2）を養うために、どのような科目を配置しているかを述べている。能力2については、人文学部共通科目に関する記述で、「超領域演習などの学科の垣根を越えた人文科学の横断的・総合的な科目を配置し、背景の異なる他者とともに成長しながら自分たちの現状をよりよくしていくことと能力を涵養」するとのあるが、能力1については、2年次における配当科目に関する記述で、「入門科目、概論科目、基礎演習Ⅱをはじめとする多様な学科科目を履修することによって、各自がどの領域をより深く追究してゆくかという方向性を見極め、3・4年次における演習での学修に備え」との記述にとどまり、この能力の涵養に繋がるものが直接読み取りにくくなっている（4-②-1）。	特になし。	最重要点は左記能力1の涵養に関する記述なので、人文学部カリキュラム・ポリシーの2年次の部分を以下のように修正する。「2年次には、入門科目、概論科目、基礎演習Ⅱをはじめとする多様な学科科目を履修することによって、各自がどの領域をより深く追究してゆくかという方向性を見極め、3・4年次における演習での学修に備え」との記述にとどまり、この能力の涵養に繋がるものが直接読み取りにくくなっている（4-②-1）。	B	特になし。	2019年度中に学部カリキュラム委員会で検討のうえ、修正を加える（4-②-2）。	4-②-1「人文学部3つのポリシー」（ <a href="https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/foh.html">https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/foh.html</a> ）、4-②-2「人文学部カリキュラム委員会への検討依頼書」	改善案に沿ったカリキュラムポリシーの修正を、ぜひお願いします。	現在修正版が学内各種会議体による審議・承認を受けている最中で、2019年度中に改正ができる見通しです。	○	
	③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1)開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2)学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3)研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮。 (4)専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	人文学部では、カリキュラム・ポリシーにおいて、共通教育科目、学部共通科目、学科科目を配置し、共通教育科目は大学のカリキュラム・ポリシーに示す能力を、学部共通科目は学部のディプロマ・ポリシーに示す能力2を、2年次配当の学科科目は学部のディプロマ・ポリシーに示す能力1を（ただし、その表現が必ずしも妥当ではないことは上述のとおり）、そして3、4年次には学部のディプロマ・ポリシーに掲げる能力1、2をさらに進展させることが明記されており、その連携も明示されている（4-③-1）。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	4-③-1「人文学部3つのポリシー」（ <a href="https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/foh.html">https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/foh.html</a> ）				
	④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1)留学プログラムの充実 【2018年度学長方針】 (2)学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法 (3)学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導 (4)研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施 (5)専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施	(1)「2018年度学長方針」に掲げられた留学プログラムの充実については、兼ねてから懸案であった「人文学異文化研修短期留学プログラムB」を「同A」（アイルランド）に加えて2019年度からマレーシアで実施することとした（4-④-1）。(2)学生の主体的学修を促すための授業形態としては、各学科が開講する演習系科目でアクティブ・ラーニングの手法を取り入れている（4-④-2）。(3)教職課程科目以外でのe-ポートフォリオの導入は全学的に検討中であるが、webclassによる履修指導については、すでに本学部教員の多数が導入している（4-④-2）。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	4-④-1「2017年度第14回教授会資料」、4-④-2各学科科目「シラバス」				



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式1（基準4）教育課程・学習成果

学部・学科/研究科・専攻		人文学部		氏名		青柳 宏					
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策	根拠資料	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況（○/×）	達成できていない理由（×の場合理由を記載）
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「改善すべき事項」については、その改善方を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。				
⑤	成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1)成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 (2)学位授与に係る責任体制 (3)研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置	(1)本学ではレターグレードに対する評価基準（A+=90点以上、A=80～89点、B=70～79点、C=60～69点、F=59点以下）を全学的に定めており（4-⑤-1）、各科目シラバスには評価基準を明示し（4-⑤-2）、さらに学生からの成績疑問調査にも応じている（4-⑤-3）。さらに、4年間の学修の総仕上げとしての「研究プロジェクト」論文（卒業論文）の評価は、学科全体で論文報告会を開催する（キリスト教学科、心理人間学科）、主査たる指導教員の他に副査を置いて口頭試問を行う（人類文化学科）、ゼミごとに口頭試問や論文発表会を行う（日本文化学科）ことにより客観性の担保に努めている。（2）学位授与については、「南山大学学則」第21条、「南山大学学位規程」第3条及び第13条の規定に従い学長が決定している（4-⑤-4、4-⑤-5）。この結果、人文学部の2018年度卒業判定対象者435名中の卒業確定者数は379名（87.1%）であった（4-⑤-6）。	特になし。	（本学における現在のクォーター制の下では成績発表が年2回しかないため、学生はQ1、Q3で履修した科目が修得できているか分からないままQ2、Q4へと進み、不安を抱えている（4-⑤-7、4-⑤-8）。クォーター制に即した成績付与が可能になるように、ご検討をお願いしたい。）	A	特になし。	4-⑤-1「南山大学学則」第18条、4-⑤-2各科目「シラバス」の【評価方法】、4-⑤-3「南山大学授業科目履修規程」第21条、4-⑤-4「南山大学学則」第21条、4-⑤-5「南山大学学位規程」第3条、第15条、4-⑤-6「2018年度第18回人文学部教授会資料」、4-⑤-7「2017年度人文学部FD活動報告書」、4-⑤-8「【人文学部】クォーター制意見聴取回答」			
⑥	学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)学習成果の測定をどのような方法で行っているか。（例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。）	すべての学科で卒業生対象カリキュラム調査（4-⑥-1）を実施し、各学科がディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーで挙げた能力をどの程度身につけたかを調査し、各学科の自己点検・評価委員会で精査している（4-⑥-2）。さらに、学習成果のひとつの指標となると思われる、本学部2018年度卒業生の就職内定率（就職者/就職希望者）は97.4%であった（4-⑥-3）。	特になし。	A		4-⑥-1「人文学部卒業生対象カリキュラム調査票」、4-⑥-2各学科「自己点検・評価委員会記録」、4-⑥-3「2018年度学部学科別進路状況」				
⑦	教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。 (2)カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1)2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについては、その後も学部自己点検・評価委員会及び各学科自己点検・評価委員会で取り上げ（4-⑦-1、4-⑦-2）、さらに、卒業生アンケートの結果も加味して（4-⑦-3）、その整合性を検証している。 (2)カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性についても、「卒業生アンケート」の各学科の項目や学部長表彰被表彰者懇談会での意見も参考にしつつ、各学科自己点検・評価委員会で検証している（4-⑦-2、4-⑦-3）。	特になし。	3つのポリシーの検証作業は、これまで各学科会議または各学科自己点検・評価委員会で修正意見が出たときに、またそのたびに学部教授会で取り上げるとい、いわば五月雨式、ボトム・アップ方式を取ってきたというのが学部教授会の認識だが、今後は学部と各学科が互いに連携を取って定期的に学部および各学科の3つのポリシーを検証するシステムを構築したい（4-⑦-4）。	B	3つのポリシーの検証作業を学部主導で恒常的に効率よく行うためにどうすればよいかを学部カリキュラム委員会で2019年度春学期中に検討してもらうこととした（4-⑦-4）	4-⑦-1「2018年度人文学部自己点検・評価委員会記録」、4-⑦-2各学科「自己点検・評価委員会記録」、4-⑦-3「人文学部卒業生対象カリキュラム調査票」、4-⑦-4「人文学部カリキュラム委員会への検討依頼書」			



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式1（基準4）教育課程・学習成果

学部・学科/研究科・専攻		英米学科		氏名		鈴木 達也								
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策	根拠資料							
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した状態にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。					
基準4	教育課程・学習成果	② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。	英米学科では、外国語学部のディプロマ・ポリシーに掲げる能力を踏まえて学科のディプロマポリシーを定め、それと整合するカリキュラム・ポリシーに従って各年次における具体的な教育内容と教育方法を定めて、広く社会に公表するとともに学科会議にて自己点検を行なっている(4-②-(1))。学科科目では、基礎教育として、情報収集、プレゼンテーション、ディスカッション、論文作成、コンピュータの利用などに関する技法を習得するための必修科目を配置すると同時に、学術的な議論ができる水準まで英語運用能力を高めるための科目を配置し、専門教育では、英語圏の文化と社会についての知識、人文学・社会科学の思考力、的確な表現力を身につけるための科目を配置している。カリキュラム全体を通してアクティブ・ラーニング（能動的学習）を取り入れ、学生の主体的な学びを積極的に評価することを明示している。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	4-②-(1) 「英米学科 3つのポリシー」 <a href="https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fb/policy.html">https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fb/policy.html</a> 、 「2018年度第1回学科会議」資料および議事録、 「2018年度第11回学科会議」資料および議事録	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況 (○/×)	達成できていない理由 (×の場合理由を記載)
		③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1) 開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2) 学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3) 研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮。 (4) 専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	(1) カリキュラム・ポリシーに基づき、配当年次に従って科目を編成している。ただ、現行のカリキュラム・ポリシーでは、2年次の海外フィールドワークへの参加を通して英語運用能力の向上と異文化環境への適応力の涵養を図り、3年次からの長期留学に繋がることを想定しているが、長期留学する年次が従来の3年次から2年次に前倒しされる傾向が高まっている。(2) 初年次教育としては、1年次学科必修科目の Academic English Aにて、全クラス共通の学科独自作成教科書を使用するとともに、コーディネーターを置いて質的管理を行なっている (4-③-(2))。	特になし。	長期留学する年次が従来の3年次から2年次に前倒しされる傾向が顕著になった場合は、海外フィールドワークの長期留学への呼び水としての位置付けを再検討する必要がある。2019年度中にカリキュラムの見直しも視野に入れて学科内で検討する。	A	特になし。	学科内にカリキュラム検討プロジェクトチーム、海外フィールドワークプロジェクトチームを組織して状況を慎重に分析し、対策が必要であるかどうか、2019年度中に学科会議にて判断する。	4-③-(2) 2018年度英米学科FD活動報告				



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式1（基準4）教育課程・学習成果

学部・学科/研究科・専攻		英米学科		氏名		鈴木 達也						
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策	根拠資料	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況 (○/×)	達成できていない理由 (×の場合理由を記載)	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが顕著した状態にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。					[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
	④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1)留学プログラムの充実 【2018年度学長方針】 (2)学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法 (3)学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導 (4)研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施 (5)専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施	(1)2018年度より学科短期留学プログラム（海外フィールドワークA、B）を実施し、それぞれ学科2年次生の32名と50名が参加した。これは学科2年次生の約59%の参加率である（4-④-（1））。 (2)学生の主体的参加を促すために少人数クラスのSpecial Topics in Englishの授業を24クラス開講した（4-④-（2））。 (3)Webclassを約半数の教員が活用している（4-④-（3））。	長期留学（「留学」の身分および「休学」の身分による）ならびに短期留学によって、多くの学科生が海外生活を体験している（4-④-（4））。	特になし。	特になし。	特になし。	4-④-（1）「海外フィールドワークA報告書」、 「海外フィールドワークB報告書」 4-④-（2） 教務課提供資料、4-④-（3） 「WebClass使用状況回答」、4-④-（4） 「国際センター提供資料」、 「2018年度英米学科休学留学生一覧」				
	⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1)成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 (2)学位授与に係る責任体制 (3)研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置	(1)複数クラスの授業科目の成績評価の客観性、厳格性を担保するために、1年次学科必修科目のAcademic English A、2年次学科必修科目のAcademic English Bともにコーディネータを定め、教員間の成績評価分布の平準化を図っている（4-⑤-（1））。 (2)学位授与については学則および「南山大学学位規程」に定める要件及び手続に従い、学科で要件を確認の上、外国語学部教授会による審査を経て、学長が決定している（4-⑤-（2））。	Academic English A、Bにコーディネータを設けたことにより、複数クラスの授業科目の場合でも、成績評価分布や授業についていけない学生の有無等、問題点の把握が可能になった。	特になし。	特になし。	特になし。	4-⑤-（1）第1回学科会議資料、第1回学科会議議事録 4-⑤-（2）「南山大学学位規程」第3条 <a href="https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/okai/pdf/d4340.pdf">https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/okai/pdf/d4340.pdf</a>	複数クラスの成績評価等、問題点について、改善への方策を検討する必要があると思います。	専任教員による授業については、教材の統一、評価の際のルーブリックの活用により成績評価の標準化が達成できた。これを踏まえて、2020年度は、非常勤講師が担当する授業も含めて、成績評価の公正性を保つことができるように努める。	○	



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式1（基準4）教育課程・学習成果

学部・学科/研究科・専攻		英米学科		氏名		鈴木 達也					
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策	根拠資料	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況 (○/×)	達成できていない理由 (×の場合理由を記載)
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>				
	⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)学習成果の測定をどのような方法で行っているか。（例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。）	個々の科目については、担当教員が定期試験の結果を分析することによって（マークシートによる解答の場合は、得点分布等の分析結果等）、全体的な達成度や満足度は大学で実施している学生による授業評価によって確認している（4-⑥-(1)）。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	4-⑥-(1)「マークシート解答採点結果」、「2018年度第1クォーター、第2クォーター学生による授業評価アンケート結果」		
	⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。 (2)カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1)ディプロマ・ポリシーについては取得すべき知識、技能、態度等といった学習成果が、学科の目的と照らして適切に定められているかを、カリキュラム・ポリシーについては、ディプロマ・ポリシーに定める上記の学習成果を修得させるために、ふさわしい教育課程(教育内容、教育方法)を明示しているかを、学科会議において点検・評価している（4-⑦-(1)）。(2)時間割編成作業を通して、適切な開講教等を確認し、学科会議で情報共有している（4-⑦-(2)）。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	4-⑦-(1) 第1回、第4回、第5回、第9回、第11回、第12回学科会議、学科会議事録 4-⑦-(2) 第12回、第15回学科会議、学科会議事録		



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式1（基準6）教員・教員組織

学部・学科/研究科・専攻		スペイン・ラテンアメリカ学科		氏名		泉水 浩隆							
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展策	根拠資料	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況（○/×）	達成できていない理由（×の場合理由を記載）		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S]極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A]良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B]軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C]重度な問題があり、技術的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。					[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1)人事計画に沿った教員の組織編制ができています。	学科の人事計画に沿って、2018年度はスペイン政治史・比較政治学を担当する教員1名およびラテンアメリカ地域研究（文化史・思想史）を担当する教員1名（特別任用）が4月に着任した（6-②-1）。	これまで長い間不開講になっていたままだった科目や、開講を予定していた科目が、新たな教員を迎えたことにより、開講の運びとなり、学生の科目選択の幅が広がった（6-②-2）。	特になし。	2019年度には、各教員の担当コマ数にも配慮しながら、担当可能な他の科目を開講し、学科の科目ラインナップをより充実させる。	特になし。	6-②-1 「スペイン・ラテンアメリカ学科 教員紹介」サイト https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/fs/faculty.html 6-②-2 Web シラバス (https://portal.nanzan-u.ac.jp/syllabus/)				
		④ ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1)どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。（学部/研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要がある。）	年度初めに学部提出する人事計画については、学科会議で提案・希望等のある学科教員からその旨学科長に伝えるように依頼し、それに基づき学科長会議での検討を行っている。FD活動としては、特に学科必修のスペイン語科目について、言語科目コーディネーターを中心に年度終りに当該科目担当教員との話し合いを通じて、年度の振り返りと次年度への留意事項の伝達を行っている。	チームティーチングの形式を取っているものが多い学科必修のスペイン語科目は、学科の言語科目コーディネーターが年度当初に詳細な授業計画を記したカレンダーを作成し、同一科目・別クラス間であっても、足並みをそろえて授業展開ができるような体制を整えている（6-④-1）また、言語コーディネータや学科教員を通過し、各教員間での意見交換がスムーズに行えるようになっている。	[1] 言語科目については言語科目コーディネーターによりきめ細かく進捗調整などがなされているが、それ以外に気づいた点・改善が望まれる点がないかどうか直接確認した。その他の学科専門科目でも関連する科目を担当する教員同士がそれぞれの学生の学習状況などについて状況を把握できるようにする必要があり、[3] 学科専任教員と学科科目を担当する非常勤講師が直接集って意見交換をする機会があることが望ましい。	学科必修スペイン語科目については、これまでの方法を踏襲し、2019年度も言語科目コーディネーターによるきめ細かい調整を行う。	学科会議で、学科専任教員と学科科目を担当する非常勤講師の意見交換をする場を設けることができないかどうか、2019年度中に検討する。	6-④-1 学科必修スペイン語科目進捗表（学科言語コーディネーター作成資料）	他の学科では非常勤講師を含めた教員の意見交換の機会が設けられているところがある。参考にしてほしいと思います。	学科の言語コーディネーター教員の呼びかけにより、同教員と言語科目担当の先生方が個別に意見交換する場は例年通り持つことができた。また、学科科目と外国語教育センター提供科目の双方を担当している教員も多いこともあって、外国語教育センターが行った年度末の会議に学科長および学科で外国語教育センターが提供する科目を担当する教員が出席し、意見交換自体は出来ている。しかしながら、学科として実施する学科教員・非常勤の先生方全体での意見交換会については、年間を通してのコロナ禍の影響を受け、実施には至らなかった。今後も引き続き検討を継続する	×	
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	ここ2年ほど、学科教員の定年に伴う入れ替わりがあったため、必然的にその都度組織編成の方針が適切であるかどうか学科会議の場で検討することになった。FD活動の適切性については、学科会議内で議論し、学科のFD活動報告書ならびにFD活動計画にまとめられている（6-⑤-1）。	特になし。	[1] 対象とする地域の言語や事情など学科の事情を特に考慮すべきテーマ（例えば、スペイン語教育）については、学部全体のFD活動では、必ずしも十分に扱いきれない部分がある。[3] [1] の事情をくんで、学部のFD活動に加え、学科内でのFD活動企画も考慮することが望ましい。	特になし。	教育関連の講演会が行われる場合など、その内容を考慮した上で、学科向けのFD活動の一環とできるかどうかを検討する。	6-⑤-1「2018年度スペイン・ラテンアメリカ学科FD活動報告書」、「2019年度スペイン・ラテンアメリカ学科FD活動計画」				



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式1（基準4）教育課程・学習成果

		学部・学科/研究科・専攻	ドイツ学科		氏名	太田 達也							
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策		根拠資料					
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。				
基準4	教育課程・学習成果 ② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。	ドイツ学科のカリキュラム・ポリシーでは、ディプロマ・ポリシーに定める学習成果を修得させるために共通教育科目、学部共通科目、学科科目を配置することを示したうえで、科目種別ごと、専攻ごとの具体的な教育内容と教育方法を定めている（4-2-1）。例えば、専攻ごとの教育内容については、「ドイツ文化専攻では、個別の言語表現や芸術作品に内包される文化的特質、差異を認識する高度なリテラシーと、深い想像力をもって他者と接する、異文化コミュニケーションに開かれた態度を育成するための科目を配置します。」「ドイツ社会専攻では、情報を収集、整理、分析し、問題発見、課題解決へとつなげる能力、市民として政治や経済など社会の動きを観察し、それに積極的に関与する行動力、批判的思考力を育成するための科目を配置します。」としている。また教育方法については、「カリキュラム全体を通してアクティブ・ラーニング（能動的学習）を取り入れ、学生の主体的な学びを積極的に評価します。」と明示しており、ディプロマ・ポリシーとの整合性もとれている。	特になし	特になし	A	特になし	特になし	4-2-1「ドイツ学科 3つのポリシー」 <a href="https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/f/g/policy.html">https://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/f/g/policy.html</a>	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況（○/×）	達成できていない理由（×の場合理由を記載）
	③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1)開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2)学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3)研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮。 (4)専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	(1)カリキュラム・ポリシーに基づき、配当年次に従って科目を編成している。例えばカリキュラム・ポリシーには「2年次には、ドイツ語運用能力の向上と、異文化環境における適応力、行動力の涵養を図るために、海外フィールドワークを配置します。3・4年次には、ドイツ語の運用能力をさらに高めると同時に、ドイツ語圏の文化や社会に関する知識を深めるための科目を配置します。必修の演習科目では、学問的方法を学ぶとともに、自らが設定したテーマに関する研究成果を卒業論文としてまとめます。」とあるが、実際に上記のような科目配置を行っている。したがって、カリキュラム・ポリシーと整合している。 (2)初年次には主に共通教育科目の枠組みでドイツ語運用能力を集中的に高めるとともに、調査研究能力・協働学習能力を発展させるための「基礎演習」科目を学科科目として配置し、さらに高次の専門科目との効果的な連携を図っている。	特になし	特になし	A	特になし	特になし	1-3-2「2018年度ドイツ学科FD活動報告」				



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式1（基準4）教育課程・学習成果

学部・学科/研究科・専攻		ドイツ学科		氏名		太田 達也					
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展策	根拠資料	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況（○/×）	達成できていない理由（×の場合理由を記載）
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S]極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A]良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B]軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C]重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「改善すべき事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。				
	④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1) 留学プログラムの充実 【2018年度学長方針】 (2) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法 (3) 学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導 (4) 研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施 (5) 専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施	(1) 2017年度より2年次の選択必修科目として「海外フィールドワーク」科目（2018年度の「海外フィールドワーク1」は6月に実施、「海外フィールドワーク2」は7月に実施）を配置し、2018年度には2年次生全員（6月に33名、7月に28名）および3年生の若干名（6月に2名、7月に6名）がこれに参加している。 (2) 学生の主体的参加を促すアクティブ・ラーニング型の授業を積極的に実施しており、実施科目ではシラバスにも明記している（4-4-1）。 (3) 一部の教員は WebClass を積極的に活用している。具体的には、課題の提出、情報の共有、ドイツ語による意見交換などの場としてだけでなく、休暇中の自主学習課題の提供の場としても活用している（4-4-2）。	(1) ドイツ語圏の人々・社会・文化と触れ合う機会を提供し、異文化交流を深めることができた（4-4-3）。 また、「海外フィールドワーク」最終週に現地で実施し参加者全員が受験したA2レベルの試験では、69名中、67名が合格した。	特になし	特になし	4-4-1 シラバス（例：「基礎演習I（言語文化）」（34A05-001）、「演習1」（34A19-001） 4-4-2 WebClass（例：ドイツ学科1年生ドイツ語クラス用に特設した「2018_ドイツ学科1年（ドイツ語連絡用）」のページ） 4-4-3 学科教員提出の「海外フィールドワーク」出張報告書				
	⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1) 成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 (2) 学位授与に係る責任体制 (3) 研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置	(1) 複数の教員が共同で担当している科目については、担当教員間で情報を共有し、協議の上で成績をつけており、成績評価の客観性、厳格性は担保されている。 また、全学的に学生による「履修成績評価の疑問調査」を行っており、客観性の高い成績評価を行うよう努めている。 複数の教員が共同で担当している科目以外については、成績付与はそれぞれの担当教員に任されており、学科ミーティングで「措置」として成績を確認するということはない。 (2) 学位授与については学則および「南山大学学位規程」に定める要件及び手続に従い、外国語学部教授会による審査を経て、学長が決定している（4-5-1）。	特になし	特になし	特になし	4-5-1「南山大学学位規程」第3条および第13条 <a href="https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/okai/pdf/d4340.pdf">https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/okai/pdf/d4340.pdf</a>				
	⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1) 学習成果の測定をどのような方法で行っているか。（例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。）	「海外フィールドワーク」では、ヨーロッパ言語共通参照枠に準拠したA2レベルのドイツ語試験（telc）を最終週に現地で実施してもらうよう、受け入れ機関であるIIKに依頼し、参加者全員にはこれを受験させている（4-6-1）。 また、1年次のドイツ語授業では、各課の終了時に「学習振り返りシート」を記入させ、回収して教員がフィードバックを与えることで、自らの学習についてのリフレクションを促している。	2018年度から、学科の学生が外部の検定試験等に合格した場合に記入・提出してもらうためのシートを作成した（4-6-2）。これにより、学習成果の測定がより容易になった。	大学が全学部を対象に行った「2018年卒業時アンケート」の回収率が低かった（4-6-3）。	外部の検定試験等に合格した場合に記入・提出してもらうためのシートによって得られたデータを、定期的に集計する。	「2018年卒業時アンケート」の回収率を上げるよう、4年次生への呼びかけを徹底する。	4-6-1「海外フィールドワーク」実施機関であるIIKから本学に送付された請求書におけるtelc試験実施費用の記載 4-6-2 ドイツ学科作成の検定試験等合格申告用紙 4-6-3「2018年卒業時アンケート」			



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式1（基準4）教育課程・学習成果

学部・学科/研究科・専攻	ドイツ学科	氏名	太田 達也
--------------	-------	----	-------

評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策	根拠資料	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況（○/×）	達成できていない理由（×の場合理由を記載）
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、技術的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。				
⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。 (2)カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1) ディプロマ・ポリシーについては修得すべき知識、技能などの学習成果が学科の目的と照らして適切であるかを、カリキュラム・ポリシーについてはディプロマ・ポリシーに定める学習成果を修得させるためにふさわしい教育内容、教育方法を明示しているかを、学科会議において点検・評価している。 (2) 学科学生の各種ドイツ語検定試験の合格状況やドイツ学術交流会（DAAD）奨学金の獲得状況、各種ドイツ語コンクールにおける入賞状況、就職状況などについて学科会議で情報を共有しつつ、カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性に問題はないかを学科全体で検証している（4-7-1）。	秋に大学で開催されたB1レベルの試験で、全モジュールの合格者が6名あった。 オーストリア政府公認ドイツ語検定試験の結果は公開されていないが、多数の合格者があったことを学科独自に把握している。 さらに、ドイツ学術交流会の支給する夏期ドイツ語講座奨学金に応募したドイツ学科生1名が選考に合格した。 12月に本学で開催された第57回ドイツ語コンクールにおける入賞状況、就職状況などについて学科会議で情報を共有しつつ、カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性に問題はないかを学科全体で検証している（4-7-1）。	教育成果について定期的な検証については、各種公的ドイツ語検定試験の合格者、留学奨学金受給者、スピーチ・コンテスト受賞者等についての情報を学科内で整理・共有するために、学生用記入シートを作成したが、その存在を知らない学生が多いためと思われる。	B	ドイツ語運用能力をさらに伸ばすためのカリキュラムの改革案について継続的に学科内で検討を続ける。 外部の検定試験等に合格した場合に記入・提出してもらうためのシートの存在を知ってもらうよう、学科教員が情報の周知につとめる。	4-7-1 学科会議記録（例：12月12日）	各種公的なドイツ語検定試験合格者、留学奨学金受給者、スピーチコンテスト受賞者等に関する情報の整理・共有のためのシートの周知に加え、活用する仕組みの検討が望まれます。	各種公的なドイツ語検定試験合格者、留学奨学金受給者、スピーチコンテスト受賞者、ドイツ語圏インターンシップ参加者等には、ドイツ学科合研に来て「語学検定・奨学金等取得届」「ドイツ語圏に関わるインターンシップ実施届」を記入・提出するよう、ガイダンスや授業を通じて学生に呼びかけるとともに、毎年その集計結果をとりまとめて学科会議で共有し、今後の教育のさらなる改善に役立てる。	×	学生には「語学検定・奨学金等取得届」「ドイツ語圏に関わるインターンシップ実施届」を記入し合研に提出するよう、ガイダンスや授業を通じて学生に呼びかけたものの、2020年度はコロナ禍のため、学生が合研に来ることがほとんどなかった。そのため、年度末にメールでアンケートをとることで状況把握に努めた。



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式1（基準4）教育課程・学習成果

		学部・学科/研究科・専攻	アジア学科	氏名	中 裕史							
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策	根拠資料	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況（○/×）	達成できていない理由（×の場合理由を記載）	
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>[S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが継続した水準にある</p> <p>[A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である</p> <p>[B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる</p> <p>[C] 重度な問題があり、本格的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>					<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>
基準4	教育課程・学習成果	② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。	学科全体のディプロマ・ポリシーとして「中国語またはインドネシア語で情報を収集し、自らの立場や意見を明確に述べることができる高度な外国語運用能力」を掲げ、東アジア専攻のディプロマ・ポリシーとして「中国、台湾、韓国などの東アジア地域で共有されてきた文化、東アジア地域の歴史や社会などに関する専門知識、ならびに日本や欧米諸国と東アジア地域との関係性を視野に入れて複眼的に東アジア地域を理解する力」を、また東南アジア専攻のディプロマ・ポリシーとして「東西文明の十字路口に位置するインドネシアおよびその周辺の東南アジア地域が育んできた多文化共生社会に関する専門知識、ならびに東西世界および周辺地域との関係性を視野に入れて複眼的に東南アジア地域を理解する力」を掲げている。上記を実現するために、カリキュラム・ポリシーでは「中国語およびインドネシア語の4つの技能について高度な運用能力を培う科目」、「海外フィールドワーク」および各専攻において「本格的な地域研究を行う科目」を配置することを掲げており、両ポリシーの整合性はとれている。(4-②-1)	特になし。	特になし。	[A]	特になし。	特になし。	アジア学科3つのポリシー http://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/policy.html (4-②-1)		
		③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1)開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2)学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3)研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮。 (4)専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	共通教育科目では、幅広い教養を身に着けるために宗教科目や「人間の尊厳」科目、基盤・学際科目などを配置するとともに、コミュニケーション能力を養うために英語や中国語、インドネシア語の科目を配置している。学科の初年次教育では、アジアを総体として理解するために、「入門演習」および「アジア学入門」科目を配置している。2年次では、日本との関係性を視野に入れてアジアを理解するために「アジアと日本」を配置し、欧米諸国との関連性も視野に入れるために学部共通科目を配置している。また外国語運用能力を伸長させるために中国語とインドネシア語の中級科目を配置している。3年次以降では、各専攻で地域研究を行うための科目を配置している。このように科目配置や配当年次はカリキュラムポリシーと整合している。(4-③-1)	演習科目を1年次から4年次まですべての学年に配当しており、初年次の「入門演習」、2年次の「基礎演習」から3年次・4年次の各演習科目へと発展する流れができています。加えて講義科目として初年次に「アジア学入門」、2年次に「アジアと日本」を配置してアジアに関する基本知識の涵養を目指すとともに、演習科目におけるプレゼンテーションや討論の水準の向上を図っており、演習科目と講義科目の連携がとれている。	特になし。	[A]	特になし。	『授業科目履修案内「履修要項」』(4-③-1)			
		④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1)留学プログラムの充実 【2018年度学長方針】 (2)学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法 (3)学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導 (4)研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施 (5)専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施	従前のアジア言語実習科目を発展させて2017年度から海外フィールドワーク科目を配置して原則として学生全員が参加する形態とした。 (4-④-1) 履修年次は2年生であるので2018年度にその第1回を台湾(輔仁大学)とインドネシア(サナタダルマ大学)とで実施した。学生の主体的授業参加を促すために演習科目や外国語科目はもちろんのこと、講義科目においても発問、討論、リアクションペーパー、Webclassなど各科目に適した方法を用いて双方向の授業ができるよう、学科会議において各教員に要請している。	海外フィールドワークに参加した2年生から次年度に長期留学をするための手続きをしたいとの申し出があった。またWebclassを利用する教員が増えた。海外フィールドワークから長期留学へとステップアップする流れを継続して維持したいと考えており、これまでのところは順調に推移している。(4-④-2)	Webclassの利用が一部の教員にとどまっている。またその利用も機能の一部に限られていて学生へのフィードバックが十分とはいえない。その利用が効果的であると思われる科目についてはWebclassの利用をさらに促進していきたい。	[A]	学科で実施している留学説明会への学生の参加をさらに促して長期留学者を増やす。  Webclassについては、学科会議の場で2018年度ならびに2019年度の活用状況の情報共有を図り、利用の促進につなげる。	『授業科目履修案内「履修要項」』(4-④-1)、『海外フィールドワーク(言語実習)参加者の長期留学』(4-④-2)			



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式1（基準4）教育課程・学習成果

学部・学科/研究科・専攻		アジア学科		氏名		中 裕史					
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展策	根拠資料	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況（○/×）	達成できていない理由（×の場合理由を記載）
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評価の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが継続した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。				
⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1)成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 (2)学位授与に係る責任体制 (3)研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置	1年次の中国語およびインドネシア語科目の定期試験については、同一範囲、同一問題、同一基準で評価しており、客観性と厳格性は担保しているものと考えている。また、卒業論文作成の指導は各指導教員に委ねているが、評価にあたっては毎年学科において判定会議を行って、担当教員以外の視点からの評価も加えて客観的、総合的な判定を行っている。また判定会議において優秀と認められた卒業論文は『卒業論文優秀作品集』として編集し、冊子体の形にまとめている。（4-⑤-1）	1年次の中国語は1科目を複数クラスで開講しているが、学生の成績は客観的かつ厳格に行っている。2年次の習熟度別クラス編成の際に適切にクラスの振り分けができていない。卒業論文についても複数教員の評価を加味することで適切に判定が行えている。	特になし。	[A]	卒業論文については手引きを配布して形式面での統一を図っているが、なお一部に形式面での不統一等が見られるので、統一した書式をファイルで配布することを検討する。	卒業論文優秀作品集（4-⑤-1）				
⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)学習成果の測定をどのような方法で行っているか。（例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。）	1年次の中国語およびインドネシア語科目については各クォーター定期試験の正答率をみることで、全体の達成度や満足度は大学で実施している学生による授業評価によって確認している。（4-⑥-1、4-⑥-2）	必修あるいは選択必修科目として配置している中国語科目およびインドネシア語科目では筆記試験を実施しているため、会話・文法・語彙それぞれに到達度を見て取ることができている。	3年次以降の中国語科目およびインドネシア語科目は選択科目として配置しており、学科生のすべてが履修しているわけではないため、履修していない学科生の到達水準を把握できていない。中国語およびインドネシア語については、1、2年次生のみならず、上級生も含めて到達度を把握できるように努めたい。	[B]	検定試験の合格状況についてアンケート等を行うことにより、学科生の到達水準の把握に努める。	『2018年度アジア学科中国語・インドネシア語定期試験正答率』（4-⑥-1）、『南山大学「学生による授業評価」』（4-⑥-2）	3年次以降の中国語科目およびインドネシア語科目は選択科目となっているために、履修していない学科生の到達水準を把握できていないという問題に対して、カリキュラムの再編も含めて、改善措置を講じる必要があると思います。	学生の外国語運用能力を把握するためには、客観的な物差しとして中国語検定やHSK等の外部試験の合格状況を報告させることと、各ゼミにおいて外国語文力の確認することとをともに実施することである。19年度は、授業期間も終わりに近づいているが、各ゼミの担当教員を通じて、これに関する学生の状況を年度末の学科会議で報告できるように準備を進める。また20年度以降については、外部試験の実施日を見ながら適切な時期にアンケートを行うとともに、ゼミ担当教員からの報告と合わせて学科会議で到達水準の共有とする。	○	
⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。 (2)カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	ディプロマ・ポリシーに定める修得すべき知識と能力については、おもに年度初めの学科会議の場において、学科の目的に照らして適切であるかどうか、また、学科生の到達度がどの程度であったか等を中心に検証している。カリキュラム・ポリシーと授業の整合性については、おもに秋学期の時間割編成の段階において、学科会議の場でカリキュラム・ポリシーに則って配置している科目が適切に開講、運用されているかどうかを確認するとともに、年度初めの学科会議において、学科科目の配置がディプロマ・ポリシーに掲げる能力を養成するためのものとして適切であるかどうかを検証している。	特になし。	特になし。	[A]	特になし。					



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式1（基準4）教育課程・学習成果

		学部・学科/研究科・専攻	法学部		氏名	伊藤 司									
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策		根拠資料							
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。						
基準4	教育課程・学習成果	② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。  法学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (2) 学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3) 研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮。 (4) 専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	法律学科のディプロマ・ポリシーでは、五つの能力を身につけた学生に対し、学位（法学）を授与すると定める。 カリキュラム・ポリシーでは、これらの能力を養成するため、共通教育科目、学科科目を配置すると定める。学科科目では、1年次に、基本六法のうち、憲法・民法・刑法に関する科目を配し、2年次以降では、これらの科目を含め、基本六法を中心に、先端的な法分野に関する科目を配している。これらの講義科目と各学年で開講される演習科目をもって、前述の五つの能力を修得することとなっている。	特になし。	法律学科は、2019年度入学者が2年次に進級する2020年度から、従来の1コース制、3つの履修モデルのカリキュラム体系から、2コース制に変更される。 カリキュラム・ポリシーでは、この履修モデルについての記載がある。そこで、このコース制の導入を踏まえ、カリキュラム・ポリシーの改定を行う必要がある。	B	特になし。	2018年度に議論した内容を踏まえ、教授会で審議のうえ、2019年9月までに、コース制を前提としたカリキュラム・ポリシーの改定を行う。	カリキュラム・ポリシー					
	③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1) 開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2) 学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3) 研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮。 (4) 専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	学カリキュラム・ポリシーを前提に配当科目を配している。 法律学科のカリキュラムは、共通教育科目の修得年次を意識し、1年次に配する学科科目や時間割の設定に配慮している。 また、特定のプロジェクトに集中的に取り組むことを通じて問題分析スキルや問題解決能力を涵養するための演習科目（プロジェクト研究）を開講している。 以上のように、学部ディプロマ・ポリシーに掲げる能力を養成するための指針であるカリキュラム・ポリシーに従った科目配置、時間割設定を行っていることから、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程となっている。	特になし。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	カリキュラム・ポリシー、および法学部履修要項					



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式1（基準4）教育課程・学習成果

学部・学科/研究科・専攻		法学部		氏名		伊藤 司					
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展策	根拠資料	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況（○/×）	達成できていない理由（×の場合理由を記載）
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。				
	④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1) 留学プログラムの充実 【2018年度学長方針】 (2) 学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法 (3) 学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導 (4) 研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施 (5) 専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施	2018年度に、学部のFD研修、および法務研究科との合同の検討会で、より効果的な法学教育の検討を行い、その検討結果を踏まえ、2019年度にカリキュラム改定を実施した。また、法律学科では、学習の主体的な参加を促す「プロジェクト研究」や短期の留学プログラムである「海外法文化研修」が開講されている。 2018年度では、「プロジェクト研究」を18科目、267名が履修し、「海外法文化研修」には、26名が参加している。 なお、「海外法文化研修」は、2019年度海外留学支援制度（協定派遣）学生交流創成タイプ（タイプA）の採択を得た。	特になし。	効果的な履修体系をとるためのカリキュラム改正であることを周知し、その効果が生じているかのモニタリング（具体的な数値項目としては、南山大学法務研究科への志願者の増加をその一つとして考えている）は継続する必要がある。	特になし。	2021年度に早期卒業生が誕生するよう、FD研修会資料（「法科大学院進学希望者に対する法科大学院と法学部の連携に関する調査研究報告書」（以下「報告書」という）について） 2018年7月18日FD研修会資料（「法科大学院進学希望者に対する法科大学院と法学部の連携に関する調査研究報告書」（以下「報告書」という）について）	言及がされていないので、現状の分析と今後の方針などの策定が必要かと思えます。	本学においては統一したインフラや指針がなく、かつ主要な他大学の法学部においてもシステム導入事例がないことから、現状では未検討であった。そこで、新たに司法特修コース所属の学生に対しては、事実上、憲法、民法、刑法を必修とし、それ以外の科目も体系的に履修できるように、時間割、科目の配置を整備した。行政・ビジネスコース所属の学生に対しては、従来通り自由な科目履修を行える制度を維持している。そこで、司法特修コース完成年度までは、当該コース在籍者を限定し、各学生のポートフォリオ完成進捗状況管理し、指導を試行する（卒業年次までに各自が構築過程にある「ポートフォリオ」をモニタリングし、進捗管理・指導を行う）。なお、学内システムが構築された段階で、司法特修コースで試行したポートフォリオ管理をE-ポートフォリオに移行するとともに、その対象範囲を拡大することを検討する。	○	



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式1（基準4）教育課程・学習成果

学部・学科/研究科・専攻		法学部		氏名		伊藤 司						
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策		根拠資料				
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。			
	⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1)成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 (2)学位授与に係る責任体制 (3)研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置	法律学科では、各Qで実施した定期試験の成績分布については、教授会で開示し、意見交換を行っている。また、教授会が卒業判定を行っている。	特になし。	法律学科では、成績評価に関する客観的基準を設けていない。 客観的基準を設けるべきかを含め、成績評価のあり方について、検討を行う必要がある。	B	特になし。  第198回国会に提出されている「法科大学院の教育と司法試験等との連携等に関する法律等の一部を改正する法律案」によって、「法曹コース」の創設が認められる予定となっている。また、経済界でも大学教育の品質について関心が高まっている。 そこで、卒業生の品質の確保のため、対外的に説明が行えるレベルでの「厳格な成績評価」とは何かについて、およびその実施の是非について、自己点検評価委員会を中心に議論し、2019年度中に結論を出す。	2018年7月18日 FD研修会資料 （「法科大学院進学希望者に対する法科大学院と法学部の連携に関する調査研究報告書」（以下「報告書」という）について）、法学部作成海外法文化研修パンフレット				
	⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)学習成果の測定をどのような方法で行っているか。（例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。）	講義科目は、法学的素養のうち、主として、当該科目に関する知識を踏まえた法的な論理的思考力をみるための論述試験（定期試験）によって、演習科目については、当該科目に関する知識を踏まえた法的な論理的思考力を前提とした論述力、弁論能力、交渉力をみるための論文、報告、議論を通じて、学習成果の測定を行っている。 さらに各教員が行った成績評価については、半年毎に教授会で開示され、その妥当性について、意見交換を行っている。	特になし。	特になし。	A	特になし。	2018年4月25日、10月24日実施教授会資料・議事録				
	⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。 (2)カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	2018年度に、学部のFD研修、および法務研究科との合同の検討会で、より効果的な法学教育の検討を行い、その検討結果を踏まえ、2019年度にカリキュラム改定を実施した。 そのとき、現状のディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーとの整合性を検証した。	特になし。	特になし。	A	特になし。	2018年7月18日 FD研修会資料 （「法科大学院進学希望者に対する法科大学院と法学部の連携に関する調査研究報告書」（以下「報告書」という）について）				



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式1（基準4）教育課程・学習成果

学部・学科/研究科・専攻		総合政策学部		氏名		藤本 潔									
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策	根拠資料	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況（○/×）	達成できていない理由（×の場合理由を記載）				
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、本質的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。					[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
基準4	教育課程・学習成果	② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。	ディプロマ・ポリシーに掲げる能力、すなわち文明論を踏まえた上で、国際政策、公共政策、環境政策のそれぞれの分野における専門的知識とスキルを駆使することにより、複合的な諸問題の解決に向けた政策立案能力を養成するため、カリキュラム・ポリシーでは、文明論を学びの基礎に据え、上記3分野の政策コースに対応する科目を幅広く開講することを謳っており、整合性において問題はない。	特になし	特になし	特になし	A	特になし	特になし	総合政策学部3つのポリシー http://www.nanzan-u.ac.jp/Dept/pp/policy.html 2019年度授業科目履修案内 履修要項・教職課程 187-218				
		③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1)開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2)学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3)研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮。 (4)専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	1)現状ではコース科目全てが2年次以降履修可となっているが、一部科目は基礎科目からの積み上げが必要なものもあり、履修年次について見直しを要する。授業科目、および科目の位置づけはカリキュラムポリシーと整合している。 (2)学科科目では、初年次には学びの基礎となる「文明論概論」を必修科目として配置すると共に、共通教育科目の必修科目である「宗教論」や「キリスト教概論」で文明論的視野の涵養を補うことが可能となっている。また、初年次に共通教育科目の必修外国語科目と選択必修外国語科目で現場でのコミュニケーションツールとなる語学力の基礎を涵養すると共に、2年次には専門資料の読解力やコミュニケーション力のさらなる向上を目的とした選択必修科目「総合政策外国語科目（総合政策英語または中国語）」を配置している。	特になし	コース科目の一部に履修年次の見直しを要するものがある。		B	2019年度に立ち上げるカリキュラム検討委員会（仮称）で議論する。	2019年度授業科目履修案内 履修要項・教職課程 187-190					
		④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1)留学プログラムの充実 【2018年度学長方針】 (2)学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法 (3)学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導 (4)研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施 (5)専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施	(1)共通教育の選択必修外国語科目の位置づけであったNAP（南山短期アジア留学プログラム）を2018年度から学科科目に位置づけ、語学学習と共にフィールド調査の実施を明確化した。また、学外での体験学習を目的とした「学外体験プログラム」には海外で実施するプログラムも存在する。 (2)複数の授業で演習や討論、学外授業等を取り入れて学生の主体的参加を促す工夫をしている。 (3)Webclass上に授業ファイル等を事前にアップしたり、質問に答えたりすることで、学生が主体的に学べる工夫をしている教員も徐々に増えている。	(1)NAPを学科科目の選択科目の位置付けとしたことで履修者数が減少することが懸念されたが、2018年度のNAP履修者数は108名で、2017年度の128名、2016年度の126名と比べ実数では減少したが、2年次生の学生数に対する参加比率で見ると、それぞれ35.3%、34.5%、33.6%で、むしろ増加した。 (3)Webclassへ授業資料を事前にアップしたり、Webclassを利用して質問を受け付けることで、授業評価の設問2や設問11の値が向上したと事前にアップしたり、質問に答えたりすることで、学生が主体的に学べる工夫をしている教員も徐々に増えている。	(1)7つの国・地域で実施するNAPは担当教員の確保と出張旅費の確保が大きな課題となる。現状では1カ国当たり2名の教員が担当し、事前学習と現地指導にあたるが、現地で全日程に教員が帯同できたのはベトナム、マレーシア、フィリピンの3カ国のみで、他は送迎のみの引率と増加した。そのため、フィールド調査の質的充実度は各国間で差が生じた結果となった。また、教員の出張旅費が大学から支給されないため学生の参加費に上乗せせざるを得ず、参加費が高額となる一因となった。高額な参加費は参加学生数の減少に繋がるゆゆしき問題である。	(1)参加率の増加は、入学前のオープンキャンパスや入学後のNAPの履修説明会等で、その意義や魅力について積極的に広報に努めた結果と考えられる。今後もWebやFacebook等の活用も含め、様々な方法での広報に努めたい。 (3)教授会やFD懇談会等で、Webclassの積極的利用を促したい。	(1)各年度時間割一覧の履修者数、学部事務室保管NAP経費関連資料。 (2)例えば「環境調査法」「総合演習」等のシラバス (3)例えば「学生による授業評価」のまとめ 2017年度第3号 第4号 第5号 第6号 第7号 第8号 第9号 第10号 第11号 第12号 第13号 第14号 第15号 第16号 第17号 第18号 第19号 第20号 第21号 第22号 第23号 第24号 第25号 第26号 第27号 第28号 第29号 第30号 第31号 第32号 第33号 第34号 第35号 第36号 第37号 第38号 第39号 第40号 第41号 第42号 第43号 第44号 第45号 第46号 第47号 第48号 第49号 第50号 第51号 第52号 第53号 第54号 第55号 第56号 第57号 第58号 第59号 第60号 第61号 第62号 第63号 第64号 第65号 第66号 第67号 第68号 第69号 第70号 第71号 第72号 第73号 第74号 第75号 第76号 第77号 第78号 第79号 第80号 第81号 第82号 第83号 第84号 第85号 第86号 第87号 第88号 第89号 第90号 第91号 第92号 第93号 第94号 第95号 第96号 第97号 第98号 第99号 第100号							



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式1（基準4）教育課程・学習成果

		学部・学科/研究科・専攻	総合政策学部		氏名	藤本 潔							
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展策		根拠資料					
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。				
	⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1)成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 (2)学位授与に係る責任体制 (3)研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置	(1)成績評価の基準はそれぞれの科目のシラバスに具体的に記載されている。各科目の成績評価結果（成績分布）は学期毎に教授会の報告資料として公表し、教員相互による確認を行っている。 (2)学位授与に関わる卒業判定は教授会審議事項であり、適切に行われている。	特になし	複数の教員が共通した内容を講義する科目で、担当者間で成績分布にばらつきが見られる科目がある（例えば「総合政策基礎演習」など）	B	特になし	成績分布のばらつきが一定の範囲内に収まるよう、評価基準について担当者間で共有する場を設ける。	(1)2018年10月10日、2019年5月15日教授会報告資料 (2)2018年6月27日、7月11日、2019年3月1日教授会審議資料	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況（○/×）	達成できていない理由（×の場合理由を記載）
	⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)学習成果の測定をどのような方法で行っているか。（例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。）	学習成果を測定するための特別の調査は行っていないが、卒業論文によって、その到達度を評価している。	特になし	客観的な学習成果の測定法は定められていない。	B	学習成果の客観的測定が可能か否かについて、学部懇談会等で検討を行う。	学生の学習成果について、客観的測定の可能性を検討することになるので、できるだけ早急の検討を期待します。	まずは春学期中に学部懇談会等で検討を開始する。	○			
	⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。 (2)カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	2017年度に改正したディプロマ・ポリシーについてはまだ卒業生が出ていないため検証の段階にない。カリキュラム・ポリシーについては、2019年度にカリキュラム検討委員会を立ち上げ、科目配置や履修年次について検討を開始した。	特になし	現段階ではディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについての検証、カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性についての検証は行っていない。	B	担当者会議等で浮上してきた問題点やディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーとの関係も含め、2019年度にカリキュラム検討委員会（仮称）を立ち上げ全体的な議論に入ると共に、FD活動の一環として懇談会等の機会に議論していく予定である。	2019年6月12日第1回カリキュラム検討委員会議事メモ					



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式1（基準5）学生の受入

学部・学科/研究科・専攻		人間文化研究科		氏名		西江 清高								
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策	根拠資料							
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な案数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。					
基準5	学生の受け入れ	② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。	(1) 留学生の受入れを促進するための制度改革をしているか。【2018年度学長方針】	人間文化研究科委員会において入試種別改革等の方向性について、学長方針を踏まえて、さまざまな可能性について認識を共有しているが、具体的な検討にはいたっていない。	特になし	学長方針に従って、全学的な方針とのすり合わせをおこないながら2019年度中に検討をはじめ。人間文化研究科では、4つの専攻によって留学生受入の事情も大きく異なるものがあり、受入を促進する方向性については共通認識としながら、各専攻ごとに特色ある方策を検討するようにしたい。	B	特になし	留学生受入の方策について、2019年度中に人間文化研究科の4つの専攻でそれぞれで検討をはじめ。全学の方針とのすり合わせも重要である。	具体的な検討が必要だと思います。	広報面と制度面とで、どのようなことが考えられるのか、2020年度には具体的な検討をはじめたい。関連して専攻主任会議で出された意見として、9月入学の留学生に対しても日本語教育クラスの設置ができないかということがある。2020年度には研究科で検討して関係部署とも相談してみたい。	×	留学生受け入れに向け、各専攻における具体的な検討案を詰め、成案を得るにいたらなかった。キリスト教思想・宗教思想専攻や言語科学専攻では、一定数の留学生在学しており、引き続き受け入れ強化を目指したい。教育ファシリテーション専攻は、おもに教職にある社会人を念頭においた課程でもあり、留学生受け入れに注力することは難しい面がある。	
		③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1) 研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか。【2018年度学長方針】	(1) 設定した定員に対して学生数はあきらかに少ない。これまでも「広報」に力を入れるという認識できたが、十分な結果を出していない。	特になし	(1) 入学者を増やすための方策を具体的に検討する。従来よりも幅広い見地から志願者数減少の原因をさぐり、可能な打開策を検討する。	C	特になし	(1) 積極的な広報への取り組みを続けるほか、学部との連携、他大学への広報、外国人留学生増加にむけた方策などを、2019年度中に専攻主任会議、人間文化研究科自己点検・評価委員会等で検討する。各専攻での個別的事項と研究科共通の問題を区別しながら具体的な議論を進める。	入学者を増やす取り組みについて、データに基づいた分析と検討が必要だと思います。	人間文化研究科委員会や専攻主任会議において協議として取り上げることがあり、構成員共通の問題意識となっている。2020年度には、過去の入学者動向についてのデータを整理し、広報面と制度面とでどのようなことが考えられるのか、検討をはじめたい。なお広報面に関連して、各専攻のWEBページに、より多くの教員情報や学術情報などを掲載するなどの意見が出されており、検討材料の一つとなっている。	○	入学者増に向けた取り組みの具体的な方策として、人間文化研究科では、博士前期課程・博士後期課程それぞれを1年で修了できる制度を整える作業を2020年度に進めた。博士後期課程については、受け入れ体制はいったん整ったと判断する。博士前期課程については、執行部と協議継続中であり、2021年度中に制度を整えたいと考えている。また、2020年7月および2021年2月に行った入試では、研究科全体であわせて、2020年9月入学生が前期・修士は受験者4名、合格者1名、後期は受験者1名、合格者1名、また2021年4月入学生が、前期・修士は受験者21名、合格者14名、後期は受験者4名、合格者1名、また2021年9月入学生が前期・修士・後期とも受験者0名であった。このように、定員には満たないが、志願者・受験者・合格者は増加の傾向にある。人類学専攻では、博士後期課程の夏季での一般入試で9月入学が可能となる追加措置を行い、また、志願者確保に向けてより広い領域を教育できるよう研究指導担当教員体制の拡充も行った。今後も、研究科として各専攻とともに可能な方策を検討していきたい。	
		④ 学生の受け入れの適切性について定期的な点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。	人間文化研究科の一般入学試験、社会人入学審査にあたっては、アドミッション・ポリシーにあるように、書類審査と口述試験が重要な役割を果たしている。ここでは単に学力のみならず本学大学院の教育モットーをはじめとして入学志願者が、人間文化研究科の特徴を十分理解しているのかを確認している。また、全学的におこなっているように、人間文化研究科でも年に2回の入試説明会を開催し、ここで入学希望者に対して、本学のアドミッション・ポリシーを丁寧に説明している。しかしこれまでに、実際に入学した学生を対象に諸々のデータを踏まえて、入学者の傾向の把握や分析をおこなったことはない。	特になし	(1) 学内推薦、一般入学試験入学、社会人入学審査入学者等の傾向などについて、入手可能なデータをそろえて専攻主任会議、人間文化研究科委員会等で検討し、アドミッション・ポリシーについて検証する。	B	特になし	(1) 各種入学試験、入学審査を経て入学した学生の傾向の把握や分析をすすめてアドミッション・ポリシーと実際の入学者との状況について、2019年度には各専攻別のデータを持ち寄りながら専攻主任会議、人間文化研究科委員会等で検討をはじめ。					



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式1（基準6）教員・教員組織

学部・学科/研究科・専攻		キリスト教思想専攻		氏名		坂下 浩司								
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展策		根拠資料						
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S]極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A]良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B]軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C]重度な問題があり、本質的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	[1]記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。					
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1)人事計画に沿った教員の組織編制ができています。	本専攻は、神学・哲学・宗教学の3領域をバランス良く教育できるようにすることが教員組織の編成方針であるが、2017年度末においては、神学領域で2名不足している研究指導担当教員、また、不開講であった神学（倫理神学と実践神学）と哲学（教父思想）の講義担当者を立てる必要があった。そこで、2018年度の人事は、神学領域の研究指導教員1名、講義担当教員2名を計画した。	2018年度の人事到達目標の、神学領域の研究指導教員1名、講義担当教員2名のうち、神学領域の研究指導担当教員1名の人事を起し、認められた。2018年度の到達目標は、神学領域の研究指導教員については1名であったから、目標は達成された。	2018年度の人事到達目標の、神学領域の研究指導教員1名、講義担当教員2名のうち、講義担当2名の人事は、書類の準備はしたものの、前年提出した再課程認定の書類との関係で今年度は人事を起すことは適切ではないことが判明し、断念せざるをえなかった。2018年度の到達目標は、講義担当教員については、2名であったから目標は達成されなかった。	B	神学領域の研究指導教員の残り1名の人事を起し認められることを発展方策の到達目標とする。2019年度中に、専攻主任と業績審査委員会が、新内規や学則などに準拠して行う。	不開講であった神学（倫理神学と実践神学）と哲学（教父思想）の講義担当2名の人事を起し認められることを改善方策の到達目標とする。2019年度中に、専攻主任と業績審査委員会が、新内規や学則などに準拠して行う。	専攻会議議事録、研究科委員会議事録、大学院委員会議事録。	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況（○/×）	達成できていない理由（×の場合理由を記載）
		④ ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1)どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。（学部/研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要がある。）	毎年12月のクリスマス頃に「教員相互交流学際研究会」（博士前期・後期共同開催）を、6月の最終木曜日に「今キリスト教思想・宗教思想専攻の教員が考えていること」（博士前期・後期共同開催）という「FD活動」を実施している。その結果を、教員の研究・教育を互いに知り理解することや、自分自身の研究・研究のヒントを得ることに活用している。しかし、どう活用しているかの詳細は不明である。	「教員相互交流学際研究会」が、2016年度の12月から、「今キリスト教思想・宗教思想専攻の教員が考えていること」が、2018年度の6月から、継続して開催できている。継続して両研究会を開催することが到達目標であるから、この目標は達成されている（客観的証拠：両研究会記録、参加者名簿、告知ポスター・ちらし）。	両研究会の後に、研究会の結果をどう活用しているか明らかにすることを到達目標とすると、この目標は達成されていない。	A	特になし。	両研究会の後に、研究会の結果をどう活用しているか明らかにすることを到達目標とし、2019年度中に、専らし。	両研究会記録、参加者名簿、告知ポスター・ちらし。	年に2回行われる教員同士の研究交流は有益なので、その成果を教育研究に還元するサイクルを構築してほしいと思います。	2019年度以降、教員相互交流学際研究会の成果を教育研究に効果的に還元するサイクルの構築を検討しはじめる。	○	
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	教員組織の編成方針とFD活動の適切性については、年度の初めとおわりに、専攻の自己点検評価委員会の点検と議論を通じて、検証を行っている。	教員組織の編成方針とFD活動の適切性については、年度の初めとおわりに、専攻の自己点検評価委員会の点検と議論を通じて、検証を行うことを到達目標としており、この目標は達成されている（客観的証拠：自己点検評価委員会議事録）。	特になし。	A	特になし。	特になし。	自己点検評価委員会の議事録				



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式1（基準4）教育課程・学習成果

		学部・学科/研究科・専攻	宗教思想専攻		氏名	坂下 浩司							
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策		根拠資料					
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S]極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A]良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B]軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C]重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。				
基準4	教育課程・学習成果 ② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。	本専攻の「ディプロマ・ポリシー」（以下DP）では、「以下の力を身につけた者に博士（宗教思想）の学位を授与」するとしており、その能力それぞれを修得するための科目を「カリキュラム・ポリシー」（以下CP）において次のように明記している。すなわち、まず、DPの「神学、哲学、宗教学に関する文献の読解力と豊かな学識を持ち、これら3領域の学際的な相互理解に関連する研究を遂行する力」のために、CPでは、「専門科目では、神学領域と哲学領域と宗教学領域の3領域に関する科目を配置します」とし、「神学領域」では「宗教思想特殊研究（神学）A」「宗教思想特殊研究（神学）B」、「哲学領域」では「宗教思想特殊研究（哲学）A」「宗教思想特殊研究（哲学）B」を、宗教学領域では「宗教思想特殊研究（宗教学）A」「宗教思想特殊研究（宗教学）B」を「配置」することを明記している。以上から、本専攻において、DPとCPは整合している。	特になし。	CPにおける「研究指導科目」に対応する直接的な規定（たとえば「前記の力に基づき宗教思想に関わる専門的な博士論文を具体的に作成する力」といった規定）が、DPに存在しない。	B	CPにおける「研究指導科目」に対応する直接的な規定（たとえば「前記の力に基づき宗教思想に関わる専門的な博士論文を具体的に作成する力」といった規定）を、DPの能力列挙の箇所に付加するかどうか、2019年度中に、専攻会議において、CPを一部書きかえるか検討する。	本専攻HP（http://www.nanzan-u.ac.jp/grad/m_hc/index.html）（現状の説明のDPとCPの内容上の整合性の根拠資料）、専攻の自己点検・評価委員会議事録（整合性の根拠となる会議体の根拠資料）。	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況（○/×）	達成できていない理由（×の場合理由を記載）	
	③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1)開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2)学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3)研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮。 (4)専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	(1)開設している授業科目とCPとが、整合していることは、毎年、春と秋に、自己点検・評価委員会において点検・評価している（根拠資料：専攻の自己点検・評価委員会の議事録）。（3）本専攻は、講義科目（専門科目）というコースワークと、研究指導科目というリサーチワークの両方を開設しており、しかも、コースワークの知識を生かしてリサーチワークがするように、研究を指導しており、そのようにできているかどうか配慮するため、「合同ゼミ」（キリスト教思想・宗教思想共同開催）での院生の発表や質疑応答を通じて、専攻の全メンバーが点検・評価している（根拠資料：「合同ゼミの諸記録」）。	(1)の点について、継続的に、自己点検・評価委員会において、点検・評価できている。（3）の点についても、「合同ゼミ」がうまく機能し博士論文の作成・指導に寄与している。	特になし。	A	(1)の点について、今後も、継続的に、自己点検・評価委員会において、点検・評価をおこなわないことを、到達目標にし、2019年度において、専攻のメンバー全員によって、行う。（3）の点について、2019年度中に、「合同ゼミ」の、特に「中間発表会」の時の記録を、現在より詳細に残し（発表者および教員、参加した院生などにアンケートをとって、最終的に、論文の審査教員に、「合同ゼミ」の経験が活かされているか、また、「合同ゼミ」の時よりも研究が進んでいるか、これもアンケートをとって、この点について、自己点検・評価委員会において、専攻のメンバー全員によって、点検・検証する。	特になし。	専攻の自己点検・評価委員会の議事録（（1）の根拠資料）、「合同ゼミ」の諸記録（（3）の根拠資料）。	今後、「合同ゼミ」がコースワークとリサーチワークの適切な組み合わせによる教育にどの程度立っているかを検証する必要があります。	2020年度以降の自己点検・評価委員会にて、「合同ゼミ」が、コースワークとリサーチワークの適切な組み合わせによる教育にどの程度立っているのかの検証について検討しはじめる。	○	
	④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1)留学プログラムの充実 【2018年度学長方針】 (2)学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法 (3)学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導 (4)研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施 (5)専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施	(1)本専攻には、「留学プログラム」といったものはないが、短期留学や長期留学の経験のある教員が所属しているため、希望のある院生に相談にのることが可能である（根拠資料：本専攻HP）。（2）本専攻においては、テキストの読解が大きなウェートを授業において占めるが、これは院生が一言一句をおろそかにしない主体的な予習をしてからの参加を必要とするものである（根拠資料：本専攻HP）。（4）研究指導計画の内容については、CPにおいて、「博士論文の完成に向けて、博士論文のテーマ、文献調査や実地調査の仕方、研究計画の立て方、文献目録の作成、各章の具体的な執筆や構成などに関して指導を行います。加えて、学会での口頭発表や論文投稿など、個別の課題に対しても指導教員の指導を行います」と明示している。また、本専攻では、毎年、年度初めに、院生から「研究計画予定表」を提出させており、指	(4)について、「研究計画予定表」を、2018年度に、「新入生学や長期留学の経験のある教員が所属している」と「在学生用」の2種類用意するように改善した（2017年度までは1種類しかなく特に新入生から「書きづらい」という感想が寄せられていた）。	(1)について、どの教員が、どのような留学経験があり、どのような経験をしたかを話せるかは、すぐには分からない状態であった。	B	(4)について、「学修および研究計画書」のフォーマットを、2019年度中に、専攻のメンバー全員によって、自己点検・評価委員会において、さらに点検し、バージョンアップさせる。	(1)について、どの教員が、どのような留学経験があり、どのような経験をしたかを話せるかについて、調査し、一覧表を作って、院生に配布する。この調査と一覧表作成を、2019年度中に、自己点検・評価委員会において、行い、2020年度春から、院生に、ガイダンス時に配布できるようにする。	本専攻HP（http://www.nanzan-u.ac.jp/grad/m_hc/index.html）（（1）委員会の、（2）の根拠資料）、「研究計画予定表」のフォーマット（2017年度版、および、2018年度版）（（4）の根拠資料）。				



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式1（基準4）教育課程・学習成果

学部・学科/研究科・専攻		宗教思想専攻		氏名		坂下 浩司						
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策		根拠資料	内部保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況（○/×）	達成できていない理由（×の場合理由を記載）
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S]極めて良好な状態にあり、取り留めが過ぎた水準にある [A]良好な状態にあり、取り留めが概ね適切である [B]軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C]重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。				
⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1)成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 (2)学位授与に係る責任体制 (3)研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置	(1)成績評価の客観性、厳格性を担保する措置としては、「複数指導教員体制」、春と秋の原則年2回の「合同ゼミ」での通常のゼミの外での「発表」と「指導教員以外の教員との質疑応答」を挙げることができる（根拠資料：「合同ゼミ」記録）。（2）（3）学位論文の審査基準については、「学位規程」がWebで公開されており（根拠資料： <a href="https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/pdf/d4340.pdf">https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/pdf/d4340.pdf</a> ）、「審査基準」も、「履修要項」に記載されており、Webで公開されている（根拠資料： <a href="http://office.nanzan-u.ac.jp/KYOUUMU/item/2018_6100.pdf">http://office.nanzan-u.ac.jp/KYOUUMU/item/2018_6100.pdf</a> ）。学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置としては、専攻会議、研究科委員会での公正かつ適切な審議の実施を挙げることができる。	(1) 専攻において「複数教員指導体制」が維持され、「合同ゼミ」での「発表」と「指導教員以外の教員との質疑応答」も定期的の実施できている。（2）（3）学位授与に係る責任体制、審査および修了認定のための専攻会議、研究科委員会での審議も、公正かつ適切に審議できている。	特になし。	A	「複数教員指導」の新しい実現形態として「合同ゼミ」後に時間をとって教員間での院生の「研究能力・研究到達度評価の意見交換」をすることを「到達目標」とする。「合同ゼミ」出席の専攻のメンバー全員で、2019年度中に行う。	特になし。	「学位規程」 ( <a href="https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/pdf/d4340.pdf">https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/pdf/d4340.pdf</a> )（（3）の根拠資料）、「審査基準」 ( <a href="http://office.nanzan-u.ac.jp/KYOUUMU/item/2018_6100.pdf">http://office.nanzan-u.ac.jp/KYOUUMU/item/2018_6100.pdf</a> )（（3）の根拠資料）、「合同ゼミ」記録（キリスト教思想合同研究室保存） （（1）の根拠資料）。				
⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)学習成果の測定をどのような方法で行っているか。 (例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。)	春学期末と秋学期末の「院生授業アンケート」によって行っている。その結果を、専攻の自己点検・評価委員会と共有し評価している。しかし、DPの「神学、哲学、宗教学に関する文献の読解力と豊かな学識を持ち、これら3領域の学際的な相互理解に関する研究を遂行する力」についてのアンケート項目はない。	特になし。	春学期末と秋学期末の「院生授業アンケート」に、DPの「神学、哲学、宗教学に関する文献の読解力と豊かな学識を持ち、これら3領域の学際的な相互理解に関する研究を遂行する力」についてのアンケート項目を作るべきである。	B	特になし。	春学期末と秋学期末の「院生授業アンケート」に、DPの「神学、哲学、宗教学に関する文献の読解力と豊かな学識を持ち、これら3領域の学際的な相互理解に関する研究を遂行する力」についてのアンケート項目を作ることを、「到達目標」とする。2019年度中に、専攻主任が、アンケート・フォーマットに加筆する案を作成し、専攻の自己点検・評価委員会にて検討・審議した上で確定する。そして、実施し、結果を、専攻のメンバー全員で検討し共有する。	院生授業アンケート・フォーマット、および、結果。				
⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。 (2)カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1)2017年度に改正したDP、CPについては、専攻の自己点検・評価委員会を通じて、DP、CPの規定をつきあわせて点検・検証している（根拠資料：専攻の自己点検・評価委員会の議事録、専攻のDP、CP）。（2）CPと授業科目の整合性については、専攻の自己点検・評価委員会を通じて、CPと授業科目一覧をつきあわせて点検・検証している（根拠資料：CP、授業科目一覧表）。	(1)と(2)について、点検と検証が、専攻の自己点検評価委員会を通じて、定期的にできている。	特になし。	A	特になし。	特になし。	専攻の自己点検・評価委員会の議事録 （（1）（2）の根拠資料）、専攻のDP、CP（（1）の根拠資料）、CP、授業科目一覧表（（2）の根拠資料）				



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式1（基準4）教育課程・学習成果

学部・学科/研究科・専攻		人類学専攻		氏名	渡部 森哉								
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策	根拠資料	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況（○/×）	達成できていない理由（×の場合理由を記載）		
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評価の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。					[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
基準4	教育課程・学習成果 ② 授与する学位ごとに、教育課程の編成・実施方針を定め、公表しているか。	(1) ディプロマ・ポリシーとカリキュラム・ポリシーが整合しているか。	人類学専攻博士前期課程のディプロマ・ポリシーでは「・文化人類学、考古学、文化資源学に関する専門的な知識、・社会の変化や文化の多様性を適確に捉え、研究資料の資源化・公共化を図る姿勢・資質と社会で活躍できる力」を備えた者に学位を与えることを明示し、そのための教育内容をカリキュラム・ポリシーで説明している。「研究成果は学界固有の財産にとどまるのではなく公共的なものである」とする考えの下、文化人類学と考古学の両領域の学生が学ぶ必修科目として、文化資源学研究を必修科目として位置づけている。人類学専攻博士後期課程のディプロマ・ポリシーでは「・異文明や異文化間の対話を促進し、相互理解に貢献する能力 ・文化や歴史に対する深い洞察力 ・フィールドワークや発掘調査による資料収集能力 ・収集した膨大な資料を忍耐強く整理・分析し、博士論文として完成させる能力」を有する者に学位を授与することを示している。そのためのカリキュラムとして、文化人類学、考古学の他、2領域を横断する地域研究からなる人類学特殊研究を配置している。（4-②-1）	特になし。	履修要項には副領域制度について説明されているが、カリキュラム・ポリシーでは説明されていない。（4-②-2）	B	特になし。	変更可能な場合、2020年度からカリキュラム・ポリシーに副領域制度について明記する。	4-②-1「人類学専攻 3つのポリシー」 <a href="https://www.nanzan-u.ac.jp/grad/m_ha/policy.htm">https://www.nanzan-u.ac.jp/grad/m_ha/policy.htm</a> 人類学専攻履修要項 4-②-2「大学院学生便覧2018」				
	③ 教育課程の編成・実施方針に基づき、各学位課程にふさわしい授業科目を開設し、教育課程を体系的に編成しているか。	(1)開設している授業科目が、科目の位置付け、配置年次などを含め、カリキュラム・ポリシーと整合しているか。 (2)学部は、初年次教育、共通教育科目と専門科目の連携。 (3)研究科は、コースワークとリサーチワークを適切に組み合わせた教育への配慮。 (4)専門職大学院は、理論教育と実務教育の適切な配置。	(1)博士前期課程、後期課程ともにカリキュラム・ポリシーに従い、科目を編成している。また毎年度適切な科目配置になるよう、カリキュラム改正を検討している。 (3)博士前期課程、後期課程ともに講義系の専門科目と研究指導科目を関連づけながら教育を行っている。（根拠資料4-③-1）	特になし。	現在の研究状況に照らし合わせ、専門科目の中に名称変更をした方がよいものもある。	B	特になし。	人類学専攻では2020年度からカリキュラム改正を行う。	根拠資料4-③-1「2018年度人類学専攻会議議事録」	カリキュラム改正は望ましいことだが、「名称変更」をするのみか、改正を必要とする問題点を明確にする必要があります。	2020年度のカリキュラム改正は科目の「名称変更」のみである。学生によりわかりやすい科目名称にすること、現在の研究状況に照らし合わせてより適切な科目名称にすること、実態と合わせた科目名称にすること、を行った。	単なる科目名称変更ではなく、カリキュラムポリシーを理解しやすいように、文化人類学領域、考古学領域の科目群の対応関係なども考慮して変更を行った。	
	④ 学生の学習を活性化し、効果的に教育を行うための様々な措置を講じているか。	(1)留学プログラムの充実【2018年度学長方針】 (2)学生の主体的参加を促す授業形態、授業内容および授業方法 (3)学部は、e-ポートフォリオやWebclassなどによる履修指導 (4)研究科は、研究指導計画の明示とそれに基づく研究指導の実施 (5)専門職大学院は、実務的能力の向上を目指した教育方法と学習指導の実施	(1)中国を専門とする学生は、現地の大学で研修生として学んでいる。 (2)授業の多くは少人数であるため、教員と学生の間で密接なやりとりが行われている。 (4)毎年度開催される人類学専攻の合同研究会で研究発表することで、指導教員、副指導教員のみならず、全教員が各学生の研究の進捗状況を把握している。博士前期課程の学生は、春学期に1回、秋学期に1回発表し、研究の進捗状況を報告している。博士後期課程については「1年次から最終年次にわたって毎年1回、通算3回以上の研究発表をおこない、さらに博士論文の中間審査を受けなければならない。ただし、2年修了の場合には研究発表を2回以上とする。」としている。（根拠資料4-④-1）	特になし。	(4)他の会議とのバッティングのため全教員が全ての大学院生の研究発表を聞くことが難しくなっている。	B	特になし。	年度初めの早い時期に合同研究会の日程を決め、他の会議とのバッティングを避けるようにする。	根拠資料4-④-1「課程博士論文提出資格に関する申し合わせ（2014年度）」、「2019年度 南山大学大学院人間文化研究科人類学専攻ガイダンス」配付資料『南山考人』の巻末の記録				



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式1（基準4）教育課程・学習成果

学部・学科/研究科・専攻		人類学専攻		氏名	渡部 森哉							
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展策	根拠資料	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況（○/×）	達成できていない理由（×の場合理由を記載）	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。					[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
⑤ 成績評価、単位認定及び学位授与を適切に行っているか。	(1)成績評価の客観性、厳格性を担保するための措置 (2)学位授与に係る責任体制 (3)研究科は、学位論文審査基準、学位審査および修了認定の客観性および厳格性を担保する措置	(1)学位論文の審査は、5名で行い、できるだけ客観性を保つようになっている。 (2)大学院学則、および「南山大学学位規程」に定める要件および手続きに従い、人間文化研究科による審査を経て、学長が決定している（4-⑤-1）。 (3)学位論文の判断基準は「大学院学生便覧 2018」に明記してある。また人類学専攻で「課程博士論文提出資格に関する申し合わせ」を2014年度から運用し、それに則って博士論文の審査を行っている（4-⑤-2）。	特になし。	(3)「人間文化研究科人類学専攻」は、課程博士論文提出に関わる資格に関してこの申し合わせを定め、2014年度から試行的に実施する。その後一定期間の試行をへて問題点を修正し、内規として制定することとする。」とあり、内規として制定するタイムスケジュールを決める必要がある。	B	特になし。	2019年度に2名の学生が博士論文を提出予定であるので、その結果を踏まえ、申し合わせを修正し、内規として制定する手続きを進める。	4-⑤-1「南山大学学位規程」 <a href="https://office.nanzan.ac.jp/univ/somu/kitei/daijaku/dpart4/d4340.pdf">https://office.nanzan.ac.jp/univ/somu/kitei/daijaku/dpart4/d4340.pdf</a> 4-⑤-2「課程博士論文提出資格に関する申し合わせ」	「課程博士論文資格に関する申し合わせ」の内規化を検討するにあたり課程博士論文提出に関する資格についてどのような問題があるのかを明確にする必要があると思います。	2019年度に課程博士論文が2本提出される。2014年度から試行的に実施している「課程博士論文提出資格に関する申し合わせ」に従って計4本の博士論文が提出されることになる。これまでの経緯を踏まえ、人類学専攻の問題点を洗い出して、内規制定に反映させる予定である。	×	2020年度に博士後期課程を最短1年で修了できる制度を整えた。これを踏まえて、課程博士を標準年限で修了するか、あるいは短縮して修了するか、あるいはこの基準を設定する必要がある。これについては2021年度以降に検討して「課程博士論文資格に関する申し合わせ」に反映させる。内規化するかどうかは、人間文化研究科の他専攻とも相談して決定する。
⑥ 学位授与方針に明示した学生の学習成果を適切に把握及び評価しているか。	(1)学習成果の測定をどのような方法で行っているか。（例えば、アセスメントテスト、ルーブリックを活用した測定、学生調査など。）	(1)博士前期課程、後期課程ともに『南山考人』などへの投稿論文の内容を精査し、評価している。 教員が院生の合同研究会での発表を聞き、その内容について意見交換をし、評価している。 修士論文を5名で審査することにより、審査の客観性を担保している。（根拠資料4-⑥-1）	特になし。	博士前期課程の学生については、投稿論文が少ない。	B	特になし。	合同研究会の院生の発表後の教員間の話し合いで、意見交換をし、指導教員を通じて投稿を促していく。	根拠資料4-⑥-1「『南山考人』の巻末の記録」				
⑦ 教育課程及びその内容、方法の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)2017年度に改正したディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーについて、どのように検証しているか。 (2)カリキュラム・ポリシーと授業科目の整合性について、どのような方法で検証を行っているか。	(1)博士前期課程、後期課程ともにディプロマ・ポリシーに示された能力を修了生が身につけているかどうか、またディプロマ・ポリシーに示された能力を習得する適切な教育課程を明示しているかを、専攻の「自己点検・評価委員会」で確認している（4-⑦-1）。 (2)講義系の専門科目がカリキュラム・ポリシーに合致しているかどうかを専攻会議における検討課題とし、一部の科目の名称を変更することとした。（4-⑦-2）	特になし。	科目の一部の名称をより適切な名称に変更する必要がある。	B	特になし。	2020年度にカリキュラム改正を行う。	4-⑦-1「人類学専攻2018年度第1回自己点検・評価委員会議事録」 4-⑦-2「2018年度人類学専攻会議議事録」				



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式1（基準5）学生の受入

学部・学科/研究科・専攻		教育ファシリテーション専攻		氏名	加藤 隆雄							
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策	根拠資料	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況（○/×）	達成できていない理由（×の場合理由を記載）	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S]極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A]良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B]軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C]重度な問題があり、本格的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。					[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準5	学生を受け入れ	② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。	(1) 留学生の受入を促進するための制度改革をしているか【2018年度学長方針】	本専攻の研究教育領域には、言語と文化習慣を異にする留学生に不向きな領域もあり、専攻全体として留学生を積極的に受け入れる体制を構築するのは困難が大きい。とはいえ、2018年度においては、2名の留学生の志願者を得た。	留学生向けの入試制度は取り入れていないが、Webによる広報の効果で、2名の留学生の受験生を得た。また、留学生ではないが、在日外国人も1名受験があった（ただし合格者は無し）。	B	留学生（または日本在住外国人）を意欲して、入学選抜や専攻での研究に必要とされるものを、Webや入試説明会で明確にする。	本専攻のWebページにおいて、留学生を意識した広報活動を行う。	大学院入試志願者資料 教育ファシリテーション専攻専攻作成ページ (http://www.ie.nanzan-u.ac.jp/Daigakuin/Edufacili/index.html)			
		③ 適切な定員を設定して学生を受け入れを行うとともに、在籍学生数を取容定員に基づき適正に管理しているか。	(1) 研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか【2018年度学長方針】	合計6名の入学志願者があったが、いずれも合格水準に達せず、入学者はゼロであった。ここ2年、一定の志願者は確保しているが、残念ながらアドミッション・ポリシーで設定した水準に達していない。志願者はここ10年で減少しているが、その背景についての分析を専攻会議において行った。10年前と比べ、ファシリテーションを学べる教育機関が増えたこと、また、ファシリテーションが技術として習得される傾向にあることが、ファシリテーションを研究領域として捉える本専攻への志願者減をもたらしていると考えられるが、本専攻ではむしろ、積極的にファシリテーションを関係諸領域を総合する研究領域として位置づけた。そのため、アドミッション・ポリシーに示される入学試験での要求水準はかつてに比べ上がったと考えられる。本専攻で研究を行った修了生が、キャリアアップをしていることを示すために、修了生と連携して修了生のホームページを立ち上げた。	特になし	C	該当なし	Webページなどには、入試説明会への参加を呼びかけるとともに、過去問を可能な形で公開するなどの対策を取りたい（2019年度）。	大学院入試志願者資料 教育ファシリテーション専攻専攻作成ページ (http://www.ie.nanzan-u.ac.jp/Daigakuin/Edufacili/index.html) 教育ファシリテーション専攻会議資料	技術として捉えられがちなファシリテーションを、研究領域として設定するという専攻の理念を、志願者に適切に伝える努力を続けてほしいと思います。	いくつかの手段を介して、ファシリテーションを技能としてではなく研究領域として捉えてもらうよう受験者にメッセージを送っています。入試説明会においては、参加者に対して研究論文を書くことの意義を伝えていきます。また、入試においては研究をするため基礎能力の判定をより厳格に適用するよう努める一方で、過去問の一部をWeb上で公開するなどして専攻がどのような基礎能力を求めているかを受験者に理解してもらうようにしています。また、修了生のページとリンクすることによって、専攻での研究が自身のキャリアアップといかにつながっているかが見取れるようにしています。これらを継続することに加え、専攻作成Webページに修了生の研究成果を新たに掲載して受験者に専攻の理念を伝えるなどの方策を、引き続き検討したいと思います。	2021年度入試では、夏季入試で4名、春季入試で5名の志願者があり、かつ3名の合格者を得た。そのため、この改善目標は達成できた。 2020年12月の入試説明会はズームで実施し、社会人が参加しやすいこともあったが、7名の参加者を得た。5月の入試説明会はコロナ禍により中止となったが、替わりに専攻の学習内容を紹介するスライドを作成し、大学のホームページ上で公開した。 他にも、専攻宛での問い合わせメール（2020年度は10件ほど）に対して、なるべく迅速に回答するなど、志願者への情報伝達を丁寧に行うようにした。



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式1（基準5）学生の受入

学部・学科/研究科・専攻		教育ファシリテーション専攻		氏名		加藤 隆雄							
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策		根拠資料					
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、技術的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。				
	④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。	専攻教員の約半数が入試問題作成に加わり、アドミッション・ポリシーに見合う問題の難易度や範囲などについて検討を行っている。また、専攻独自に授業見学会・説明会を開催して、数名の参加者を得ている。さらに、入試説明会において説明を行っている。	アドミッション・ポリシーをまげて合格者を取るということをしていない点で、昨年度自己点検・評価委員会から評価されている。志願者も一定の数を維持している。	志願者に対するアドミッション・ポリシーの伝え方に改善の余地がある。	B	今後も水準を維持していくよう入試問題作成・判定を続ける。	志願者に対してこちらの水準を伝える努力をする。入試説明会や専攻独自の説明会では言うまでもないが、問い合わせなどの際にもこの点を伝える。	入試判定にかかわるため、提出できる根拠資料なし。入試説明会については、参加希望者からの申し込み電子メール	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況（○/×）	達成できていない理由（×の場合理由を記載）



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式1（基準5）学生の受入

学部・学科/研究科・専攻		言語科学専攻		氏名	鈴木 達也						
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策	根拠資料	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況（○/×）	達成できていない理由（×の場合理由を記載）
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽微な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。				
基準5	② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学者選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学者選抜を公正に実施しているか。	(1)留学生の受入れを促進するための制度改革をしているか【2018年度学長方針】	言語科学専攻の入試種別には、2018年度に新規導入した別科推薦を含み、博士前期課程では、一般、社会人、国内在住外国人、国外在住者、学内推薦、別科推薦の6種類があり、博士後期課程では、一般、社会人、国内在住外国人、国外在住者、別科推薦の5種類が用意され、入学者選抜を公正に実施している（5-②-1）。	設立以来、国内在住外国人、国外在住者の種別で留学生在が数多く入学しており、2018年度は、中国、インドネシア、ベトナム、タイ、ウズベキスタンからの留学生在が在学し、日本人学生とともに研究活動を行なっている。	特になし。	特になし。	5-②-(1) 大学院入試情報 https://www.nanzan-u.ac.jp/grad/admission/yoshi.html、国際センター提供資料				
	③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を取容定員に基づき適正に管理しているか。	(1)研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか【2018年度学長方針】	言語科学専攻の入学定員は、博士前期課程が12名、博士後期課程が4名となっており、2018年5月1日現在の在籍者数は、博士前期課程が13名、博士後期課程が7名である。近年、大学院への志願者は減少傾向が続いており、定員充足率は、博士前期課程が0.54、博士後期課程が0.58にとどまっている。大学院入試説明会はもとより、雑誌広告ならびに雑誌特集記事への協力も行い、入学者を増やす努力を継続している（5-③-1）。	定員充足率が低い状態が続いている。	特になし。	特になし。	5-③-(1) 取容定員 https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/kokai/teiin.html、在籍学生数 大学院 _20180501、 『AERAムック2019大学院・通信制大学』pp.104-105	定員充足率が低い状態を解消するため、具体的な検証を、ぜひ進めてください。	年2回開催の大学院入試説明会の内容充実や雑誌広告も含めた広報活動の強化を行なっているが、志願者すべてが合格・入学するわけではないため、定員充足率の改善には至っていない。2020年度は、志願者を増やす方策についてどのようなことが考えられるか、専攻内に検討チームを組織して検討を始めた。	×	達成状況は「×」としたが、ただ手をこまねいていたわけではない。 本専攻は2012年度までは概ね入学定員を充足していたが、その後急速に落ち込み、現在でも低迷を続けている（5-③-2「大学75周年史、第10章人間文化研究科、第4節言語科学専攻」）。これは専攻個別の問題というより、人間文化研究科専攻主任会議で何度か取り上げ、報告書をまとめた（5-③-3「言語科学専攻の現状と方策」2020/11/06）ものの、根本的な原因の究明には至っていない。 ただ、本専攻には、東海三県の中高の英語教員、日本語学校の教員などから問い合わせは度々あり、リカレント教育の需要は一定程度見込めるものと思われる。東海三県の公立中高の教員には1年間の研修制度があるので、博士前期課程を1年で修了できる道を拓くことがポイントになりそうである。そこで、2020年度は大学院学則の改正に合わせて、入学前あるいは入学後他大学院での修得単位を認定するための規
	④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。	年度始めに入学試験の募集要項の確認をする際に、アドミッション・ポリシーとの整合性を確認している。その際、その内容がディプロマ・ポリシーおよびカリキュラム・ポリシーと一貫性があるかについても点検・評価している。	特になし。	特になし。	特になし。	各種入学審査要項				



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式1（基準5）学生の受入

学部・学科/研究科・専攻		国際地域文化研究科		氏名		上村 直樹						
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策	根拠資料	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況（○/×）	達成できていない理由（×の場合理由を記載）	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。					[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準5	学生の受け入れ ② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。	(1)留学生の受入れを促進するための制度改革をしているか【2018年度学長方針】	研究科のアドミッション・ポリシーに従って、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制が適切に整備され、入学選抜が公正に実施され、研究科運営委員会でも定期的に検証を行っている。また留学生の受け入れに関しては、2017年度12月に研究科委員会で「外国人留学生の日本語等の外国語要件（出願資格）の変更」が承認され、博士前期課程および博士後期課程それぞれについて日本語ないし英語での語学力等に関する出願要件を明確化し、特に後期課程については、英語での博士論文執筆を希望する出願者には日本語能力試験の点数を適正化し、今後、より多くの留学生受け入れにつながる改革を行ったが、2018年度からは入試要項にもその旨記載したうえで、留学生の募集、選抜が行われている。	留学生に関しては、前年度に引き続き留学生別科からの志願者があり、合格に至った。	特になし。	留学生別科から研究科への志願者を増やすために、別科での大学院紹介等の機会を利用して国際地域文化研究科への別科生の理解を更に促進する。	特になし。	2017年度第10回国際地域文化研究科委員会議事録、2019年度大学院入試要項（国際在住外国人入学審査、国外在住者入学審査）	外国人留學生別科からの入学者を増やすために、今後も努力してはしる。	昨年度、今年度と続けて留学生別科から本研究科への進学者があり、こうした流れを発生させるために、外国人留學生別科による進路や大学院進学の説明会等において研究科の紹介をより効果的に行ってもらえるよう、別科関係者との連携をとるとともに、別科生を含む授業を担当する研究科教員に対しては、別科生等に対する研究科の紹介や情報提供等を積極的に行うなど、研究科としての組織的な努力を行ってきたい。	○	



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式1（基準5）学生の受入

学部・学科/研究科・専攻		国際地域文化研究科		氏名		上村 直樹						
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策	根拠資料					
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、技術的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。			
	③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1)研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか 【2018年度学長方針】	在籍学生数を収容定員に少しでも近づけるべく努力を続け、社会人向け入試広報の意味も込めた南山大学エクステンション講座の開催や現役院生だけでなく学部生も対象としたキャリア就職セミナーの開催等、様々な取り組みは行っているが、必ずしも入学者増という効果には結びついていない。	研究科主催（社会学研究科との共催）の院生向けのキャリア就職セミナーに入試広報の意味を込めて学部生の参加を促したところ、学部からも4名の参加があった。大学院入試広報ポスターの作成について大学院入試委員会の場で提案し、作成に至った全学的な入試広報ポスターは研究科の入試広報活動に積極的に活用された。	学部生（学内生）及び社会人の研究科への進学を促す必要がある。	2019年度開催予定の院生向けキャリア就職セミナーに学部生の参加を更に促す。2018年度に初めて作成された全学入試ポスターの改善やより積極的な活用を通じて入試広報に更に関与する。	2019年度は、新たに学部生（学内生）向けの国際地域文化研究科独自入試説明会を昼休み等に複数回開催し、学部生の進学を促す。そして、同説明会には研究科教員だけでなく、在学院生にも参加してもらって学生目線からの説明も行う。また社会人（及び学外生・学内生）向けに研究科の教育研究内容に相応しい著名な大学人等を招いて講演会を開催し、入試広報としても役立てる。	2018年度第10回国際地域文化研究科委員会議事録（2018年12月12日開催）、2018年度第1回及び第2回大学院入学試験委員会記録詳細	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況（○/×）	達成できていない理由（×の場合理由を記載）
					B			学内者および社会人の進学促進を、ぜひ進めてほしい。	今年度、学内者および社会人の進学促進を目的として新たに二つの行事を行った。まず学内者進学促進に関しては、6月19日（水）12:45～14:00にL棟910会議室において、「学内生のための大学院進学相談会」を開催し、研究科の紹介に加え、複数の研究科現役院生にも参加してもらい、自らの大学院進学を含めたキャリアをめぐる経験や入学後の学生生活について語ってもらい、その後は、全体での質疑応答に加えて、研究領域ごとのグループ・ディスカッションや質疑応答を行った。参加者は、外国語学部生を中心に総合政策学部生、国際教養学部生も含めて20名に上り、多くの質問や活発な意見交換等もあり、盛況な催しとなった。次に社会人入学促進に関しては、11月9日（土）15:00～17:00にフラッテンホールにおいて入試広報を兼ねた講演会を開催した。講演者にはアメリカ研究者として著名な渡辺靖慶氏を招き、「トランプ政権とアメリカ第一主義の行方」と題して講演を行ってほしい。講演会の最初	○	コロナ禍においても、研究科が独自に企画したオンラインによる研究科説明会を2020年5月30日に開催するとともに、2021年1月22日には、外部の有識者をゲストに招いたFDシンポジウムを開催して、一般の参加者を集めるなど、研究科の活動紹介を実施して、志願者の増加のための取り組みを行った。また、研究科独自のホームページを開設して広報活動を行った。	



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式1（基準5）学生の受入

学部・学科/研究科・専攻		国際地域文化研究科		氏名		上村 直樹					
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策	根拠資料	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況（○/×）	達成できていない理由（×の場合理由を記載）
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。				
	④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。	研究科長、専攻主任、入試委員による入試要項確認の際、アドミッション・ポリシーとの整合性をチェックするとともに、アドミッション・ポリシー自体の妥当性及びディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシーと整合性についても点検・評価している。	特になし。	特になし。						
					A						
							各種入試要項、博士前期課程3つのポリシー（ <a href="https://www.nanzan-u.ac.jp/grad/m_aa/policy.html">https://www.nanzan-u.ac.jp/grad/m_aa/policy.html</a> ）；博士後期課程3つのポリシー（ <a href="https://www.nanzan-u.ac.jp/grad/m_aa/phd/policy.html">https://www.nanzan-u.ac.jp/grad/m_aa/phd/policy.html</a> ）。				

に講印紹介を兼ねて研究科の紹介を行った。参加者は、新聞広告を出したこともあり、社会人を中心に95名に上り、充実した講演に多くの質問がなされ、アンケートでも評価する声が多かった。進学促進に関するこの二つの行事の効果は、受験者・入学者増という形では未だ測れないが、研究科として手応えを感じることができ、今後もこうし、うし、社会人の進学促進に向けた努力を続けていきたい。



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式1（基準5）学生の受入

		学部・学科/研究科・専攻	社会科学部研究科		氏名	石川 良文							
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策		根拠資料					
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。				
基準5	② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。	(1) 留学生の受入を促進するための制度改革をしているか【2018年度学長方針】	大学院入試において、国外在住者入学審査、留学生別科推薦などの入学審査を設け、多様な学生の能力を評価している。このほか経済学専攻では、国内在住外国人入学審査により留学生の受入を促進している。 (5-②-1) 新規に留学生の受入を促進する制度改革は行っていないが、学部学生も参加できる「大学院生のためのキャリア就職セミナー」を開催し、学部留学生もこれに多く参加している（5-②-2）。	2018年度では、15人の留学生が在籍している。（5-②-3）	留学生の受入を促進するための方策について研究科として検討する必要がある。	A	特になし。	留学生受け入れ促進について、留学度入試要項、5-②-2「大学院生のためのキャリア就職セミナー」5-②-3「社会科学部研究科在学者一覧」	留学生の受入促進について、検討を進めてほしい。	国際センターとの連携を強化することにより、優秀な留学生受入を増やすための方策（例えば、特別コースの導入など）について検討する。有効な方策が見つかれば、社会科学部研究科としても積極的にこれを実施する。	○	達成できていない理由（×の場合理由を記載）	
	③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1) 研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか【2018年度学長方針】	年に2回の大学院入試説明会（5月、12月）に加え、入学者を増やすために、例えば経済学専攻ではイベントセミナーを年2回開催する際、社会人のための入試説明会を同時開催している（5-③-1）。また、学部学生も参加できる「大学院生のためのキャリア就職セミナー」を12月6日に開催し（5-③-2）、大学院進学の際の懸念材料となる就職について学部学生が理解できるよう努めた。更に、社会科学部研究科独自のWebページを開設し（5-③-3）、研究科の内容、科目群や入学試験の情報の発信に努めた。	2019年度の志願者は前期課程17名、後期課程6名であり、特に後期課程においては前年度0人から6名へと大幅に増加した。（5-③-4）	定員の確保はできていない。定員の充実にに向けた改善策を検討する必要がある。	B	特になし。	各学部と協力して、学部1、2年生に対する大学院進学についての説明の機会を設けることを検討する。学部学生は、大学院進学という進路を選択肢に入れていない可能性があるため、例えば、キャリア支援委員会においても大学院進学という進路形成についての策を検討して頂きたい。	5-③-1「大学院入試説明会参加者数一覧」第29・30回『イベント・セミナー経済@南山』社会人入試説明会での研究科説明会チラシ 5-③-2「大学院生のためのキャリア就職セミナー」 5-③-3「社会科学部研究科webページ」 <a href="http://depts.nanzan-u.ac.jp/grad/ss/">http://depts.nanzan-u.ac.jp/grad/ss/</a> 5-③-4「志願者数、受験者数」（第4回および第10回社会科学部研究科委員会記録）、「社会科学部研究科在学者一覧」	入学者は増加しているか、定員充足に向けた検討を進めてほしい。	産官学のコミュニケーションをさらに深めるための仕組みを導入する。これを通して、高度専門職業人の養成を目的とした大学院教育の内容について、さらに具体的な検討を行う。その上で、実現可能なものについては、積極的な実現を目指す。	○	
	④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。	社会科学部研究科「自己点検・評価委員会」において、アドミッション・ポリシーについての適切性について検証している（4-④-1）。その結果、完成年度を迎えるまで改正できなかった後期課程のアドミッション・ポリシーの改正を行うことを確認している。また、同委員会においては、志願者数等のデータを踏まえて、入学者の傾向の把握と分析を行っている。 アドミッションポリシーにある入試種別等については、専攻会議、研究科委員会、大学院入試運営委員会、大学院入試委員会等において確認、承認している。 学生の受入の適切性については、専攻会議での入試合否判定案の作成、研究科委員会での審議承認を行っている。	志願者、受験者、合格者、入学者等のデータを踏まえて、入学者の傾向の把握と分析していることよって、アドミッション・ポリシーおよび選抜方法の適切性を点検・評価できている。 志願者数16名（前年に比べ3名増）、受験者数23名（8名増）、合格者数18名（6名増）、入学者数12名（増減無）であった。	特になし。	A	経年的な志願者、受験者、合格者、入学者等のデータを取得して、より詳細な分析を行うことが有効と思われるため、まとめてデータを提供いただけるとありがたい。	特になし。	4-④-1「社会科学部研究科自己点検評価委員会次第」				



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式1（基準6）教員・教員組織

学部・学科/研究科・専攻			経済学専攻		氏名		阪本 俊生							
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明		点検・評価		自己評価		将来に向けた発展方策		根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り残りが確認された本数にあり [A] 良好な状態にあり、取り残りが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重度な問題があり、本質的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況（○/×）	達成できていない理由（×の場合理由を記載）	
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編制ができているか。	前期課程については、研究指導担当者は11名、研究指導補助担当者は4名、講義担当者2名である。また後期課程については、研究指導教員は5名、研究指導補助教員は5名である（6-②-1）。前期課程においては、経済学の理論、国際、実証、歴史、経済社会学分野に研究指導教員または研究指導補助教員のいずれかがいる。（6-②-2） また、本年度、大学院教員認定基準の内規を新たに定めた（6-②-3）。この内規は原案を専攻内の大学院後期課程の研究指導教員によって作成され、7月7日専攻会議、7月7日研究科委員会、7月9日大学院委員会大学院委員会の議を経て承認され、決定された。本年度以降、教員の昇格人事はこの内規に従って行っている（6-②-4）。原案については、過去の審査における外部機関による判定基準を参考にして作成した。	本年度定めた、大学院教員認定基準の内規にしたがい、前期課程において1名、研究指導補助から研究指導（国際経済学）に昇格することになり、前期課程の教育研究活動を展開できるようになった（6-②-4）。また、前期課程の講義担当者を学部教員から2名追加（財政学およびデータ解析）し、次年度の大学院の科目担当を充実させた（6-②-1）。	前期課程では、さらに幅広い分野の教員をメンバーに加えることが改善すべき点であると考えられる。後期課程の研究指導教員の数は文部科学省の設置基準を満たす最低限の教員数であり、さらに教員数を増やす方が望ましい。また、後期課程の学生の研究分野の研究指導教員が、指導学生の在学期間である3年に満たず定年を迎えることになる。	B	これに関しては、今年度から開始するとともに、今年度中に、開講科目や研究指導の専門分野を増やし、専攻の教員組織のさらなる充実をはかり、また、前期課程の経済学専攻の学生を増やすことを通じて、後期課程への進学者を増やすなど、後期課程の学生数をいまよりも確保しやすくする。	前期課程については、学部に着任後、間もない各教員の業績等を大学教員認定基準の内規にしたがって検討し、大学院教育に加わってもらい、その教育を充実させる。後期課程については、学部教員の業績数を見つつ、研究指導教員の増員をおこなっていく。後期課程の学生の研究分野の研究指導教員を大学院教授になってもらい学生の修了まで研究指導が可能であるようにする。	6-②-1「2018年度第1回社会科学研究所委員会」 6-②-2「2018年度シラバス」 <a href="https://portal.nanzan-u.ac.jp/syllabus/">https://portal.nanzan-u.ac.jp/syllabus/</a> 6-②-3「南山大学大学院社会科学研究所における研究指導教員の認定基準に係る内規」2018年9月1日施行 6-②-4「2018年度第8回社会科学研究所委員会」	博士前期課程で幅広い分野の教員を加えることを進めてほしいと思います。	本年度は、国際金融論担当の専任教員一名を、博士前期課程の研究指導に追加した。また講義科目担当者を一名、学部から追加した。来年度は経済学専攻のDPで述べている研究分析能力を高めるためのカリキュラムをより充実させるべく、より幅広い分野の教員を講義担当に加え、講義科目を増やす予定である。	○	
		④ ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。（学部/研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要がある。）	また学部との共催により、12月5日に大学基準協会の工藤潤先生をお招きし「第3期認証評価の特質」というタイトルでFD研修が実施された（6-④-1）。例年通り、3月に研究科のFD委員会が開催された。今年度開設された社会科学研究所独自のウェブページの運用状況についての説明があった（6-④-2）。	研究科独自のウェブページが運用されている（6-④-3）。	現在のFD研修会は、学部と共催であり、専攻独自のものではない。	B	特になし。	今年度から、FD研修会を専攻として開催する。	6-④-1「FD研修会チラシ」2018年度第7回社会科学研究所委員会 6-④-2「2018年度社会科学研究所FD委員会」 6-④-3「社会科学研究所Webページ（2018年10月開設）」 <a href="http://depts.nanzan-u.ac.jp/grad/ss/">http://depts.nanzan-u.ac.jp/grad/ss/</a>	専攻独自のFD活動を実施するのが望ましいと思います。	今年度（2019年度）から専攻向けのFD研修会を開始し、今年度も1月10日に実施した。	○	
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	今年度、教員の研究および教育能力を適正に点検し、評価するため、大学院教員認定基準の内規を新たに定めた（6-⑤-1）。この内規は原案を大学院後期課程の研究指導教員が作成し、7月7日専攻会議、7月7日研究科委員会、7月9日大学院委員会の議を経て承認され、決定された。この基準作成にあたっては、かつて研究指導担当教員の一部が、外部機関の判定により研究指導担当から外れざるを得なくなった過去の経緯の反省から、かつてのような審査の甘さを改め、より厳格にすべきという意見があり、それを踏まえて作成されていく。本年度以降、教員の昇格人事は、この内規に従って厳格に行っていく。	内規にしたがって、1名、研究指導補助教員から研究指導教員への昇格をおこなった（6-⑤-2）。	特になし。	A	次年度も、引き続き内規を厳格に運用しつつ、教育・研究活動の充実をはかる。	特になし。	6-⑤-1「南山大学大学院社会科学研究所における研究指導教員の認定基準に係る内規」2018年9月1日施行 6-⑤-2「2018年度第8回社会科学研究所委員会」				



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式1（基準6）教員・教員組織

学部・学科/研究科・専攻		経営学専攻		氏名		安田 忍										
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展策	根拠資料									
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り留めが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、本格的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。							
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1)人事計画に沿った教員の組織編制ができていますか。	ビジネス研究科ビジネス専攻が2017年度をもって廃止されたことに伴い、これまでは社会科学研究科博士前期課程の研究科委員会委員でなかったが博士後期課程の委員であった教員や博士前期課程で授業を担当していた教員を、2018年度から社会科学研究科博士前期課程の研究科委員会委員として配置した。大学の方針に基づき、2018年度において「南山大学大学院社会科学研究科における研究指導教員の認定基準に係る内規」を策定し、承認手続きの各手順を踏んで承認された。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。							
		④ ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1)どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。（学部/研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要がある。）	社会科学研究科全体でのFD活動は、学生アンケートなどを資料として、研究科FD委員会を実施し、研究科全体や専攻ごとの問題点などを比較検討し、次年度に向けた改善点などを話し合っている。	経営学専攻では、各クォーターごとに、すべての開講授業で、5段階評価式授業アンケートを実施している。また、研究指導その他専攻全体に対する意見、要望等については、春、秋学期ごとに自由記述のアンケートをとっている。これらの結果は書くクォーターごとに専攻会議で報告、検討している。また、2つのクォーター分の結果を研究科委員会へは学期ごとに報告し、研究科委員会におけるFD委員会の検討資料としている。	しかし、これまで、講演会形式でのFD活動については、専攻ごとの開催としてきた。その際、経営学専攻の教員は経営学部所属教員が兼任しているため、経営学部と経営学専攻共催の形式で実施している。2019年度からは学部と研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要がある。		2019年度からは、学部とは別に、研究科独自にFD講演会などを実施することを検討する。		専攻独自のFD活動を実施するのが望ましいと思います。	毎クォーター実施している「学生による授業評価」の結果を分析・検討するFD研修会の開催を今年度内に予定している。また、専攻独自ではこれまで「修士論文・博士論文プロポーザル公聴会」を修了年次の前年度に実施してきているが、これは特定の院生に対して参加教員全体（指導教員以外も出席している）で指導方針を提案し合い検討する場であったという意味で、FDの要素も含まない活動といえそうである。次年度からこれをFD活動の一環として実施できるかどうかを検討する。					
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	各年度初めの第一回専攻会議および研究科委員会における研究科委員会の構成委員および定足数を確認し、あわせて、専攻として大学院設置基準を満たしていることを確認している。	学生による授業評価アンケートの結果を各クォーターごとに専攻会議で報告、検討するとともに、研究科委員会は学期ごとに報告し、3月に研究科委員会におけるFD委員会でも検討している。	2019年度からは、「南山大学大学院社会科学研究科における研究指導教員の認定基準に係る内規」に基づいて、博士前期課程、博士後期課程それぞれにおいて、研究指導教員、研究指導補助教員、授業担当教員の要件を満たす教員を確認し、カリキュラムポリシーによる授業編成と教員の必要性について考慮しつつ、人事を進めていかなければならない。	A	教員の適切な配置を2019年度から検討し、人事を順次進めていく。								



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式1（基準5）学生の受入

学部・学科/研究科・専攻		総合政策学専攻		氏名		David Potter						
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策	根拠資料	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況（○/×）	達成できていない理由（×の場合理由を記載）	
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り留めが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重度な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>					<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>
基準5	学生の受け入れ	② 学生の受け入れ方針に基づき、学生募集及び入学選抜の制度や運営体制を適切に整備し、入学選抜を公正に実施しているか。	(1) 留学生の受入れを促進するための制度改革をしているか。【2018年度学長方針】	2018年度前期課程入試では留学生5名を受け入れた。	2018年度では、11名の留学生が在学していた。	留学生の受け入れを維持するための方策を検討する必要がある。	A	2019年度入試では留学先の受け入れは2名（前期課程）で留まったため、留学学生の進学ガイダンスを強化する方法を考えなければならない。	入試要項			
		③ 適切な定員を設定して学生の受け入れを行うとともに、在籍学生数を収容定員に基づき適正に管理しているか。	(1) 研究科は、入学者を増やす取り組みをしているか。【2018年度学長方針】	2018年度には、大学院入試説明会（5月・12月）を行った。さらに、研究科と一緒に3専攻のHPのリニューアルを行い、その一環として各教員の研究を説明するコラムを設置した。	2019年度の出願者は後期課程が4名、前年度0名から大幅に増加した。	2019年度の出願者は前期課程が3名で、前年度に比べて減少した。	B	2019年度には、進学者を増やす方法を検討しなければならない。	大学院入試説明会参加者一覧、研究科HP			
		④ 学生の受け入れの適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 2017年度に改正したアドミッション・ポリシーについて、どのように検証しているか。	なし					博士前期課程のアドミッション・ポリシーについて、検証を進める必要があると思います。	博士前期課程のアドミッション・ポリシーを検証する。	○	



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式1（基準6）教員・教員組織

学部・学科/研究科・専攻		総合政策学専攻		氏名		David Potter						
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策	根拠資料	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況（○/×）	達成できていない理由（×の場合理由を記載）	
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り留めが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り留めが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。					[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編制ができているか。	1) 2018年度に専攻の「研究指導教員の認定基準に係る内規」を定めた。	研究指導教員・研究指導補助教員の基準を明らかにした。							
		④ ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。（学部/研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要がある。）	毎年FD活動は学部共催FD研修を行うことによって、学部と専攻のキャリアラム・研究の連携を維持している。	2018年度3月に行った研究科FD懇談会では、専攻の3名が参加した。2018年度では、専攻教員全員はFD研修に参加した。							
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	なし								







2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式1（基準6）教員・教員組織

学部・学科/研究科・専攻		ソフトウェア工学専攻		氏名		蜂巢 吉成								
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策	根拠資料	3月の研究科委員会後に、研究科のFD・自己点検報告会の実施を検討している。	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況（○/×）	達成できていない理由（×の場合理由を記載）			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り留めが成った水準にある 【A】良好な状態にあり、取り留めが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。					[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編制ができているか。	2021年度の学部改組に向けて、大学院も含めた教員人事計画を検討している。	特になし	学部に所属しているが、研究業績が十分でなく、大学院の研究指導、研究指導補助ではない教員が複数いる。 学部改組後に年次進行で大学院改組も予定されるので、博士課程後期課程の専攻を維持できる教員編成にする。	C	特になし	2018年度は研究業績が十分にあげられない教員に対して面談等を実施し、査読なしではあるが学会発表を行うことができた。 2019年度は学科・専攻内で研究発表会を定期的に行い、計画的に研究を進めるように促していく。	南山大学 研究業績システム				
		④ ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。（学部/研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要がある。）	2018-10-17(水) にFD講演会を行った。 【題目】名古屋大学工学部・工学系研究科の留学生受入れ（学部・大学院）の現状と課題 【日時】2018年10月17日（水）15:30-17:00 【場所】S棟1階会議室1 【講師】野水 勉氏（名古屋大学国際機構・国際教育交流センター・副センター長 教育交流部門 部門長・教授 工学系研究科国際交流室 室員）	特になし	大学院のFD・自己点検報告会は実施できなかった。	B	特になし	毎年3月に学部で行っているFD・自己点検報告会にあわせて研究科でもFD・自己点検報告会を行う。		研究科、専攻独自のFD・自己点検報告会の実施を、ぜひ進めてください。	3月の研究科委員会後に、研究科のFD・自己点検報告会の実施を検討している。	○	補足：大学院独自というわけではないが、オンライン授業に関してFD活動を実施した。大学院生懇談会はWeb等で大学院生からの意見を募集し、研究科委員会で報告した。
		⑤ 教員組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	教員組織については学部長、学科長、研究科長、専攻主任、評議員らから構成される「学部・研究科将来構想委員会」で、FDはFD委員を中心に活動をしている。 検証を行う仕組みとして、学部長、学科長、研究科長、専攻主任、評議員、教務委員、FD委員らから構成される「学部・研究科自己点検・評価委員会」や「理工学部・理工学研究科外部評価委員会」がある。	特になし	特になし	A	特になし	特になし	2018年度第1回、第2回理工学部・理工学研究科外部評価委員会記録				



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式1（基準6）教員・教員組織

学部・学科/研究科・専攻		機械電子制御工学専攻		氏名		河野 浩之								
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策	根拠資料							
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評価の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが定着した水準にある。 [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である。 [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる。 [C] 重度な問題があり、抜本的な改善が求められる。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。						
基準6	教員・教員組織	② 教員組織の編制に関する方針に基づき、教育研究活動を展開するため、適切に教員組織を編制しているか。	(1) 人事計画に沿った教員の組織編制ができていますか。	2021年度の学部改組に向けて、大学院も含めた教員人事計画を検討している。	2018年度に博士前期課程・後期課程の研究指導担当への昇格を行った。	学部改組後に年次進行で大学院改組も予定されるので、博士課程後期課程の専攻を維持できる教員編成にする。	B	2019年度も引き続き、博士前期課程・後期課程の研究指導担当ができるよう自己申告ならびに研究業績システムにより点検する。	特に無し。	南山大学 研究業績システム	3月の研究科委員会後に、研究科のFD・自己点検報告会の実施を検討している。	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況（○/×）	達成できていない理由（×の場合理由を記載）
		④ ファカルティ・ディベロップメント（FD）活動を組織的かつ多面的に実施し、教員の資質向上及び教員組織の改善・向上につなげているか。	(1) どのようなFD活動を実施し、その結果をどう活用しているか。（学部/研究科それぞれ別にFD活動を実施する必要がある。）	2018-10-17(水)にFD講演会を行った。 【題目】名古屋大学工学部・工学系研究科の留学生受入れ（学部・大学院）の現状と課題 【日時】2018年10月17日（水）15:30-17:00 【場所】S棟1階会議室1 【講師】野水 勉氏（名古屋大学国際機構・国際教育交流センター・副センター長 教育交流部門 部門長・教授 工学系研究科国際交流室 室員）	特に無し。	大学院のFD・自己点検報告会は実施できなかった。	B	特に無し。	毎年3月に学部で行っているFD・自己点検報告会にあわせて研究科でもFD・自己点検報告会を行う。	研究科、専攻独自のFD・自己点検報告会の実施を、ぜひ進めてください。	3月の研究科委員会後に、研究科のFD・自己点検報告会の実施を検討している。		○	2021年3月10日（水）にFD・自己点検報告会が実施された。2020年度の授業形態が大きく変化したことに伴い、大学院に特化した議論というわけではないが、オンライン授業に関してFD活動を実施した。大学院生懇談会はWeb等で大学院生からの意見を募集し、研究科委員会で報告した。
		⑤ 教員組織の適切性について定期的な点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) 教員組織の編成方針、FD活動の適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	教員組織については学部長、学科長、研究科長、専攻主任、評議員らから構成される「学部・研究科将来構想委員会」で、FDはFD委員を中心に活動をしている。検証を行う仕組みとして、学部長、学科長、研究科長、専攻主任、評議員、教務委員、FD委員らから構成される「学部・研究科自己点検・評価委員会」や「理工学部・理工学研究科外部評価委員会」がある。	特に無し。	特に無し。	A	特に無し。	特に無し。	2018年度第1回、第2回理工学部・理工学研究科外部評価委員会記録				



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式2（基準9）社会連携・貢献

研究所/研究センター等名称		南山宗教文化研究所		氏名		金 承 哲									
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料								
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [5] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある。 [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である。 [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる。 [C] 重度な問題があり、抜本的な改善が求められる。	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。						
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流を行っているか。 【2018年度学長方針】	本研究所の活動目標である学術的会議の開催や公開講座、公開講演会等の開催などを通して、国内外より多くの研究者を招聘し研究会を開催するように努めると同時に、その研究活動や研究成果を社会に公開している。	近隣の宗教研究者を招いて南山宗教学研究会を年3～4回開催しての開催などを通して、国内外より多くの研究者を招聘し研究会を開催する（「遠藤岡作を読む会」）を毎月行っている。	左の活動をより広く知らせるために努める。	A	客員研究所員の研究活動や成果を伝えるために、既存の研究会や懇話会をより積極的に開催する。また、参加者の専門分野の多様化に努める。	大学のホームページや本研究所のホームページにその内容を随時掲載するようにする。	南山宗教文化研究所ホームページ (https://nirc.nanzan-u.ac.jp/ja/)	人類学研究所の人類学フェスティバルおよび社会倫理研究所の一般公開での学術イベントを参考とされた。	南山宗教文化研究所のホームページや南山大学のホームページを通して、同研究所で行われる研究会、懇話会、読書会などのお知らせを掲載している。その掲載の内容をより詳細にすることで、できるだけ多くの人々に理解してもらい、参加してもらおうようにしたい。	○		
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	研究所所員会議や所員ランチにおける懇談会などを利用して、その都度の研究活動の計画や内容について緊密に意見交換をしている。	今まで客員研究員は、主に自分の研究に集中していたが、客員研究員を中心とする公開研究会を開催することにより、その研究活動がより多くの研究者らと共有することになった。	特になし	A	左に記載した活動をより活発化するために、公開研究会をより頻繁に開催するように努める。	該当なし						



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式2（基準3）教育・研究組織

研究所/研究センター等名称		社会倫理研究所		氏名		奥田 太郎						
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策	根拠資料					
			<p>[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り留めが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り留めが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重度な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>				
基準3	教育研究組織	② 教育研究組織の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	<p>(1) 大学の理念・目的に沿った運営を実施しているか。 (2) その適切性について、どのような方法で検証を行っているか。</p>	<p>(1) 「キリスト教世界観に基づく学校教育を行い、人間の尊厳を尊重かつ推進する人材の育成」という建学の理念に沿った活動を行っている。社会倫理研究所の専任スタッフ（第一種研究所員）は、主に共通教育科目を担当し、様々な学部・学生に対する「人間の尊厳」をテーマとする授業を受け持っているのはもちろん、研究所活動のなかでも、学生向けのトークセミナーを実施する等、研究所の研究成果や人脈を教育に還元する取り組みも行っている。また、研究所主催の懇話会・シンポジウムを通じて、広く社会に対して上記理念を実現する試みをしている。「Hominis Dignitati」という本学のモットーは、当研究所の設立理念でもあり、当研究所で実施中のすべての研究プロジェクトがそこへ向かっている。</p> <p>(2) 当研究所では、一つ一つの事業を進める際にその都度、専任スタッフでその内容が上記理念に合うかどうかを検討している。また、年度ごとに研究所活動の詳細を『時報しゃりんけん』というタイトルの所報の形で文書として記録し公表することで、その適切性について広く世に問うている。</p>	<p>《B》に「改善すべき事項」を記述してください。 《B》に「改善すべき事項」を記述してください。 《B》に「改善すべき事項」を記述してください。 《B》に「改善すべき事項」を記述してください。</p>	<p>《A》に「改善すべき事項」を記述してください。 《A》に「改善すべき事項」を記述してください。 《A》に「改善すべき事項」を記述してください。 《A》に「改善すべき事項」を記述してください。</p>	<p>《A》に関する方策》これ以上の業務を量的に増やすことは難しいが、質的な向上は可能である。質的な効果の伸長という目標に対しては、定量的な基準や数値目標を設定することは難しいが、さしあたり、各授業の学生による授業評価や、学生からのフィードバックの内容を基にして、年度毎にそれぞれの担当教員（運営責任者）が、自身の内省と所員相互のコミュニケーションを通じて内容を点検・評価し、内容の更なる質的拡充を図る。</p> <p>《B》に関する方策》現行の研究プロジェクトを2019年度も継続的に、かつ質を落とさずに実施していくとともに、イベント実施や刊行物編集に加えて、新しい研究所活動を構想する。さしあたり、当研究所が設立40周年を迎える2020年度をめぐりに、当研究所専任スタッフが中心となって、学内外の研究者と連携しながら、新たな形態での共同研究体制を構想する。</p>	<p>『時報しゃりんけん』第12号（2019年春学期刊行予定） 社会倫理研究所ウェブページ <a href="http://rei.nanzan-u.ac.jp/ISE/ja/">http://rei.nanzan-u.ac.jp/ISE/ja/</a></p>	<p>3月の研究科委員会後に、研究科のFD・自己点検報告会の実施を検討している。</p>	<p>意見・指示を受けて組織が立てた改善計画</p>	<p>「改善計画」の達成状況（○/×）</p>	<p>達成できていない理由（×の場合理由を記載）</p>



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式2（基準9）社会連携・貢献

研究所/研究センター等名称		アメリカ研究センター		氏名		沢登 文治							
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策	根拠資料						
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。				
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流を行っているか。 【2018年度学長方針】	社会連携・社会貢献について、継続的に地域交流に取り組んでいる。	1. センター長はJAASおよび名古屋アメリカ研究会の会員、名古屋アメリカ研究会の幹事として活動し、連携を図っている。 2. 他部署・学外の団体と連携して開催したイベントが全体の8割を超え、活発な連携が図られている。具体的には以下3点を実施した。 ・名古屋アメリカ研究会と連携したイベントを毎年継続的に開催しており、2018年度は2回のイベントを行った。 ・アメリカ研究センター主催の講演会（2件）に対し、名古屋アメリカ研究会に共催として協力いただいた。 ・教年連携が途絶えていた名古屋アメリカンセンターとの連携を強化することに努め、2019年2月22日に在日米国大使館広報・文化交流担当公使、在名古屋米国領事館首席領事の来学記念意見交換会を実施した。	「例年通り継続して…取り組んでいる。」との記載は、「改善すべき事項」に該当しないと考えを改めたため、削除した。	A	「改善すべき事項」を削除したため、記入せず	・名古屋アメリカ研究会例会_2018年度.pdf ・アメリカ研究センターイベント一覧_2018年度.pdf	3月の研究科委員会後に、研究科のFD・自己点検報告会の実施を検討している。	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況 (○/×)	達成できていない理由 (×の場合理由を記載)
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	アメリカ研究センター、センター会議における情報提供と意見聴取に基づき、計画の策定および実施報告を行う。そこでの意見聴取により、改善・向上に取り組む。	・名古屋アメリカ研究会例会および共催の研究会（すべて一般公開）について、以下のセンター会議で審議。：2018年5月18日研究会共催について、4月25日までのメール審議。2018年10月1日講演会の主催について、9月7までにメール審議。2018年11月10日講演会共催につき、8月31日までにメール審議。2019年2月22日開催の名古屋アメリカンセンターとの共催によるイベントについて、2月11日までのメール審議。2019年6月6日の講演会共催について、3月20日までにメール審議。	A							



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式2（基準9）社会連携・貢献

研究所/研究センター等名称		ラテンアメリカ研究センター		氏名		泉水 浩隆									
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料								
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S]極めて良好な状態にあり、取り組みが極めて適切である [A]良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B]軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C]重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2]500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。						
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1)社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流を行っているか。 【2018年度学長方針】	2018年度は、学外の一般市民も参加可能なものも含め、講演会を14件開催し、参加者数は、合計931名であった。（例：知られざる音楽大学・南米ベネズエラのしらべ〜国民楽器クアトロを中心に〜、18〜20世紀のピアノ音楽を通して知るスペイン、スペイン・サラマンカで日本語を教える一日西両文化をつなぐ仕事とは一、など）。これに加え、学会の基調講演、学外の研究者も交えた研究会2回、名古屋ユネスコ協会と協力して行った「第8回 ユネスコ平和セミナー」なども主催あるいは共催し、ラテンアメリカ研究センターの活動を外部へ知らせ、社会連携・社会貢献・地域交流の機会を持った（9-②-1）。	左記の講演会の中には、日本イソパニヤ学会第64回大会の「サラマンカ大学創立800周年記念企画・サラマンカと日本を結んで」も含まれ、本学の提携校であるスペイン・サラマンカ大学との絆を一層深めることができた。 また、2017年度は講演会の件数は8件、参加者数は415名であったが、2018年度は左記の通り14件、931名と増加しており、教育研究の成果を還元していると言える（9-②-2）。	特になし。	A	今後も国内・国外を問わず教育・研究機関や研究者との連携を深め、ラテンアメリカ地域を知るための機会を数多く提供していきたい。	特になし。	9-②-1 2018年度ラテンアメリカ研究センター活動記録 9-②-2 2017年度および2018年度ラテンアメリカ研究センター活動記録	研究者のみならず学外の一般市民が参加可能な講演会を通して社会貢献の取り組みを継続していただきたい。	実例として、2019年度は11月2日（土）に名古屋ユネスコ協会の第9回平和セミナーに1つとして参加し、研究員の永田智成先生に講演していただいた。今後類似の活動に協力し、また一般市民が参加することのできる講演会等を実施する機会をできるだけ提供したいと考えている。	「改善計画」の達成状況（○/×）	×	2020年度は9回の主催・共催講演会を開催したが、コロナ禍のため、基本的にオンライン・学内者限定で行わざるを得ず（ただし、そのうち3回は事前申込制で学外者にも公開）、学内で一般の方にも参加していただけるようなイベントを催すことはできなかった。また例年行っている名古屋ユネスコ協会平和セミナーについても、同様の理由から実施に至らなかった。したがって、達成状況は×とせざるを得ないが、社会的事由によるもので致し方なく、このような事由が改善され次第、従前の状態に戻すよう努力したい。
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1)その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	年度当初におおその企画を立案し、その計画に年度途中でセンター員からの提案や海外・国内の研究機関からの呼びかけなどに応じる形で企画を追加しているが、それぞれに目標件数を設定するようなことは特におらず、実施可能な講演会等を適宜立案し実行している。このようにして実施した講演会の件数と参加者数を振り返り、センター会議において確認することで検証を行っている（9-③-1）。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	9-③-1 2018年度第1回および第2回ラテンアメリカ研究センター会議議題					



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式2（基準9）社会連携・貢献

研究所/研究センター等名称		ヨーロッパ研究センター		氏名		太田 達也									
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策	根拠資料								
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、技術的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。						
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流を行っているか。 【2018年度学長方針】	ヨーロッパ研究センターでは、原則としてすべての催しについて公式HP上で開催通知・開催報告を掲載し、また学外の関係者に対しても広く広報を行い、研究成果を社会に還元することに努めている（9-②-1）。また、『ヨーロッパ研究センター報』を毎年刊行し、関係諸機関に送付するとともに、公式HPでも公開すること、研究成果を広く公開している（9-②-2）。	2019年1月12日に開催したシンポジウムには関東・関西・九州からも来場者があり、ポジティブな反響が寄せられた。このシンポジウムについては、当日の発表と議論の内容を文字起こしした記録冊子を作成し、関係諸機関に配布したことで、研究成果の社会還元となった（9-②-1）。	『ヨーロッパ研究センター報』第25号掲載の論文数が3本であり、うち1本は招待講演者のものであった。今後はより充実した内容の冊子とすべく、センター員に対し積極的な投稿を呼びかけたい。	A	2019年度以降も、できるだけセンター員以外の学内者・学外者にも多く参加してもらえるような催しを企画・実現していきたい。	センター長がセンター会議の席上において、『ヨーロッパ研究センター報』への積極的な投稿を呼びかける。また、事務局からも、センター員に対し、リマインドメールを発信して、投稿期限のリマインドを行う。	9-②-1 記録冊子『シンポジウム『ヨーロッパ言語共通参照枠』（CEFR）増補版と複言語・複文化主義 - 変革を求められる日本の外国語教育をめぐる -』 9-②-2 『ヨーロッパ研究センター報』第25号	3月の研究科委員会後に、研究科のFD・自己点検報告会の実施を検討している。	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況（○/×）	達成できていない理由（×の場合理由を記載）	
		③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	社会連携・社会貢献の適切性については、センター会議において活動報告を行うことで検証している（9-③-1）。	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	9-③-1 「2018年度第1回・第2回ヨーロッパ研究センター会議議事録」					



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式2（基準9）社会連携・貢献

		研究所/研究センター等名称		法曹実務教育研究センター		氏名		久世表士						
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明		点検・評価		自己評定		将来に向けた発展方策		根拠資料			
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。					
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流を行っているか。 【2018年度学長方針】	従来は法曹実務教育研究センターにおいて一般市民を対象に法律相談を企画し、チラシを作成するなどして広報を行っていたが、相談申し込みがほとんどなく、また、法科大学院生の実務教育に適するものがすくなく、現在のところ、現在法律相談を停止している。一般市民を対象とするものではないが、南山経済人クラブと接点を持ち南山大学卒業生の企業経営等に役立つ法律情報（民法改正など）を提供するなどして社会経済活動に何らかの貢献ができるよう企画した。	南山大学関係であるが、新年賀詞交換会や南山大学経済人クラブと接点を持てたことは、今後の活動に意味を持つと考えている。	一般市民に対する法律相談については現状実施が難しいものとなっているが、法科大学院院生の実務教育、一般市民への社会貢献の観点からは有意義であることに鑑み、何らかの形で法律相談を実施することを再検討したい。	B	2019年度の事業において、南山経済人クラブと協議して、従来の広報に加え、同クラブを巻き込んだ形でのセミナーを企画したいと考えている。また、セミナーの実施会場は従来は南山大学で行っていたが、名駅、栄といった都心での開催も実施したいと考えている。	法律相談の実施は現状難しいものがあるが、2019年度に企画ワーキングチームを中心にして形を変えての実施ができないか検討したい。	南山経済人クラブとの連携に加えて、リーガル・クリニックや法律相談など臨床法学教育を行う法務研究科の付属施設として、学生が、実務体験を通して求められる力を習得することを目指すことを教育プログラムの再開についても検討がなされることを期待します。	3月の研究科委員会後に、研究科のFD・自己点検報告会の実施を検討している。	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況 (○/×)	達成できていない理由 (×の場合理由を記載)
													×	法律相談に代わる短期のエクスターンシップを企画していたが、コロナの感染が拡大し、緊急事態宣言が4月と1月に発令されたため、感染防止の観点から実施を見合わせた。法学部との連携については、医師模擬専門のZOOM参加の呼びかけを考えていたが、緊急事態宣言の発令により実施が延期されたため具体的な連携活動ができなかった。南山経済人クラブとの連携も同様の理由から行うことができなかった。



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式2（基準9）社会連携・貢献

研究所/研究センター等名称		法曹実務教育研究センター		氏名		久世表士					
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策	根拠資料	3月の研究科委員会後に、研究科のFD・自己点検報告会の実施を検討している。	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況（○/×）	達成できていない理由（×の場合理由を記載）
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重度な問題があり、技術的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。				
③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	南山大学法科大学院修了生の弁護士にセミナーのテーマの希望を聞くに留まっている。なお、法科大学院において2018年度に行われた認証評価において、本センターにおける法律相談の有益性について触れられているので、協力弁護士を選任して院生の教育に適した法律相談があれば適宜参加できるようなスポット法律相談ができないか検討をしている。	従来行われてきた弁護士を対象とするセミナーは実施しているが、それを超えての一般社会への社会貢献事業は行われていないが、法律関係者でなく主に経済関係者に貢献できる企画の一步として南山経済人クラブとの連携を申し入れた。	本センターにおいてどのような社会貢献が可能か、広く意見を求めるなどして検討する必要がある。	C	特になし。	2019年度に企画ワーキングチームを中心に検討を加えたい	セミナー案内文書 セミナーレジュメ			



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式2（基準9）社会連携・貢献

研究所/研究センター等名称		人類学博物館		氏名		吉田 竹也								
評価基準	点検・評価項目	南山大学の「評価の視点」	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策	根拠資料							
			[1] 点検・評価項目毎に設定した「南山大学の『評価の視点』（左記参照）」について、現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重度な問題があり、技術的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。					
基準9	社会連携・社会貢献	② 社会連携・社会貢献に関する方針に基づき、社会連携・社会貢献に関する取り組みを実施しているか。また、教育研究成果を適切に社会に還元しているか。	(1) 社会連携・社会貢献に関する取り組み、地域交流を行っているか。 【2018年度学長方針】	(1) 誰もが楽しめる博物館（ユニバーサル・ミュージアム）を目指す。名古屋ライトハウス（名古屋盲人文化情報センター）や名古屋盲学校との連携および協力を図っている。 (2) 大学博物館間の連携として明治大学博物館および名古屋大学博物館との連携事業を実施している。 (3) 名城大学附属高校との連携授業を行っている。 (4) 南山男子部への授業協力（資料の貸出）およびサテライト展示の制作を行っている。 (5) 国際博物館会議（ICOM）傘下にあるUMAC（University Museum And Collections）のメーリングリストを通じて国際的な大学博物館のネットワークへ参加している。	ユニバーサル・ミュージアムを目指す博物館として認知度が高まって来ている。特に視覚障がい者及びその団体の利用が増えつつある。2018年度には点字技能士協会の研修会を受け入れて、人類学博物館のユニバーサル化の経緯を説明し、展示案内・解説を行った。	視覚以外に障がいのある人への対応を検討する必要がある。まず、当面は聴覚障がい者に対するアプローチを考えたい。	A	UMACメーリングリストを活用した情報発信を充実させていく。特に2019年度はICOM京都大会があるので、その機会を活かして国際的な認知を高めたい。	2019年度に、外部の有識者の意見等をも踏まえて、可能な改善方策を検討したい。	6-1. 人類学博物館webサイト掲載の年報 (http://rci.nanzan-u.ac.jp/museum/katsudou/nenpou/)	3月の研究科委員会後に、研究科のFD・自己点検報告会の実施を検討している。	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況 (○/×)	達成できていない理由 (×の場合理由を記載)
	社会連携・社会貢献	③ 社会連携・社会貢献の適切性について定期的に点検・評価を行っているか。また、その結果をもとに改善・向上に向けた取り組みを行っているか。	(1) その取り組みの適切性について、どのような方法で検証を行っているか。	点検・評価項目「社会連携・社会貢献に関する取り組みの実施、教育研究成果の社会への還元」で挙げた(2)・(3)については博物館運営委員会において報告し、審議しており、その際取り組みの適切性や、課題、今後の改善策などについて意見交換している。 (1) (4) (5)については予算に関わる事業ではなかったため、これまでは運営委員会での審議や報告はしてこなかったが、今後、活動全体の適切性という観点から運営委員会に置いて点検していきたい。	特になし。	現状において特に改善すべき点は認識していない。	A	5年に1回程度、外部の有識者による博物館評価を実施する方向で検討する。	特になし。	2018年度第1回・第2回人類学博物館運営委員会議事録	具体的な博物館評価の実施計画を策定してください。	2019年度中に2回実施する。12月に6名の外部評価委員に来てもらい、人類学博物館内にて第1回目を実施した。その際には、過去5年の入館者数等の定量データと来館者アンケート、来館者行動調査のデータ、博物館スタッフの自己点検報告等に基づいて、概要の説明をした。第2回目は3月に実施する予定であるが、第1回目の委員会での博物館運営および評価について様々な問題点が指摘されたので、当初計画していた公開での評価ではなく、博物館の運営・評価体制の見直しについての意見を求める方向に修正をした。なお、実際の運営・評価体制の見直しについては、人類学博物館運営委員等での議論を経て、2020年度中に固められるようにしたい。	×	2020年度中に人類学博物館評価委員会の意見を踏まえて、「理念」と「使命と役割」の策定作業を行った。改善計画として挙げた「運営・評価体制の見直し」はこれらに基づいて進める必要があると考えたため、2020年度には達成できていない。現在、人類学博物館の業務の見直しも含めて検討中である。



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		大学将来構想委員会		氏名		鳥巢 義文						
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価		自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況 (○/×)	達成できていない理由 (×の場合理由を記載)
			[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。		[1]自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り留めが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2]500字以内で簡潔に記載してください。					
1	研究科、学部等の設置・改組・廃止に関する将来構想	学部・研究科等の設置、改組については、下部組織としてワーキンググループを設置して申請作業を進め、これを全学調整機関として本委員会が議論することにより、学内の合意形成を行う。	円滑かつ適切に学内の合意形成が行われている。	とくになし	S	とくになし	とくになし	南山大学将来構想委員会規程				
2	教育職員の人事案件に関する調整期間	人事権を持つ組織の長を構成員とするほか、事務処理の円滑化を目的に事務部の部長をオブザーバーとしている。教授会審議に先立ち、全学的調整機関として機能している。	円滑かつ適切に学内の合意形成が行われている。	とくになし	S	とくになし	とくになし	南山大学将来構想委員会規程				
3	グランドデザインの中間総括	2017年度8月31日開催の学長室会議において、「グランドデザイン」の中間報告書の作成について了承し、学長補佐を中心に作業を開始した。その後、「2018年度学長方針」において、「Ⅲ. 将来構想 3. 南山大学グランドデザインの刷新」として掲げ、学長補佐を中心に、検討作業を重ねたが、2018年度には、中間報告書を作成するには至らなかった。	とくになし	引き続き、「2019年度学長方針」においても、「Ⅱ. 将来構想 3. 南山大学グランドデザインの点検」として掲げ、文部科学省が2018年11月に公表した「2040年に向けた高等教育のグランドデザインについて（答申）」を踏まえて、点検および見直しを行い、2019年度には、その結果を公表する。	B	とくになし	学長補佐を中心に、執行部が主導的に、点検および見直しを行い、2019年度には、その結果を公表する。	「2018年度学長方針」、「2019年度学長方針」「南山大学における「20年後の将来像」について（最終報告）」	中間報告書の作成と刷新された「グランドデザイン」の公表、その後、報告書の形を整えるまでには至っていない。一方で、2020年2月末までに、学校教育法の改正に伴い「中期計画」の策定が求められている。それを反映した形で、「グランドデザイン」の第2期（2014-2020）の最終年度となる2020年度中に、中間報告書の作成と「グランドデザイン」の刷新、公表に取り組んでいく。	○		



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		個人情報保護委員会		氏名		青木 清						
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策		根拠資料	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況 (○/×)	達成できていない理由 (×の場合理由を記載)	
					[1]点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。	[1]点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2]500字以内で簡潔に記載してください。						[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。
1	個人情報保護委員会の役割	個人情報の取扱について、疑問がある場合には事務局である学長室に問い合わせを行い、必要に応じて委員会にて審議を行っている。	個人情報保護に関し、2018年度は3件の相談があり、うち1件は個人情報保護委員会にて審議を行った。2件については、個人情報保護ガイドラインに沿って回答を行った。	A	引き続き、個人情報保護ガイドラインに則り対応を行う。	特になし	「個人情報保護ガイドライン」					
2	「情報セキュリティマニュアル」の見直し	個人情報保護委員会の所管事項となっている「情報セキュリティマニュアル」が、2010年以降更新されていない。	特になし	B	修正の必要な箇所が発見されており、また内容の妥当性についても確認が必要である。	特になし	情報センターの協力を得て、2019年度内に内容の確認・見直しを行う。	「情報セキュリティマニュアル」	情報センター等の他関係部局とも協力して「情報セキュリティマニュアル」の見直しを至急進めたい。	すでに情報センターと内容の見直しを完了しており、2019年度中には、改訂版を施行する予定である。	○	
3	全構成員の個人情報保護の取組に対する意識向上	新入生については入学ガイダンス、新採用事務職員については新採用ガイダンス研修、新任用教育職員には新任用研修で、リーフレットを配付するとともに、個人情報に関する取り組みについて周知している。その他の在学生および教育職員・事務職員に対しては、PORTA（南山大学ポータルサイト）で周知している。	特になし	B	新入生、新任用教育職員、新採用事務職員以外に対しても、個人情報保護の取り組みに対する継続的な意識の向上が必要である。	特になし	スタッフ・ディベロップメント委員会と協力し、個人情報についての意識向上を図るため、「個人情報について」のSD研修会を開催する。	「南山大学における個人情報保護に関する取り組み」 <a href="https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/privacy/kojinjyo.html">https://www.nanzan-u.ac.jp/Menu/privacy/kojinjyo.html</a>				



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		コンプライアンス室		氏名		神原 秀訓						
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価		自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	内部保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況 (○/×)	達成できていない理由 (×の場合理由を記載)
			[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。		[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。					
1	コンプライアンス室の管掌事項と他組織との関係の整理	規程に定められた管掌事項の全てをコンプライアンス室のみで処理できる仕組みにはなっていない。2017年度より危機管理担当と規程担当を置く体制となったが、危機管理関係については学園の危機管理担当理事や内部監査室との関係、規程関係については総務課の事務分掌との関係を整理する必要がある。	特になし	危機管理マニュアル（「南山大学における危機管理について 2017年度改訂版」）冒頭の「1. 危機管理案件発生時の報告」に危機管理全般にかかる行動原則が定められており、そこには「必要に応じてコンプライアンス室に相談すること」と定められている。しかし、どのような場合に誰がどのタイミングで相談するかは明確になっていない。	C	特になし	・危機の重大性の分類等に応じて、誰がどのタイミングでコンプライアンス室と相談するかについて明確にする。その際、大学組織であるコンプライアンス室と学園の危機管理体制の関係についても留意する。 ・規程関係について、前述したとおり、コンプライアンス室と総務課の役割が異なるため、双方への事前確認が必要なることを、規程の制定・改正手続きを説明する総務課発出の文書に追記する形で構成員に周知する。	・南山大学における危機管理について 2017年度改訂版」(1-1) ・コンプライアンス室規程第1条・第2条	我が国のみならず欧米諸国を中心に、世界的に法令遵守への機運が高まっており、大学に対して文部科学省のみならず、マスコミの監視が厳しくなり、社会の注目も高まります。法令順守意識の更なる向上のためには、身近な問題も軽視せず、取り上げる姿勢を示すことが重要であろうと思います。ぜひとも改善すべき点に挙げられている課題に早急にお取り組みいただきたいと存じます。	危機対応については、総務担当副学長が行い、対外的な危機対応となる場合は、総務担当副学長が学園の危機対応担当理事と協議し、必要があれば、学園での対応を依頼する運用とし、この形に整合させるため、コンプライアンス室から危機管理担当を除く規程改正を行う。規程・協定等の確認については、どのような場合にコンプライアンス室への確認が必要なるかを示した文書となる各事務課室に配付し、周知徹底する。	○	
2	依頼事項への対応	コンプライアンス室規程の管掌事項に基づき、以下の活動を行った。なお、受け付けた依頼については、全て完了した。 ・コンプライアンス相談1件 ・新規の規程・協定・契約書案の内容確認：規程12件、協定1件、契約書5件（依頼件数としては7件） ・兼業申請書の内容確認：全ての兼業申請書の事前確認（具体的な申請書枚数の統計は取っていないが、学長室からの依頼は計39回） ・コンプライアンス規程第4条に定められた委員会へのコンプライアンス室長のオブザーバ出席および第5条に定められた委員会の記録の確認。 ・研究倫理教育（e-ラーニング）の受講状況および誓約書の管理：自己点検・評価委員会および大学院委員会の求めに応じた資料の作成・提出。	依頼事項については遅滞なく対応が完了できている。	結果として現状に説明した案件を処理しているが、これが本来コンプライアンス室の確認が必要な案件全てであるかについては確認ができていない。	A	特になし	上記1とも関連するが、どのような案件の場合にコンプライアンス室への確認が必要かについてを、学内に周知し、依頼漏れが発生しないようにする。	・コンプライアンス相談等受付表 ・規程確認等相談受付表 ・各委員会記録 ・自己点検、評価委員会資料、大学院委員会資料				

(1) 前年度「点検・評価」改善すべき点として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。  
(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  
※必要に応じて行を増やしてください。

(1) 前年度「点検・評価」改善すべき点として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。  
(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  
※必要に応じて行を増やしてください。



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		IR推進委員会		氏名		大石 泰章					
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策		根拠資料				
		[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重度な問題があり、本格的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。			
1	IR分析基盤構築	『IR関連ソフトウェア開発方針については、IRに関するアプリケーション開発を行うのではなく、将来を見据えたIR分析基盤構築を中心に実施する。（2018年5月28日協議会了承）』に基づいて、IR分析基盤の構築を行った。 2018年度上期において、「IR分析基盤事前検証」を実施し、IR分析に資する各種ソフトウェアの選定および分析手順の確認を行った。これを踏まえ、2018年度下期には、本格的に「IR分析基盤の本番環境作成」に取り組んだ。結果、Vertica (Data Warehouse 以下、DWH)、DataSpider (Extract/Transform/Load 以下、ETL)、QlikSense (Business Intelligence 以下、BI) の各種ソフトウェアおよびハードウェアの導入が完了した。	IR分析基盤を準備することで、以下の効果が上がった。 ①DWH内のデータを使用した分析が容易となった。 ②分析結果を共有することも容易となった。 ③データを時系列で保持するため、これまで実施が難しかった時間を跨った分析も可能となった。 これを裏付ける結果として、以下の分析を試行的に行った。 ①出身高等学校と大学入学後の学修成果との相関：高校とGPAには明確な相関関係が存在した。 ②上場企業への就職者と成績あるいは留学経験有無との相関：上場企業に就職した学生の成績は必ずしも優秀ではなかった。また、留学経験があるからと言って、上場企業に就職し易いとは限らなかった。	試行的分析の目的、結果、課題を、以下に示す。 【目的】 「機械学習」を活用し、ある特定の進路（職種、就職先など）へ進んだ学生の在学時の学修状況をモデルとし、現在、在学中の学生へ「同じ進路を実現するために重要となる学修（授業、課外活動など）」を提案する仕組みを検証する。 【結果】 既卒者の学修実績をモデルとして、在学生への学修内容の提案は、今回使用したデータだけでは、実現困難なことが明らかとなった。 【課題】 「機械学習」の結果の信頼度を上げるためには、分析対象データをより広範囲に選択する必要がある。しかしながら、分析対象データに応じた最適なモデル選択が困難である。	B	2018年度までに、IR分析基盤をDWH、ETL、BIツールで構築することができた。また、分析するためのプロセスについても明確化ができた。今後は、以下の点について重点的に取り組んでいきたい。 【目標】BIツールの利用促進 ①執行部への説明 大学の経営改善、教育の質保証といった観点から、大学の意思決定機関の構成員に対して、BIツールができること、BIツールの利用方法等を説明する。 ②教職員への周知/教育 教員および事務職員に対して、広くBIツールができること、BIツールの利用方法等を説明する機会を設ける。	IR分析基盤の枠組の構築および分析のためのプロセスの明確化を実現した。今、2019年度の目標は、既存データを有効活用し、大学運営に関係する高度な戦略立案に資するIR分析の実践である。具体的には、IRによる入試結果の分析と、その分析結果の活用について検討する。	『南山大学IR関連事業(評価報告書)第1.0版』P.12～P.16	IRが実践段階に移行するのであれば、IR推進室メンバーからIR分析基盤によるIR機能の学内での活用方法（IR推進室への依頼手続きや分析結果の開示方法等）や必要となる予算措置について検討・提案していく必要があると思われる。	2019年度は、大学執行部がIR推進室メンバーからIR分析基盤によるIR機能の学内での活用方法（IR推進室への依頼手続きや分析結果の開示方法等）や必要となる予算措置について検討・提案していく必要があると思われる。	2020年度は、各課室に広くIR分析基盤、BIツールの利用方法を周知し、活用していくために、IR推進室の派遣職員への技術支援を実施し、2020年度までに開発したIR分析基盤やBIツールの機能の習熟度を高め、PORTAに蓄積しているデータにより、新たな分析のためのアプリケーション開発の可能性についても検討した。その結果、既存のBIツール(就職キャリアアプリケーション)への理解は深まったが、新たなアプリケーション開発や他課室での活用には至っていない。

(1) 前年度「点検・評価」改善すべき点として示された事項について引き継ぎ点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。

(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。

※必要に応じて行を増やしてください。



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		IR推進委員会		氏名		大石 泰章						
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価		自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況 (○/×)	達成できていない理由 (×の場合理由を記載)
			[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。	[2]「改善すべき事項」を記述してください。		[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。	[2] 500字以内で簡潔に記載してください。					
2	帳票自動生成基盤構築	1. 帳票自動生成基盤の構築を行い、毎年5月に文部科学省が実施する「学校基本調査」について、2019年分より調査票の帳票を自動生成することが可能となった。 2. 帳票自動生成基盤構築によって、以下の帳票作成についてサポートが可能となった。 調査票がXMLファイルで提供されれば、汎用的に入力項目および変換ロジック等を定義でき、必要な項目に調査回答を自動的に埋め込むことができる。	1. 「学校基本調査」に関する調査票自動生成により、調査所管部門の総務課や調査に関連する各担当課室の事務作業の合理化、効率化が期待できる。 2. 上記の調査票以外（XMLファイルで提供されることが条件）についても、調査票作成における事務作業の合理化、効率化が期待できる。	1. 本来は、調査票がXML形式以外のEXCEL形式であっても、帳票自動生成できることを目指していたが、現段階では実現できていない。 2. 本来は、調査票内の回答事項を導き出す変換ロジック等については、極力省力化あるいは内製化で作成できることが望ましい。しかしながら、現段階ではほぼ業者にオーダーメイドで作成してもらわなければならない。	B	「学校基本調査」は毎年調査票内の回答事項が変更となる。しかも、4月に変更情報が通知され、5月中には回答しなければならない。かなりの短期間での変更対応が要求されている。今回作成した「帳票自動生成系」で学校基本調査を回答するためには、短期間で変更情報を反映しなければならぬ。2019年度も同じ調査スケジュールとなることが予想されるので、2019年度の対応を今後につなげるべく、より短期間かつ大きな変更に対応できるシステムおよび体制を構築したい。	外部から要請のある各種調査には、多様な入力ファイルや制約が存在する。このような環境の中で、すべての要請に対して帳票自動生成できることが望ましい。このためには、EXCEL形式のファイルや入力制限のあるファイル等に対応できるような仕組みが必要となる。今後は、調査票作成における事務作業を極力合理化、効率化できるように現在の「帳票自動生成系システム」の改善に取り組んでいきたい。	「学校基本調査」調査票				



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		キリスト教センター運営委員会		氏名		VARGHESE, Rejimon							
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料							
	[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重大な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。					
1	宗教心の涵養にかかる事業の実施展開	キリスト教を知る、外国語を学ぶ、趣味・芸術の3分野合計15講座を学生・一般向けに開講した。延べ122名が受講し、宗教心の涵養、外国語運用能力の向上、教養の充実等個々の希望に合わせて講座が活用されている。12月にはクリスマスチャリティーバザーを学生団体の協力を得て実施し、売り上げを慈善団体に寄附している。学生・教職員の宗教的諸活動の推進のため、キリスト教・宗教的活動を行う課外活動団体への部室使用および活動場所を提供しているほか、学内各種団体の活動場所として施設を利用させている。特に食堂は学内唯一の調理ができる場所として、ゼミナールの懇親会、大学祭前の試作会等に多く利用されている。さらに、学外団体に対しても、ハンドベルでの聖歌演奏、キリスト教音楽の練習場所、カトリック信者の集い等、キリスト教センター利用規程に定める範囲内において、地域社会や信者の方に対してもご利用いただいている。ロゴスセンター聖堂等を利用した結婚式についても神言会と連携して、2組の挙式を行った。	特になし。	A	特になし。	キリスト教センター講座の開講状況等はキリスト教センター事務室を通じて、講師に対してスケジュールの提出および実施状況の定期的な確認を2019年度より行う。結婚式の運営および費用等の負担について、2019年度より事務局が神言会と協議できる準備を始める。	南山大学キリスト教センター規程第2条 南山大学キリスト教センター利用規程第7条 2019年度第1回キリスト教センター運営委員会資料	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況 (○/×)	×	キリスト教センター講座の運営に関して、キリスト教センターで担当すべき事項の詳細について一部明確化できていない。現在、新型コロナウイルス感染症により講座が開講できていないが、適切な運営に資する体制作りを引き続き検討することとする。	
2	宗教教育委員会との連携	学内のキリスト教精神、宗教心を養い育むための活動を推進する組織は、本委員会の他に宗教教育委員会が存在している。2018年度は本委員会および宗教教育委員会が所管する業務を各々行い、その中で本委員会で費用支出をしている課外活動団体（1団体）の活動について、学生課も加わり連携や情報共有を行い、適正な行事運営・活動に関して協力をした。	2018年7月にキリスト教センター交流会（本委員会所管）、降誕祭（宗教教育委員会所管）の運営を行う課外活動団体に対して、学生課の主導の下、援助金の取扱いを含めた行事の適切な運営方法について協働して助言を行った。それにより、一所管部署としてではなく、関係部署が連携して課外活動団体の活動に関して対応することができた。	B	特になし。	本委員会の事務所管は総務課、宗教教育委員会の事務所管は教務課でそれぞれ異なるため、まずは事務部署間においてそれぞれの業務と違いを認識できるように、情報共有を行う体制の検討を2019年度より行う。							

(1) 前年度「点検・評価」改善すべき点として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。

(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。

※必要に応じて行を増やしてください。

(1) 前年度「点検・評価」改善すべき点として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。

(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。

※必要に応じて行を増やしてください。



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

		委員会/事務組織等名称	キリスト教センター運営委員会		氏名	VARGHESE, Rejimon						
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料						
		[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況（○/×）
(1) 前年度「<点検・評価>改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。  (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  ※必要に応じて行を増やしてください。	3	学習支援活動	学習支援活動は、大学近隣地域の小・中学生を対象にキリスト教センター設置前年の2016年度より開始した。年間20名程度の児童・生徒を対象に一般・学生の指導ボランティアの協力を得て、学習支援を実施している。活動は、平日夜間および土曜日昼間に、個別または少人数で指導を行っている。	学習支援活動に参加していた児童・生徒およびその保護者とボランティアの間に信頼関係が生まれており、良い形での交流がみられる。親とは素直に話せない年代の生徒が、大学生スタッフとの学習には集中して臨めた例もあり、大学ならではの学習成果をあげたと言える。指導ボランティアのうち、教職に就くことを目指している学生もおり、教員免許取得に向けての実践的な活動の場にもなっている。実務責任者をはじめとしたロゴスセンター居住神言会員と指導ボランティアの間で、年2回のボランティア茶話会を実施し、学習支援活動についての意見交換を図り、より良い活動を目指している。	学習支援は個別支援を原則としてきたため、受講児童・生徒と指導ボランティアのマッチングおよび受講児童・生徒、ボランティア双方の当日の欠席等にかかる対応等で事務職員の業務負担が受講人数、ボランティア人数に比例して生じている。今年度は、欠席連絡等に関して一定のルールを制定し負担軽減を少しではあるが図ることができたが、継続して学習支援活動に係る合理化、省力化について検討する。	B	茶話会については継続して実施し、指導ボランティアの意見を聴取した上で、より良い活動に資することに学習支援活動への反映を行っていく。学習支援活動は指導ボランティアの存在が不可欠であるので、必要人員の確保に向けて学内関係部署等との連携について検討する。	学習支援活動は土曜日を除き、事務業務時間外（17:00～）に活動が行われるため、支援曜日を集約する等の施策により、活動の質は維持しつつ、業務負担の軽減の可能性についてキリスト教センター（総務課）および実務責任者を中心に2019年度も引き続き、検討する。	南山大学キリスト教センター規程第2条 第2018年度第3回キリスト教センター運営委員会資料	地道な努力に敬意を表します。ただし、事務員の負担軽減のための省力化には限界があるかもしれません。事務業務についてもボランティアを募るなどの対策が必要な気がします。	学習支援に参加している児童・生徒の中には、个性的で特別な対応を必要とする場合がある。これ以外の児童・生徒には事務の負担は少ない。特別対応が必要な児童・生徒は当日の授業直前のキャンセルも多く、保護者、ボランティアに対してその連絡・調整のために事務職員の負担が学習支援活動当初より課題とされている。定時以降の諸対応については、はロゴスセンター在住の先生方(神言会員)に協力を依頼することで事務職員の負担を軽減している。	学習支援に関して、運営開始から3年以上経過し、特殊な対応を除き事務手続等はルーチン化しつつある。現在、新型コロナウイルス感染症により学習支援を実施できていないが、再開に向けての準備等をロゴスセンター在住の先生方（神言会員）と引き続き連携して行うこととする。



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		SD委員会		氏名		青木 清					
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料				
					内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画		「改善計画」の達成状況 (○/×)	達成できていない理由 (×の場合理由を記載)		
1	教育職員のSD活動への参加	<p>南山大学スタッフ・ディベロップメント (SD) 委員会規程第1条に定められているとおり、SD活動の対象は教職員全体であるが、教育職員の中でその意識が十分であるとは言い難い。</p> <p>大学等の運営に必要な知識・技能を身に付け、能力・資質を向上させるための研修という観点で、今後も教育職員を含む大学構成員全体でSD活動に取り組んでいく必要がある。</p>	<p>特になし。</p> <p>教育職員がSD活動に参加する割合をさらに高めたいと考えている。</p> <p>2018年度の参加実績は以下のとおりである。</p> <p>2018年度 (3回合計107名)</p> <p>①学生部・FD・SDフォーラム「南山生のアルバイトをめぐる状況」(2018年7月4日開催) : 39名 (教育職員23名、事務職員16名)</p> <p>②SD講演会「レーモンド・リノベーション・プロジェクト」(2018年10月17日開催) : 35名 (教育職員9名、事務職員26名)</p> <p>③FD・SD講演会「COILの実践と可能性について」(2018年12月5日開催) : 33名 (教育職員21名、事務職員12名)</p>	B	特になし。	<p>学部で独自に開催されるFD研修の中で、内容がSD活動に近しいものがあつた場合に、共催を検討して頂くよう要請する。</p> <p>共催する中で教育職員がSD活動の内容をより一層理解して頂き、SD活動への参加が促進されることを目指す。</p>	<p>・南山大学スタッフ・ディベロップメント (SD) 委員会規程第1条</p> <p>・学生部・FD・SDフォーラム実施報告書 (2018年7月13日PORTA掲載)</p> <p>・SD講演会 (2018年10月19日PORTA掲載)</p> <p>・FD・SD講演会実施報告書 (2018年12月7日PORTA掲載)</p>	<p>事務職員と教員が連携して対応すべき課題が多くあることに鑑み、SDとFDの共催など、事務職員と教員の連携の提案や教員の参加を奨励する必要があると思われます。</p>	○		
2	講演会形式だけでないSD活動の展開	<p>講演会形式だけでなく、派遣・受入事業など、新しい形でのSD活動の展開について検討する。</p>	<p>講演会形式だけでなく「協定校イスタンブール・セヒール大学とのSD研修派遣・受入事業」など、新しい形でのSD活動にも取り組んだ。</p>	A	特になし。	<p>大学基準協会への研修員派遣について、その成果を教育・研究支援事務室などの特定課室だけでなく、大学事務職員をはじめとする構成員全体に還元する内容を検討したい。</p>	<p>南山プレティン206号「トルコの大学とのSD (スタッフ・ディベロップメント) 研修」</p>				



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		予算委員会		氏名		鳥巢 義文					
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価		自己評価	将来に向けた発展方策		根拠資料			
			[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。		[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。				
1	学納金改定および支出削減計画策定小委員会の活動内容	2018年度より予算委員会の下に設けられた「学納金改定および支出削減計画策定小委員会」（以下、小委員会）は、2018年度中に5回開催された。2018年度支出予算削減に向けた方策策定のほか、学納金改定に関しては複数大学を訪問しヒアリングを行い、これを参考に2021年度からの改定方針、および金額案について議論を進めた。	従来予算委員会の枠内では議論しきれなかった「学納金改定」および「支出予算削減」について、小委員会の設置により時間をかけて検討を進めることが可能となった。2018年度の支出予算は小委員会での議論を経て、全教室の消耗品等購入予算一律3%カット、および前年度決算の予実対比を基にした当初予算再精査による削減を実施したことにより、約40,000千円の支出予算削減を実現した。また、学納金改定については改定に関する基本方針の作成を行い、予算委員会に提案した。これを受け予算委員会において各学部に対し意見聴取を行ったところ、改定に前向きな意向を確認することができた。	A	学納金改定については小委員会の最終提案（金額改定案）を2019年度予算委員会において審議する道筋を立てた。これが承認されれば、小委員会における学納金の議論は一段落となり、当面は支出予算削減について引き続き検討を進めることとなる。各予算所管部署における削減可能な部分の洗い出しを行うことで、支出予算の抑制につなげるため、これについては小委員会のメンバーである各部の長が中心となり、都度検討するものとする。	小委員会に関して現時点で改善すべき事項は特段無いが、収入の減少等発生した際には、小委員会を招集し即座に対処策を検討することとした。	2018年度第5回学納金改定および支出削減計画策定小委員会資料2-1「学生納入金の改定について（小委員会案）」	収入の減少など収支に大幅な影響を及ぼす事象が発生した場合は、学納金改定および支出削減計画策定小委員会が速やかに検討を行い、予算委員会に対して対応策を必要があれば提案する必要があると見られます。	2019年11月14日付学長名文書「2020年度予算編成に際して（お知らせ）」で触れている通り、入学者数が確定し当年度の収入見込額が固まった時点で、学納金改定および支出削減計画策定小委員会において、収入見込額に応じた計画の見直しを検討することとします。	○	
2	財務シミュレーションを意識した大学運営・業務遂行	予算委員会では近年財務シミュレーションを資料として提示する機会を増やしている。これは学納金改定に向けた議論を進めていたためであるが、予算委員会委員に対し、財政面における中長期的な展望を理解した上で、各所属において運営（事業立案等）を行ってほしいという意図もある。	財務シミュレーションを複数回提示してきたことにより、中長期的な財政の見通しは委員会内である程度共有できたと考える。	B	委員会内で共有した中長期的な財政の見通しを、各委員が各所属に還元することで、常に収支を意識しながら立案を行い、業務を遂行していくこととする。新たな事業を立案する場合は、財源の確保は可能であるのか、また人件費削減に繋がるような業務効率の向上が見込めるのか、といった視点を各構成員が持つことが重要である。	財務シミュレーションに記された各年度の数値を意識し、大学運営を行うことは重要である。特に学納金収入と教員人件費支出については、大学の財政に多大な影響を及ぼす可能性があるため、財務シミュレーションに則った新入生の確保、教員採用計画の立案・遂行が求められる。この点については予算委員会として状況を注視していく。	2018年度第6回予算委員会審議資料1-7は、はじめ2018年度中の予算委員会に3度提示				



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		入学試験委員会		氏名		鳥巢 義文				
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策		根拠資料			
					内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画				
	[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重度な問題があり、技術的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。			
1	カトリック系高等学校を対象とした入試制度の変更への対応	2018年度（2019年度入試）よりカトリック系高等学校を対象とした「特別入学審査」を実施した。実施にあたっては、5月にカトリック系高等学校に要項を送付、6月には進路指導担当教員を対象としたエリア別説明会（北海道、東北、東海、九州）を開催し、新しい入試制度の周知に取り組んだ（1-1～3）。7月初旬までに各校からの出願予定者数報告の取りまとめ、9月中旬に出願受付、10月初旬に試験を実施した。初年度の入試実績としては、志願者46名、合格者40名であった。一方、従来の「推薦入学審査（カトリック系高等学校等）」は、志願者94名、合格者78名であった（1-5）。試験実施後は、個別にカトリック系高等学校を訪問し、ヒアリングを実施した（1-6）。2020年度（2021年度入試）には、「推薦入学審査（カトリック系高等学校等）」を廃止することを決定したため、引き続き、高等学校への周知活動が必要となる。	新しい入試制度の周知期間は実質3カ月程度となり、かならずしも十分な期間を確保できたとは言えない状況ではあったが、募集人員40名に対して、46名の志願者があった。志願者の内訳としては、東海エリアの高等学校だけではなく、エリア別説明会を実施した北海道や九州等の遠隔地のカトリック高校も含まれており、周知活動の一定の成果があった（1-2, 1-5）。試験実施後のヒアリングの結果、「推薦入学審査（カトリック系高等学校等）」の廃止については、概ね理解を得られている状況である。一方で、一部のカトリック高校からは生徒の中には、勉強が中心で部活動や課外活動など「活動報告書」に記載できる内容がない生徒もいるため、このような生徒の受け皿として「推薦入学審査（カトリック系高等学校等）」の存続を求める意見もあった（1-6）。	試験実施後のヒアリングの中では、「特別入学審査」の改善すべき事項についての意見も見られた（1-6）。入試日程に関して、全体的に時期が早く、夏休み期間での生徒への指導が必要となった、校内選考を前倒しで行う必要があった等、進路指導の現場での負担があったとの意見があった。出願書類として新たに設けた「活動報告書」については、書く分量が多く（A4用紙・4枚）生徒の負担が大きく、出願のハードルになっている、勉強が中心で部活動や課外活動を積極的にに行っていない生徒には書きづらく、指導が難しい等の意見があった。	B	2019年度（2020年度入試）においては、2020年度（2021年度入試）での「推薦入学審査（カトリック系高等学校等）」の廃止を念頭に、「特別入学審査」の募集人員を67名（前年度40名）に増やした。2019年度入試より多くの志願者を確保することを目標として、できるだけ早期に高等学校へのアプローチをする必要がある。2019年4月中には入試要項の印刷を完了させ、進路指導用に高等学校に提供するとともに、2019年度入試での志願状況等を勘案しながら、高校を個別に訪問し、説明を行うこととする。高校教員対象説明会（6月）やオープンキャンパス（7月）等、高校教員や受験生との接触の機会を積極的に活用し、入試制度の定着を図る。一方で、「推薦入学審査（カトリック系高等学校等）」の廃止についても、個別の高校訪問や文書の送付により、引き続き、丁寧に説明し、高等学校からの理解を得られるようにする。また、「推薦入学審査（カトリック系高等学校等）」の廃止に伴い、勉強に熱心に取り組んだ生徒の受け皿として、指定校推薦にカトリック系高等学校を増やすことも検討する。	「特別入学審査」の入試日程が早い、という意見への対応として、現在の入試日程自体を変更することは困難であるため、2019年度入試より早期に高等学校にアプローチすることで、進路指導の現場での負担が少しでも軽減されるように対応する。2019年4月中には入試要項の印刷を完了させ、進路指導用に高等学校に提供するものとする。なお、2021年度入試からは総合型選抜の合格発表を11月1日以降とすることが文部科学省から求められており、入試日程を現行より遅らせることになるため、今後、改善が見込まれる。「活動報告書」が出願のハードルになっていることについては、各高等学校の進路指導において生徒の書類作成のサポートをいただけるよう依頼する。なお、今後の大学入試における主体性評価が一般的となることが予想される中、現在、各高校現場においてその準備が進められているため、ハードルは下がっていくと考えられるが、高校側の意見を今後も継続的に聴取し、改善の必要性を検討する。	1-1 特別入学審査実施に伴う説明会のご案内 1-2 特別入学審査説明会実施報告 1-3 2019年度「特別入学審査」の新規実施について（お知らせ） 1-4 2019年度特別入学審査要項 1-5 高校別人数表 1-6 カトリック系高等学校へのヒアリング結果について 1-7 2020年度入学試験【入学者選抜方法と募集人員】	新たに実施した「特別入学審査」については、カトリック系高等学校側から入試日程や出願書類などについての様々な意見が寄せられているとのことで、各学部・学科と意見を共有しつつ、本学にとってより良い制度設計を行う必要があると思われる。従来11月に実施してきた「推薦入学審査」については、一部のカトリック系高等学校からは反対の意見も出ていたが、個別の高校訪問や文書の送付などにより、丁寧に説明を行うことができ、理解を得ることができた。「特別入学審査」の入試日程についても、これを踏まえて検討を行い、次年度（2021年度入試）からは試験日を11月下旬に変更した。出願期間を10月から11月初旬に時期を遅らせるため、各高校における進路指導の時間的な余裕が生まれることになる。今後、「活動報告書」等の出願書類の準備に関して、高校教員対象説明会（6月）やオープンキャンパス（7月）、高校訪問等の機会を活用して、高校教員や受験生の対応を継続していく。また、「活動報告書」の様式自体についても、2021年度入試からの主体性の評価導入の流れを踏まえながら、記載項目等の見直し・改善に取り組む。	新型コロナウイルス感染症拡大の影響により、対面によるオープンキャンパスの実施や、高校訪問を縮小する必要があったため、出願書類の「活動報告書」の作成準備に関して、高校教員や受験生に説明をすることができなかった。「活動報告書」の様式の見直しについても、2021年度入試においては、新型コロナウイルス感染症拡大の影響に伴い高校生活における様々な活動が制限された状況への評価のために積極的に様式を見直すことはできなかった。



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		入学試験委員会		氏名		鳥巢 義文						
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価		自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況 (○/×)	達成できていない理由 (×の場合理由を記載)
			[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。		[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。					
(1) 前年度「点検・評価」改善すべき点として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。  (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  ※必要に応じて行を増やしてください。	2	2021年度入試の変更対応	2020年度（2021年度入試）からの「大学入学者選抜改革」に伴う入試制度の変更については、文部科学省の「2年前ルール（2年前告知）」に基づき、2017年度に本委員会でも審議した原案をベースに検討を重ね、2018年12月初旬に2021年度入試の概要の予告文書をWebページで公表した（2-1）。	特になし	2018年12月初旬に公表した予告文書では、2021年度の入学者選抜において、一般入試と全学統一入試[個別学力試験型]の試験内容を大きく変更する予定はないこと、大学入学共通テストの活用方法や主体性の評価についての基本方針を示すに留まった（2-1）。2021年度の入試日程や試験科目等の詳細な検討には至っていないため、2019年度は、本委員会の下部委員会である試験運営委員会および学力検査委員会において具体的に検討を進めていく必要がある。2019年度の前半を目標として、決定した事項を順次公表していく。	B	特になし	英語の資格・検定試験の活用において、従来の「みなし満点」を継続することになるが、対象とする資格・検定試験の種類や基準スコアは見直しを検討する必要がある。2018年度（2019年度入試）まで本学で活用していなかった試験についても、大学入学共通テストの枠組みにおいて活用が認められている資格・検定試験の中から新たに追加することを検討する必要がある。追加採用する試験および基準スコアの設定については、他大学の動向を参考としながら、学力検査委員会で作成することとする。 一般入学試験（一般選抜）における主体性の評価については、出願時に提出された調査書等の資料を「得点化せず、入学後の参考資料とする」という方向性を公表したので、今後は他大学の動向を参考としながら、JeP（JAPAN e-Portfolio）等のe-Portfolioの活用可否、Web出願時に受験生に主体性評価のための資料を記述させる等の可能性を検討し、具体的な評価方法を公表していく。	2-1 2021年度南山大学入学者選抜について（2018年12月6日公表の予告文書） 2-2 大学入学共通テスト実施方針（2017年7月、追加分2018年8月）			



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		試験運営委員会		氏名		平川 武仁								
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策		根拠資料							
					内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画								
<p>(1) 前年度「点検・評価」改善すべき点として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。</p> <p>(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。</p> <p>※必要に応じて行を増やしてください。</p>	1	Q棟内の掲示と受験者の案内	<p>前年度の反省から、Q棟の掲示物の内容や掲示場所、案内担当者の配置等を見直したことで(1-1)、試験室への移動で迷う受験者は少なくなった。しかしながら、今年度も案内が分かりづらい箇所があったため、来年度も引き続き見直しを検討する必要がある(1-2)。</p>	<p>特になし。</p>	<p>一般入試において、案内担当者から、Q棟内のトイレや立入禁止エリアの案内が分かりづらい箇所があるという報告があった。そのため、次年度も引き続き見直しを検討する必要がある。</p>	B	<p>特になし。</p>	<p>人試課で掲示物の準備を進める際に、受験者の動線等を考慮した上で、掲示物の内容や掲示場所を見直す。</p>	<p>1-1「掲示マニュアル」</p> <p>1-2「案内担当者の業務報告書」</p>	<p>内部質保証委員会からの意見・指示</p>	<p>意見・指示を受けて組織が立てた改善計画</p>	<p>「改善計画」の達成状況(O/X)</p>	<p>達成できていない理由(Xの場合理由を記載)</p>	
	2	大学入試センター試験英語「リスニング」の音声メモリの仕分け・配付・管理	<p>大学入試センター試験で使用する音声メモリ（リスニングテストの音源、受験者に1枚ずつ配付）は試験問題と同様に、入試課と試験運営委員で封入作業を行っており、「受験者数+予備」を封入している。監督者の業務においては、封入されている枚数および音声メモリ配付後の未使用枚数については確認していない。また、答案等受け取り担当者についても、使用済み枚数と、未使用枚数の整合性までは確認していない。試験実施後は、未使用分も含めて大学入試センターに返却する必要がある。</p>	<p>特になし。</p>	<p>試験終了後に、英語「リスニング」の音声メモリ1枚の紛失があった。紛失の原因は不明であり、音声メモリの発見に至らなかったため、大学入試センターに事故報告をした(2-1)。</p> <p>現状では、音声メモリ配付後の残数の確認は行っていないが、音声メモリ配付後および答案等受け取りの際に確認を行う必要がある。また、音声メモリの封入方法についても見直す必要がある。音声メモリはSDカードのため小型で紛失しやすいにも関わらず、現状では一試験室に対して全音声メモリを一袋に封入していた。複数の監督者が配付を分担する場合、袋がなく手づかみで袋から音声メモリを出した状態で配付しなければならない監督者がいる状況があった。監督者の人数に応じて、予め小分けする等の工夫が必要である。</p>	C	<p>特になし。</p>	<p>入試課と試験運営委員で行う事前の封入において、1袋に全て封入するのではなく、監督者の人数分等に分けて封入することで、配付時の紛失を未然に防止する。音声メモリを封入する封筒のラベルに「音声メモリ配付後は未使用枚数が正しいか確認する」旨を記載して、監督者も確認する。答案等受け取りの際にも、受け取り担当者が使用済み枚数と未使用枚数の整合性を確認する。</p>	<p>2-1「大学入試センター試験の事故報告書」</p>					
	3	大学入試センター試験の予備監督者の待機期間	<p>大学入試センター試験では、健康上や子女受験の理由により、事前に監督者の交代が生じた場合に備えて予備監督者を用意している。しかしながら、12月中旬に実施する監督者説明会前に、監督者の交代がなかった予備監督者全員を業務免除している。そのため、監督者説明会以降の監督者の交代については、試験室対応班の待機者（事務職員）および試験運営委員で対応している。</p>	<p>特になし。</p>	<p>大学入試センター試験において、試験前の約1週間の期間に監督者の体調不良等による交代（インフルエンザ4名、その他3名）が発生した。予備監督者は既に業務免除にしているため、試験室対応の待機者（事務職員）と試験運営委員により対応した。これにより、1日目については、試験室対応班の待機者は1名を残して全員が監督業務等を担当する状況となった(3-1,3-2)。</p>	B	<p>特になし。</p>	<p>試験当日まで待機期間とした予備監督者（教員）を各試験日3名程度依頼しておき、試験当日までに監督者交代が発生した場合にも対応できるようにする。</p>	<p>3-1「監督者一覧」</p> <p>3-2「監督者等の交代履歴資料」</p>					



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		試験運営委員会		氏名		平川 武仁										
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策		根拠資料	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況 (○/×)	達成できていない理由 (×の場合理由を記載)					
		[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評価の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は、冊子の場合を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。							
	4	試験中の不正行為の未然防止	一般入試・全学統一入試の監督者説明会において、「注意書」の使用方法を説明するためのスライドを追加し、不正行為等に対する対応について周知した（4-1）。	「注意書」は、一般入試・全学統一入試において、計5回使用された。内訳としては、不正行為に見える行為が1件、周囲の受験者への迷惑行為が4件であった。入試期間中の重大な不正行為・迷惑行為等は報告されなかったことから、「注意書」による不正行為・迷惑行為等抑止の効果が一定程度あったと考えられる。	特になし。	A	来年度の監督者説明会で、注意書使用事例として今年度の使用例を紹介し、監督者が「注意書」を適切に使用して不正行為等を防ぐようにする。	特になし。	4-1「監督説明会スライド資料」							
	5	改修工事完了後の試験室割当	キャンパス内第三・IV期工事が終了したことに伴い、今年度試験室として使用する教室を検討をした。また、試験室の検討を行う際に、教室が改修されたG・H棟の試験室を含む、各試験室の収容数の見直しもした（5-1）。	一般入試・全学統一入試において、新しくなったG・H棟を使用したことで、安定しない机や建物の気密性の低さにより発生する音等の問題が改善された。また、昨年度とは異なる試験室を使用したため、収容数と試験室の配置を見直したことで、より適切な環境での試験運営ができた。	特になし。	B	H棟の一部の試験室（H1、H11等）については、監督者より収容数が多いという意見も出たため、収容数を再検討する必要がある。	特になし。	5-1「試験室確認表」							
	6	特別入学審査（カトリック系高等学校等対象）の新規実施	今年度新たに特別入学審査（カトリック系高等学校等対象）を実施した。試験日は、A0入学審査【外国語学部】および国際教養学部特別選抜試験【A0入試型】と同日とした（6-1, 6-3）。	特に大きな問題なく、試験運営を進めることができた。しかしながら、要項の発送時期については見直す必要がある。	特になし。	B	要項の発送時期については、推薦入学審査（カトリック系高等学校等）と特別入学審査（カトリック系高等学校等対象）の両入試の詳細を把握した上で出願を検討したいという高等学校からの意見を受け、5月に送付を予定している（6-2）。	特になし。	6-1「入学審査要項」 6-2「入試日程」 6-3「Webページ（http://www.nanzan-u.ac.jp/admission/）」							
	7	外国人留学生入学審査【EJU利用型】の新規実施	今年度新たに外国人留学生入学審査【EJU利用型】を実施し、出願期間や合格発表等は既存の外国人留学生入学審査と同様の日程で進めた（7-1）。	入試要項作成、出願受付から審査、合格発表まで特に問題無く試験運営できた。なお、初年度は2名の志願者があった（7-2）。	特になし。	A	「外国人留学生入学審査【EJU利用型】」と従来の「外国人留学生入学審査」の要項を統合し、一冊にまとめることにより、どちらの入学審査にも出願の可能性がある留学生に対して漏れなく情報を提供できるようにする。また、志願者が自身により適した入学審査を選択できるよう、入学審査要項の記載を各入試の特徴や違いが明確に分かるものに工夫する。	特になし。	7-1「入学審査要項」 7-2「人数表」							



2020年度自己点検・評価報告書 (①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況)

様式3

委員会/事務組織等名称		入学試験広報委員会		氏名		COURRON, David					
No.	点検・評価項目名	現状の説明		点検・評価		将来に向けた発展方策		根拠資料			
		[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重度な問題があり、技術的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。		
1	WEBページによる受験生への広報活動	学生募集における広報ツールの一つとして、大学Webページ内に受験生向けページ「受験生の皆様」を開設している。「受験生の皆様」における掲載コンテンツについては入試情報や学部学科紹介、各種支援制度紹介といった基本的な情報に留まらず、n-cast+ (在学生の学生生活紹介) やGlobal news (留学経験紹介) や先輩の履歴書 (卒業生紹介) など多様なコンテンツを用意し、閲覧者が本学への理解を深め、志望度を高めることを目的としている。なお、「受験生の皆様」の全ページ総閲覧数は2018年4月1日-2018年9月30日で547,951件である。(参考: 2017年10月1日-2018年3月31日で866,565件、2017年4月1日-2017年9月30日で549,791件) (1-1) また、高校生の情報入手手段の一つであるSNSにおける広報活動の重要性に鑑み、入試課ではtwitterを利用した広報活動も実施している。	各種イベントの来場者に対して実施するアンケートにおいて、「当該イベントを何によって知ったか」という質問に、「Webページ」と回答する来場者が一番多い。オープンキャンパスでは52.5% (2番目の「高校や予備校の先生」は19.8%)、また、受験生と保護者のための入試説明会では30.2% (2番目の「ダイレクトメール」は24.1%) と非常に高い数字となっていることから、受験生向けページ「受験生の皆様」は広報ツールとして効果が上がっていると見える。また、ダイレクトメールやチラシ等による広報活動は、制作費だけでなく、印刷費や発送費もかかり、高コストとなることが多いため、今後は、Webページによる広報活動の割合をさらに高めていくこととする。	大学Webページはトップページのみスマートフォンでの閲覧に対応(以下、「スマートフォン対応」という。)しているが、「受験生の皆様」を含めたその他のページについてはスマートフォン対応できていない。総務省情報通信白書(平成29年度版)によると、13~19歳のスマートフォン保有率は2011年度より年々上昇しており、2016年度においては81.4%となっている。(1-2) この社会情勢に対して、主に高校生が閲覧することを想定した「受験生の皆様」ページがスマートフォン対応できていない現状は好ましくない。このことについて、2018年度の本委員会において議論を重ねた結果、状況の改善を図るため、「受験生の皆様」のスマートフォン対応に取り組むこととした。また、「受験生の皆様」のコンテンツにおいては、情報が古いもの(留学経験紹介や2009年12月時点の卒業生紹介記事など)や閲覧数の少ないものが見受けられる。そのため、スマートフォン対応に合わせ、既存コンテンツの精査を行い、Webページ構成の見直し等をはかる。	Webページを活用した広報活動の一環として、SNSの活用をより推進することで、さらに高い効果が得られると考えられる。例えば、n-cast+ (在学生の学生生活紹介) は、ブログによる情報発信となっているが、高校生の利用実態とマッチしていないと考えられる。今後は、SNSを活用した情報発信に切り替えることで、閲覧者の増加が期待できる。	2019年度事業計画において、「受験生の皆様」のスマートフォン対応を申請した。従って2019年度中に「受験生の皆様」のスマートフォン対応を行う。なお、スマートフォン対応による情報発信となっているが、高校生の利用実態とマッチしていないと考えられる。今後は、SNSを活用した情報発信に切り替えることで、閲覧者の増加が期待できる。	1-1 南山の先生 アクセスログ解析 1-2 http://www.soumu.go.jp/johot-susintokei/whitpaper/ja/h29/pdf/index.html	効果的な広報活動と限られた資源の有効活用の両面からスマートフォンへの対応をさらに進めていく必要があると思われる	2019年10月1日より受験生向けページ「受験生の皆様」のスマートフォン対応を行った。スマートフォン対応においては、スマートフォンによる閲覧時の利便性向上を優先事項とし、ページ構成の見直しやデジタルパンフレットの拡充を実施した。更なるスマートフォンへの対応として、オープンキャンパス等の各種イベントにおける活用を計画している。具体的には2016年度まで実施していた模擬授業等の事前予約制を復活し、参加証や受講証などをスマートフォンで当日提示することを予定している。	○	達成できていない理由 (×の場合理由を記載)
2	オープンキャンパス満足度向上	オープンキャンパスは、受験生に本学の魅力をアピールする最大のイベントであるため、2017年度より1日開催から2日間連続開催に変更した。しかし、例年、来場者より2日目の開催時間(10:00-15:00)が短いとの意見が寄せられるため、2018年度においては試験的に開催時間を1時間延長し10:00-16:00とした。また、来場者満足度向上を目的に、次の4点の取り組みを実施した。①相談コーナーを小教室から従来の体育センターメインアリーナへ変更(2017年度に会場を小教室へ変更したことにより来場者の満足度を大きく減少させたため)。②保護者向けプログラムの新規実施(近年保護者の関心が高まっていることから新たな満足度向上を目的に実施)。③会場内の景観向上と統一感醸成を目的とした、学内掲示の新規制作。④学部説明会から学科説明会への変更。(2-1) その結果、2018年度に来場者数は前年度の8,480名より147名増の8,627名となり、過去最高となった。また、アンケート回収数については昨年度の3,663件より28件増の3,691件となった。(2-2)	①相談コーナー会場の変更 2017年度に小教室へ変更したことにより来場者の満足度が前年度の半分程度まで低下したことを受け、2018年度においては体育センターメインアリーナに変更した。その結果、来場者アンケートの評価(回答数3,691件のうち16.4%が良かったと評価)は前年度評価(回答数3,663件のうち12.9%が良かったと評価)を上回った。ただし、担当者から学科説明会や模擬授業の回数が多いことにより相談コーナーの利用者が減少したとの意見があったため今後の改善事項とする。(2-3) ②保護者向けプログラムの実施 新たに実施した保護者向けプログラムについては、保護者向けの大学概要説明と入試説明をそれぞれ実施した。参加者数は大学概要説明が340名、入試説明が324名であったが、アンケート結果では、保護者向けプログラムのうち、大学概要説明に参加して良かったとの回答が100件、同じく入試説明は115件であった。オープンキャンパス満足度において保護者の高評価(5段階中5もしくは4の評価)の割合も68.9%から70.6%に微増したこと、保護者の満足度向上につながったと考えられる。	①熱中症対策 オープンキャンパスは、7月の猛暑または酷暑が予想される時期に実施するため、熱中症対策として2018年度においては屋外にミストファンを設置したり、空調の効いた教室を休憩スペースとして開放するなどした。また、学生アルバイトには飲料水を配布した。その結果、熱中症発症者は1名(学生アルバイト)だけであった。次年度以降においても熱中症発症者を出さないことを目標に、来場者およびスタッフの体調管理に配慮した対策を実施する。 ②アンケート回収 来場者に配布するプログラムにアンケートを挟み込み、来場者に提出を求めている。アンケート回収によって、オープンキャンパスの評価は勿論のこと提出者の個人情報取得できるため、以降の広報活動につながるものとなる。来場者数は増加傾向にあるもののアンケートの提出数は近年減少傾向(2018年度: 3,691件、2017年度: 3,663件、2016年度: 4,115件、2015年度: 4,174件、2014年度: 3,944件)となっているため、改善が必要である。今後の目標値として、来場者の半数以上のアンケートの回収を目標とする。	①相談コーナー 担当者から意見のあった利用者数の減少については、対策を行い、今後の改善へとつなげる。具体的には、学科説明会・模擬授業の回数や開催時間帯の見直し、掲示による体育センターメインアリーナまでの誘導強化および呈茶コーナーの設置による来訪インセンティブの強化を実施する。また、現在別会場にて実施している入試相談コーナーを体育センターメインアリーナにも設置することによって相談コーナーの内容充実を図り、利用者数上昇および満足度向上につなげる。 ②保護者向けプログラムの見直し 大学概要説明・入試説明と内容を分けていた保護者向けプログラムについて、保護者がより関心のある内容に変更し、更なる来場者数増加および満足度向上につなげる。具体的には大学概要説明・入試説明から入試・就職・進学資金の説明に内容を変更とする。	①熱中症対策 熱中症対策として新たに呈茶コーナーの設置と休憩スペースの配置見直しを実施し、目標達成を目指す。呈茶コーナーについては体育センターメインアリーナの相談コーナー内に設置することで、相談コーナーの利用者増加も期待できる。休憩スペースの設置については2018年度初めて実施したが、オープンキャンパス開催直前に設置を決定したことや改修工事により教室数に余裕がなかったことから、空き教室を利用する形となった。次年度においては、来場者が利用しやすい配置になるよう導線を考慮して配置を行う。 ②アンケート回収 アンケート回収数が減少している要因の一つとして、回答方法が紙媒体であることが考えられる。そこで高校生におけるスマートフォン普及に着目し、Web(スマートフォン)でのアンケート回答を可能にすることによって、アンケート回収数の向上につなげる。当日はWebでの回答へ誘導するために、配布するプログラムおよびアンケートへの記載および、学内各所にWebページへ誘導するための掲示を行うこととする。	2-1 2018年度オープンキャンパス実施要領 2-2 2018年度オープンキャンパス実施報告 2-3 2018年度オープンキャンパスアンケート集計結果				



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

委員会/事務組織等名称		大学院入学試験委員会		氏名		鳥巢 義文						
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価		自己評定	将来に向けた発展方策	根拠資料					
			[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。								
								内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況 (○/×)	達成できていない理由 (×の場合理由を記載)	
(1) 前年度「<点検・評価>改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。  (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  ※必要に応じて行を増やしてください。	1	法学研究科開設への対応	2019年4月開設の法学研究科について、2018年11月の秋季試験および2019年2月の春季試験と国外在住者入学審査を実施し、4月入学のみを募集することを決定した。これを受け、2018年8月の設置認可に向け、趣意書との整合性を確認しながら入学試験要項やパンフレットの作成を進め、7月の本委員会において内容を確定させた。なお、志願者数は合計3名（博士前期課程2名、博士後期課程1名）であり、出願受付から試験実施、合格発表まで滞りなく行うことができた。 (1-1)	特になし。	設置認可後の周知期間が短かったこともあり、9名の募集人員（博士前期課程6名、博士後期課程3名）に対し、志願者3名という結果であったため、さらなる志願者確保が求められる。 特に、博士前期課程の志願者2名はいずれも本学以外の出身であったことから、在学生の目を向けさせる方策を検討する必要がある。 (1-2)	B	特になし。	他研究科と同様、入学試験要項の配布を5月から開始することにより、周知期間を確保する。併せて、毎年4月更新のため法学研究科の情報掲載が不可能であった外部の広報媒体（Webページ・情報誌等）を更新し、情報提供の機会を増やすとともに、大学院広報用ポスターや大学院入試説明会のチラシも積極的に掲出する。	1-1. 南山大学大学院入学試験（審査）人数表  1-2. 南山大学大学院入学試験（審査）出身大学種別別人数表	定員未充足の問題に対しては、外国人留学生別科への更なる広報や、これまで一部の研究科や専攻が独自に実施し、成果を上げてきた広報活動を共有し、バックアップするなど、全学的な強化が求められるのではと思います。	×	他の研究科・専攻での取組状況は大学院入学試験委員会ならびに大学院入学試験運営委員会において共有しているが、他の研究科・専攻での導入（全体化）には至っていない。 また、新型コロナウイルスの影響もあり、大学院入試説明会への学内生の参加を促す方策を検討・実施することができなかったが、定員充足に向けての対策（広報活動）として次のように取り組んだ。 1. 新型コロナウイルス感染症拡大の影響で5月の大学院入試説明会は中止となったが、ふたつの専攻が独自のオンライン説明会を開催した。 2. 5月から大学院Webページに各専攻の説明資料（動画等）を掲載するとともに、大学院Webページに「相談・質問等受付フォーム」を設定し、大学院に関する相談・質問等を随時受け付ける体制を整えた。 3. 対面授業が増加した第3クォータ以降、学内3か所に大学院入試要項・パンフレットを配置し、12月5日開催の大学院入試説明会および春季試験出願期間を告知するポスターを学内各所に掲示した。  引き続き各専攻で志願者数確保の具体的な取組について検討・実施するとともに、推薦入学審査など在学生の志願者数増に向けての取組みも積極的に行っていく。
(1) 前年度「<点検・評価>改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。  (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  ※必要に応じて行を増やしてください。	2	入学試験の実施と志願者確保施策	2019年4月入学の志願者数について、博士前期課程・修士課程（76名：昨年度比10名減）は減少に転じたものの、博士後期課程（12名：昨年度比7名増）および専門職学位課程（45名：昨年度比10名増）は増加し、全体で昨年度比7名増となった。 2018年9月入学の志願者は9名（博士前期課程・修士課程8名、博士後期課程1名）となり、昨年度（計6名）より若干増加した。 (2-1) 昨年度の点検結果を受け、在学生向け広報活動の一環として、研究科・専攻や入試情報を載せたポスターを新規作成し掲出した。その結果、2018年12月の大学院入試説明会の参加者の10%が「説明会開催を知った媒体」として当該ポスターを挙げた（複数回答可）。 (2-2、2-3)	外国人留学生別科生への告知や国内外の相談会等での広報活動の結果、2019年4月入学の外国人留学生別科推薦入学審査に1名志願があり、3年続けて志願者を確保できた。さらに、2018年9月入学においては、国外在住者入学審査で2名の志願があった。 (2-1、2-3)	B	国内在住外国人入学審査および国外在住者入学審査の入学試験要項の英語版を新たに作成することで、各種広報活動や外国籍の志願者への便宜を図り、外国人留学生別科推薦入学審査以外の入試種別でも志願者確保に努める。 また、理工学研究科において、国内在住外国人入学審査を新たに実施し、外国籍の志願者へ関口を広げる。	2018年度5月および12月の大学院入試説明会アンケートにおいて、参加者の約70%（5月：77%/12月：68% 複数回答可）が大学院の情報収集媒体としてWebページを挙げていることを受け、Web媒体での情報提供を推進する。（2-併せて、大学院広報用ポスターを在学生向けの学内掲示として使用するだけでなく、一般向け広告としても展開することで露出を増やす。 (2-2)	2-1. 南山大学大学院入学試験（審査）人数表  2-2. 大学院広報用ポスター  2-3. 大学院入試説明会アンケート集計結果  2-4. 外国人留学生別科生向けリーフレット				



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		大学院入学試験運営委員会		氏名		吉田 竹也						
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価		自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況 (○/×)	達成できていない理由 (×の場合理由を記載)
			[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。		[1]自己評定の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り留めが建った水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、技術的な改善が求められる	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。					
1	2018年9月入学・2019年4月入学試験の実施	2019年4月入学の志願者数について、博士前期課程・修士課程（76名）は減少したものの、博士後期課程（12名）および専門職学位課程（45名）は増加し、全体で昨年度比7名増の133名となった。うち3名が新設の法学研究科の志願者である。なお、2018年9月入学の志願者は9名（博士前期課程8名、博士後期課程1名）となり、昨年度（計6名）より若干増加した。 (1-1) 法学研究科はこれまで他研究科とは異なる入試日程を設定し、A棟で試験を実施していたが、春季試験とC日程（2019年2月）の初日が同日となったため、初めてS棟を試験会場として使用した。 (1-2)	法学研究科と他研究科の試験時間割は大きく異なるため、試験室や担当の大学院生の配置に留意することで円滑に試験を実施できた。 (1-3)	春季試験およびC日程においては、試験室対応および面接誘導担当の大学院生の人数が確保できず、一時的に各階の試験室担当者が1名のみとなってしまう。その結果、監督者自らが本部へ出向が必要が生じたが、当該試験室は監督者2名体制のため試験実施への影響はなかった。	A	特になし。	各フロアごとに複数名の試験室対応担当者を配置できるように、大学院生の確保に努めるとともに、各業務の責任者を事務職員が担うことも検討する。	1-1. 南山大学大学院入学試験（審査）人数表 1-2. 南山大学大学院 入学試験（審査）【春季・法務C】試験室案内 1-3. 研究科別時間割				
2	入学試験要項・パンフレット作成	2019年4月/9月入学分より、入学試験要項およびパンフレットの体裁が大きく変え、4月/9月入学が選択可能であることを明確にした。新設の法学研究科分については、2018年8月の設置認可を念頭に置いたスケジュールを組み、研究科での校正作業や関係委員会での審議を滞りなく進めることができた。 (2-1、2-2)	これまで別冊子としていた4月/9月入学の要項を合冊にすることにより、大学院入試説明会等での配布が容易になった。	2018年5月の要項配布開始後に研究科からの連絡漏れによる試験科目の誤りが発覚し、当該科目を含む要項をすべて再印刷する必要が生じたが、本件によって不利益を被る志願者はいなかった。また、要項およびパンフレットの体裁変更や人事情報の確認漏れに伴う誤りが複数発生し、一部のパンフレットは再印刷、それ以外は訂正シールでの対応となった。国外在住者入学審査の要項については、一部英訳を併記しているが、その内容が不完全であり、要件が正確に伝わらない可能性があることが判明した。	B	特になし。	要項およびパンフレットの校了日を遅らせ、3月の人事情報確定後に各専攻が内容を確認できるタイミングを設ける。国内在住外国人入学審査および国外在住者入学審査の入学試験要項については、英語版（2020年4月/9月入学用）を新たに作成することで、外国籍の志願者への便宜を図る。	2-1. 大学院入学試験（審査）要項 2-2. 大学院パンフレット	とりわけ減少が目立つ博士前期課程の回復のための全学的対策の立案と実行のために、広報その他で独自の工夫や努力を重ねている専攻の事例の全体的な実施している大学院入試説明会の内容等について検討する。		○	



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		学生委員会		氏名		岡田 悦典		
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価		自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料
			点検・評価	自己評定		将来に向けた発展方策	根拠資料	
		[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重度な問題があり、技術的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。
1	学生生活全般の対応	①通学マナー向上のため、学生生活スタートブックを配布し、4月に巡回するとともに、ボルタ・各団体説明会等で開催を行った。また、定期試験2週間前から学内放送を実施するとともに、通学マナー7カ条を作成した。2018年度の苦情は42件であった。 ②キャンパス内に3か所の屋外喫煙エリアを継続して設定していたが、改正健康増進法の制定にともない、学校における喫煙を原則禁止とすることが法令として義務付けられるようになった。 ③飲酒・宗教勧誘・SNSなどの学生生活の問題について、適宜指導を行った。	①苦情に迅速に対応し、苦情を減少させることを目標とした。通学マナーについて、定期的にボルタにおいて告知を徹底するとともに、通学マナー7カ条を制定し、掲示板、告知を徹底した。名古屋大学駅までのルートが明確化しなかったため、推奨ルートとして明確化した。結果として、名古屋大学駅ルートの苦情は少なかった。コンビニエンスストア無断駐車の問題に学生委員の押印を必要とするという新たな制度を設けて、無断駐車対策の強化を図った。 ②来るべき法令の施行（2019年度）に対応することを目標に対処した結果、3か所ある屋外喫煙エリアを廃止することを決定することができた。 ③個別に学生に指導を行い、宗教勧誘についての告知をボルタを通じて行った。特にその後問題が発生することなく対応することができた。	①苦情の内容に迅速に対応し、苦情を減少させることを目標としたが、八事日赤駅ルートの苦情が相対的に増加した。コンビニエンスストア無断駐車の数も例年通り発生した。 ②については、特になし。 ③については、特になし。	B	①通学マナー・自動車通学禁止の意識向上を促すことを目標に、入学時が主に担当）によって、詳しいアナウンス告知を4月初旬までに行う。また、学生生活スタートブックを新入生に昨年同様に配布する。 ②キャンパス全面禁煙化が2019年7月1日より実施することを目標に、全面禁煙の情報を学科ガイダンス時およびボルタ告知を通じて2019年6月末までに行い、保健センターと連携してたばこに関する講座を保健センターで開催する。また、学生委員・学生部次長により、実施後の状況につき7月および9月に巡回・指導する。 ③問題状況に応じて個別に指導するとともに、入学ガイダンスで各学科から、詳しいアナウンス告知を4月初旬に行う（学生委員が主に担当）。また、学生生活スタートブックを新入生に昨年同様に配布する。	①八事日赤駅方面の集中化を防ぐために、いりなか駅の利用を促進する方策を検討し、利用促進について告知する。コンビニ無断駐車についても、より詳細な告知を学生部において2019年度内に行い、周知徹底を図る。 ②については、特になし。 ③については、特になし。	①8月2日、3月14日学生委員会資料、2018年度ボルタ告知文書 ②1月17日学生委員会資料 ③告知文（5月2日、1月16日学生部会議資料）
2	委員会の適切な運営	①学生委員会を計12回開催（臨時2回）した。 ・審議内容：課外活動団体の登録、課外活動団体に対する各種援助（課外活動団体育成援助金、器具・備品援助、学外団体加盟費等援助、全国大会参加費等援助）、学生部長表彰選考、学生の懲戒、課外活動関連要項制定等の案件を審議。 ②奨学生選考委員会を計8回開催した。本学奨学金採用者、学外各種奨学金推薦対象者の選考に関する事案、本学または日本学生支援機構から奨学金貸与を受ける学生への学業成績処置基準による処置等を審議した。	①適切な委員会運営 ・各種事項に十分審議を行い、特に懲戒、課外活動に関する要項等の制定等の重要案件については、時間をかけて慎重に議論を行う等、適切な運営を実施した。 ・委員による学部教授会でのアナウンスを励行することを目標とし、それを果たした（卒業生の漢字名の変更手続、南山チャレンジプロジェクトについて教員への周知徹底をはかり周知を徹底した）。 ・国際教養学部設置に伴う新たな収容定員の状況を鑑み、来るべき2019年度の学長表彰に備えて、新たな基準による学科割り振りによる制度に改正した。 ・課外活動に対する奨励奨学金制度の意義を検証し、意見のあったゼミ活動を対象外とするなど方針を明確にした。 ②各種事項に十分審議を行い、特に本学奨学金採用者、学外各種奨学金推薦対象者の選考に関する事案、本学または日本学生支援機構から奨学金貸与を受ける学生への学業成績処置基準による処置等について、時間をかけて慎重に議論を行い、適切な運営を実施した。	①定期試験不正行為が13件あった。このうち第4Qで発生した7件については、これまでに想定されていないスマートフォンを利用した事案であった。 ②課外活動団体処分が1件あった。	A	①特になし。	①スマートフォンを利用した不正行為については、時代的背景もあるため、それに対応するための対策を、学生部が教務部と協議の上、必要な整備を7月末までに行う。 ②課外活動団体の処分について、迅速かつ柔軟に対応するための規程改正を2019年度に学生部より行う。	2018年度学生委員会・奨学生選考委員会資料および記録

内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況 (○/×)	達成できていない理由 (×の場合理由を記載)
------------------	---------------------	-------------------	------------------------

通学マナーや路上喫煙などの問題に加えて、従来見られなかった学生の非社会的行動が増加する懸念もあり、それらに関する事例や教員の対応方法などの情報提供を期待したい。

本年度、新たに、路上喫煙の状況について協議会、学生委員会で報告書という形で報告し、ボルタでの注意喚起や学生委員を通じた学科別の注意喚起などを新たに統一的に進めている。入学式にはマナーとルールについてパンフレットの他にクリアファイルを配付し啓蒙に努めた。引き続きこれら情報提供を継続的にを行い、内容を改善していく予定である。

--	--	--	--







2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		学生委員会		氏名		岡田 悦典						
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策		根拠資料					
					内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画		「改善計画」の達成状況 (○/×)	達成できていない理由 (×の場合理由を記載)			
6	①学生交流センター（以下、セントルム）の運営 ②セントルムスタッフ（以下、TA）雇用方法について ③TAの役割分担 ④ランチトーク ⑤セントルム10周年企画	セントルムは、学生の自主的な課外活動を支援するために設立されて、来年度は10周年を迎える。今年度行った運営改善点や新規に開始したことは、以下の通りである。 ①セントルム開室時間を大幅に拡大し、学生の利便性を向上した。 ②TAの雇用ルールを明確し、セントルムの活動を支えられる人材の雇用に努めた。 ③TAの役割分担を明確化した。具体的には、広報・ランチトーク準備・コアグループ対応などのポストを各TAに割り当てた。 ④より学生のニーズに即したランチトークの開催に努めた。 ⑤2019年度のセントルム10周年に向けて準備を開始した。	効果が上がっている事項は、②・③・⑤である。 ②については、これまで明確な雇用ルールが存在しなかったため、その都度簡単な面接をするなどして採用を決めていた。今回のルール化により、GPA基準を設け、動機書などを記入させることで、TA雇用をよりスムーズに実施できた。 ③については、セントルムの組織体制がはつきりし、TA自身の役割も明確にされ、責任意識が高まった。TAの代表に負担が集中することなども改善された。 ⑤については、年度末の学生交流センター委員会でも、10周年企画の概要は伝えられた。これまでの活動の振り返りと今後に向けたセントルムの活性化に向けて良い機会となるようにしたい。	改善すべき事項は、①・④である。 ①については、今年度、学生の利便性を高めるためにセントルム開室時間を9時～20時半に変更した。しかし、月によっては増えた時期もあるが、基本的に前年度とほとんど増減はなかった。開室時間の問題以外で何か学生の利便性を高める方策を考えていきたい。 ④については、試験対策ランチトークは例年通り参加者が多かったものの、他のランチトークはなかなか人が集まらなかった。この辺りも今後の課題としたい。	A	②については、新年度の開始などでTAの入れ替わりなどがあるので、今後も新規TA雇用は積極的に行う。 ③については、役割の明確化の二年目になるので、その体制を実際に動かしてみても問題はないかどうかとも検討する。 ⑤については、10周年企画の詳細は今後も検討が必要であるため、引き続きしっかりと準備を進めていく。	①については、コアグループに新年度の説明会などでセントルムの積極利用を働き掛けることにした。 ④については、ランチトークの開催内容をTAミーティングにセンター長も加わって検討し、より集客力のあるものを計画し、実施していく。	2018年度第1回・第2回学生交流センター委員会資料および記録 2018年度学生部会議資料および記録				
7	奨学金制度の適切な運用	①学内給付奨学金について、2018年度に221名の応募があった（前年比28名減）。それに対して、受給者は規程通り63名であった。 ②学外奨学金の推薦についても、36名の推薦を行った。また、学外奨学金主催の催しに学生部次長が出席し、情報を収集した。 ③日本学生支援機構貸与型奨学金の新規申し込み者にかかる選考・推薦を延べ197名おこなった。	①一昨年度より5年間の実績を契機として給付奨学金制度の改正を行った。具体的には、認定方法をJASSSの基準に原則として依拠する方式を改め、所得基準に統一することとした。これによって、多様な家族構成が考えられる今日の状況に対応し、より公平感のある選考を行うことができるようになった。一方、本学の給付奨学金においては、1種と2種との差を設けることについてはこれを維持した。1種の奨学金額が周辺大学よりも大きいことから、所得が低い家庭でも本学への進学の際に必要となっており、広報的効果はあった（根拠資料①）。 ②学外奨学金について、新規のものを精査し新たに募集を募った。 ③奨学金と関連のあるアルバイト事情についての理解を図るために、「南山生のアルバイトの現状と課題」に関するSDを企画実施した（7月4日）。	①1種と2種の選出方法は、現状認定所得の少ない者で、かつ同額の場合はGPAが高い者から順に選出されており、学部・学年・取得単位数等が異なる中、この選出方法で合理性が担保できるかのさらなる検証が必要である。 ②③については特になし。	A	①広報的効果が認められるのであれば、それについて、入試広報との連携をはかり、本学志望者に対して、2021年度入試より、周知することが考えられる。 ②学外団体の意向に応じた選考をすることが最終的な採用に影響するため、その内容の把握および検証を継続的に行う。 ③については特になし。	①1種と2種の選出方法の合理性の検討をし、合理性がない場合には、2020年度より合理性のある選出方法、もしくは、2種のみでの給付という弾力的運用を検討する。加えて、文科省が示す住民税非課税世帯に対する授業料減免の方針を打ち出し、その内容の把握および検証を継続的に出す。	①日本学生支援機構の学校担当者用のWebページ「大学・地方公共団体等が行う奨学金制度」(https://www.jasso.go.jp/about/statistics/shogaku_danta_iseido/index.html) ②文部科学省「高等教育の負担軽減の具体的な方策について」(http://www.mext.go.jp/b_menu/shingi/chousa/koutou/086/gaiyou/1406203.htm) 2018年度奨学生選考委員会資料および記録・学生部会議資料および記録				



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		保健管理委員会		氏名		中野 有美					
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況 (○/×)	達成できていない理由 (×の場合理由を記載)
		[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある。 [A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である。 [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる。 [C] 重度な問題があり、本格的な改善が求められる。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。			
1	学生からの合理的配慮申請への対応	2016年4月の「障害者差別解消法」施行により私立大学における障害者への合理的配慮が努力義務になったことを受け、2017年度のキャンパス統合に伴い、保健センターは関連する部署などと連携しつつ学生・教職員の保健管理に取り組んできた。今後、合理的配慮の申請を希望する学生は増加が見込まれ、保健センター内の保健室、学生相談室、特別修学支援室の3室間、保健センター外の関連部署とのより一層の情報共有と連携が望まれる。	①合理的配慮を求める学生に対応するための対応手順の充実。 ②合理的配慮を求める学生に対し、申請時のアセスメントに加え、文部科学省が打ち出した「障害のある学生の就学支援に関する検討会（平成28年度）第二次まとめ」の内容を受けて、前年度に行っていたモニタリングをより体系化し行った。 ③合理的配慮を主に担当していた特別修学支援室スタッフが年度末で全員(3名)辞めることになったが、意欲があり人格円満かつ有資格の人材を2019年度4月に向けて任用することができた。	①合理的配慮を求める学生への対応は特別修学支援室にゆだねられ、他の2室とは各スタッフが必要に迫られて個人的にアプローチするという程度の連携にとどまっている。 ②特別修学支援室が、保健センター内の2室と連携しながらオープンな環境で支援を行うことが出来るように工夫する。 ③保健センター3室が連携して合理的配慮を求める学生への対応を推進していく必要がある。	A	①合理的配慮の新たな担当者には、さっそく着実に合理的配慮について学習して、具体的な仕事内容を把握してもらい、業務に慣れて行けるような環境を構築する。 ②合理的配慮を申請した学生が、成長していけるような支援の手順を関係者が把握し体現できる環境を作る。 ③学内全体に向けて（教員、職員）合理的配慮の重要性と意義を周知していく	①3室連携の手始めとして、学生相談室で働く特任助教との連携が深まるようなシステム作りを工夫する。保健室、学生相談室、特別修学支援室のスタッフで、学生に関する情報共有と意見交換の場を定期的に設ける。 ②特別修学支援室の特任助教が学生相談室で定期的な相談枠を持ち相談活動を行う。一方で、学生相談室の特任助教を特別修学支援室を訪れる学生に対応し見守るスタッフとして週に半日程度で配置することを構想し、組織づくりを開始する。 ③ ①②のような工夫により連携を実現させながら、その中で学生からの合理的配慮申請に対応していく。	2019年度第1回保健管理委員会資料 (2019. 5. 27)	教員の側からすると、合理的配慮に関する要点をまとめた手引きリーフレットを作成の上、配布する。(2020年度中に保健センター・特別修学支援室にて手引きリーフレットを作成)。また、学生個別の対応について詳しく知りたい教員対象に、昼休み時間に行うワークショップの開催等を検討する。	○	
2	キャンパス統合後の環境に合わせた活動	キャンパス統合に伴う学生数の増加を受けて、保健センター内各室の業務量と内容（とりわけ、身体管理と精神保健管理）に見合った人員を適切に配置するとともに、保健室、学生相談室、特別修学支援室の各室での活動内容と活動状況を把握し整備していく必要がある。	①適切な業務内容を勘案し、新しい体制作りの基礎として看護師を2名体制とした。 ②修学支援、就活サポート、合理的配慮を担当するコーディネーター（委嘱）を特任助教の立場で任用することを決定し、就労移行支援に詳しい人材を任用した。	①身体管理と精神保健管理の統合を目指し、保健室、学生相談室、特別修学支援室の3室連携を強める。	A	①看護師の専門性が引き出されるような環境を作り出すことで、彼らの潜在能力を引き出す。 ②新たに採用された特任助教の特性を生かし、特別修学支援室の活動内容を充実させる。	①保健室、学生相談室、特別修学支援室の3室合同ミーティングを開き、利用する学生に関する申し送りや連携発展するためのアイデアを出し検討する場とする。	2018年度第2回保健管理委員会資料 (2019. 2. 27)			



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		保健センター		氏名		中野 有美					
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料				
					内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画		「改善計画」の達成状況 (○/×)	達成できていない理由 (×の場合理由を記載)		
<p>(1) 前年度「点検・評価」改善すべき点として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。</p> <p>(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。</p> <p>※必要に応じて行を増やしてください。</p>	1	学生定期健診	<p>①「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>②「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>③「効果がない事項」を記述してください。</p> <p>④「達成目標を設定して、点検・評価をしてください。」</p> <p>⑤「500字以内で簡潔に記載してください。」</p>	<p>①自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>②「効果がない事項」を記述してください。</p> <p>③「達成目標を設定して、点検・評価をしてください。」</p> <p>④「500字以内で簡潔に記載してください。」</p>	<p>①「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>②「500字以内で簡潔に記載してください。」</p>	<p>①「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>②「500字以内で簡潔に記載してください。」</p>	<p>①「記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。」</p> <p>②「規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。」</p>				
	2	学生健康管理	<p>①健康診断の受診率の上昇</p> <p>②健康診断の受診率の低下</p> <p>③健康診断の受診率の向上</p> <p>④健康診断の受診率の向上</p>	<p>①学年が上がる毎に健診受診率が低下しており、4年生は就職活動への健康診断証明書の必要性より受診率が上昇するが、100%には至っていない。</p> <p>②2018年度に引き続き、PORTAにて健診の必要性と健診日の案内を提示していく。</p> <p>③未受診者への個別連絡をPORTA等で実施していく。</p> <p>④については特になし。</p>	<p>①新学期には健診を受けることが、年間の行事の1つと思ってもらえるように、健診とその後のフォローを密に行い、健診の大切さを実感してもらおう。</p> <p>②については特になし。</p>	<p>学校保健安全法第13条</p> <p>南山大学学則第14章46条</p> <p>2018年度第5回保健センター会議資料</p>					
	3	職員定期健康診断	<p>①職員定期健康診断</p> <p>②職員定期健康診断</p> <p>③職員定期健康診断</p> <p>④職員定期健康診断</p>	<p>①事務職員の受診率は100%に達する状況であり、来年度も継続できるようにサポートしていく。</p> <p>②教育職員においては、定期健康診断の必要性が浸透していなく、行動変容が必要である。</p> <p>③学部別の受診率をお知らせし、受診同期に結びつけるように取り組む。</p>	<p>①来年度より、人間ドックの補助金の制度変更があり、受診率低下を招く危険性がある。</p> <p>②制度変更について、情報提供を行う。不明点について説明を行っていく。</p>	<p>①教育職員においては、定期健康診断の必要性が浸透していなく、行動変容が必要である。</p> <p>②学部別受診率や、定期健康診断受診が決めたことであることを、定期的に情報提供して、受診に結びつけるように取り組む。</p>	<p>労働安全衛生法第66条</p> <p>労働安全衛生法規則44条</p> <p>南山大学規程・就業規則第4章第2節111条</p>				



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		保健センター		氏名		中野 有美							
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策		根拠資料	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況 (○/×)	達成できていない理由 (×の場合理由を記載)		
		[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが定着した状態にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、技術的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。				
4	職員健康管理	①健康診断後の事後指導（労働安全衛生法第66条の7に基づく） 2017年度までは、事後指導が積極的に行われていなかった。 2018年度は春期・秋期定期健康診断と人間ドックの結果により、要受診・要精密検査の項目について、医療機関への受診の有無を確認し、未受診の場合は健康相談の予約を取り、個別指導を行っている。 場合によっては、総合病院の受診予約を取り対応している。 入院・手術が必要となった場合は、退院後の状態について再度健康相談にきていただき、その後の就業について評価を行っている。	①2017年度の改善点が上がっていた「健康診断後の事後指導」については、有所見者へ定期的な面談を積極的に行い、疾病の予防・早期発見に努めた結果、状態の安定がはかっている。 来年度も引き続き、積極的に対応を続けていく。	①については特になし	①健康診断の評価を早急に行い、指導が必要な方を取りこぼしの無いように対応していく。	A	①については特になし	労働安全衛生法第66条					
5	健康相談	①学生・職員に対する健康相談 風邪・インフルエンザ等の感染症から、部活・体育にて捻挫・外傷等にて保健室を利用された方に病状・その後の対応の説明を行う。 身体的不安について、医療機関を受診した方が良いか迷う場合、相談を受け必要に応じて紹介状を作成する。 健診結果の内容が理解しにくい場合、説明の希望があった。結果説明に加え、経過観察項目についても生活習慣の改善指導を行った。	①学生・職員に対して、気軽に利用できる場所として保健室・保健センターを知っていただけている。	①については特になし	①引き続き、各々の問題について対応を行っていく。	A	①については時になし。	2018年度南山大学保健センター利用案内リーフレット（見開き1ページ目）					
6	保健センター・保健室主催「健康講座」	①「大学生の海外留学、海外旅行における旅行医学入門」を開催した。水曜日の午後開催としたが、参加は10人以下となった。 参加者からは、活発な質問があり、また講座内容の予防接種について、後日個別に健康相談にみえ、留学前に医療機関への受診へ結びつけることができた。 参加された国際センター職員との繋がりができ、留学生の保健室への来室のきっかけ作りとなった。 参加人数の少ないことが問題であり、今後、学生・職員が参加しやすい日時・講座内容の検討が必要である。	①参加者が、興味ある講座内容については、その後の保健センターへの関わりが向上した。	①例年通り、参加者が少なかった。	①2019年度は、7月からの学内禁煙に向けて、「受動喫煙が他者に与える健康影響について」を2回予定している。	A	①例年通り、参加者が少ないことが問題である。 参加者が、興味ある講座内容について検討する。 開催日時も参加しやすい日時を検討し、参加することでの特典も考える必要がある。	2018年度第2回保健管理委員会資料 2019年度第1回保健管理委員会資料					



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		保健センター		氏名		中野 有美						
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価		自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料				
			[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。		[1]自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれれかを記入してください。 [S]極めて良好な状態にあり、取り組みが継続した水準にある [A]良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である [B]軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C]重度な問題があり、技術的な改善が求められる	[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2]500字以内で簡潔に記載してください。		[1]記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。			
7	産業医活動	①職場巡視 衛生管理者と共に、月1回学内の職場巡視を行っている。 通常業務時間内に巡視を行うため、日常の問題を把握することができている。建物の老朽化に伴う換気システムトラブル、トイレ環境の悪さ（臭い、寒さ、和式のため使いにくい、洗浄が上手くできないなど）、耐震対応の不備（棚が壁に固定されていない部分が散見される）、ムカデ等の発生など確認し、衛生委員会で報告を行い、施設課など関係部署へ対応の依頼につなげている。 ②ストレスチェック 「労働安全衛生法第66条の10の規定に基づく労働者の心理的な負担の程度を把握するための検査（ストレスチェック）」を年1回行っている。ストレスチェックの結果により、2名が産業医面接を希望され、実施した。1名は1回の面接で終了、もう1名は面接後も引き続き月1回健康相談を継続している。面接当初よりは、笑顔も出るようになり、変化がみられている。 ストレスチェックの集団・分析結果は、教育職員・事務職員に分けて行い、衛生委員会、大学本部へ提供している。	①については特になし ②については特になし	①については特になし ②については特になし	A	①引き続き、巡視を行い、職場環境の改善に繋げる。 産業医の存在について、知っていたく機会にしていこう。 ②については特になし	①については特になし ②については特になし	南山大学衛生委員会規程第6条 南山大学職員の心理的な負担の程度を把握するための検査（ストレスチェック）制度に関する規程第1条	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況 (○/×)	達成できていない理由 (×の場合理由を記載)
8	留学に関する業務	①英文診断書の作成 留学を控えている、学生・教育職員の診察、健診結果より英文診断書を作成している。 期日ギリギリに学生から作成依頼があることがあり、各部署に早めに依頼するよう促している。 現在、作成遅延はなく問題なく行われている。 ②総合政策部による南山短期アジア留学プログラム (NAP) 短期留学前に、NAP健康調査票の内容を学校医が確認し、留学前・中に対応が必要なこと、持病にて通院している場合は英文診断書の必要性を判断し、健康相談を行っている。術後定期通院している学生に対して、高所での生活が可か不可の確認を主治医に取ること、使用エアラインの確認などを指導した。 学生を引率していく場合は、事前に旅行会社に使用エアライン、旅客機の種類の確認、現地の医療体制の確認が必要な場合が出てくるので、学内担当者と旅行会社の密な打ち合わせ確認が必要と感じました。	①英文診断書の作成依頼があった時点で、すぐ連絡を取り、面談予約や健康診断結果の準備をすることで対応が可能であった。 ②NAP健康調査票の内容評価を行い、個別対応を行うことができた。	①英文診断書作成時間が必要なことが認知されてなく、期日当日に面談される方がいた。 時間に余裕を持って依頼していただくように、周知が必要である。 ②持病がある学生を入学時に、把握できれば、その後の行事に事前に対応可能となるため、健康診断時の既往歴・現病歴の記入が大切である。問診票の記入について見直しも考慮していく。	A	①来年度も依頼が入った時点で、早急に面談等の対応を決めていく。 ②NAP健康調査票から問題点を洗い出し、対応をしていく。 ①英文診断書作成時間が必要なことを、関係部署にお知らせして、時間に余裕を持って依頼していただくよう勧める。 ②定期健康診断の既往歴・現病歴の記入例を作成し、正確な情報収集に努める。	①英文診断書作成時間が必要なことを、関係部署にお知らせして、時間に余裕を持って依頼していただくよう勧める。 ②定期健康診断の既往歴・現病歴の記入例を作成し、正確な情報収集に努める。					
9	国際センターとの業務	①2018年春季派遣留学生の「出発前オリエンテーション」 2回オリエンテーションの依頼があり、看護師が、海外生活における注意事項（飲食の注意、常備薬の持参、睡眠障害などメンタルトラブル）について説明を行った。 ②外国人留学生別科生の健康相談 持病があり母国の担当医作成の英文診断書を持参して相談にみえ、担当医とメールにて情報共有を行った。感染症のため近医へ紹介状を作成し受診。 精査が必要なため、総合病院の予約を取り受診。 体調不良のため、保健室にて休養、その後のアドバイスを行ったなど、外国人留学生の保健室利用が増えている。	①海外へ行くことを特別と捉えず、日常生活の続きと捉えて、通常使用している常備薬を持参することを説明。 飲食に関しては、水の安全性は国によって異なるため、生物の摂取（屋台のカットフルーツは、包丁・まな板が不衛生のリスクあり）について説明。 環境の変化によって、不眠症やうつ症状が出現することがあることを知っておいて、異常を早期に気づくことが大切と説明。 知っていることで予防可能なことがあり、上記を周知することから安全な留学生生活につながる。 ②国際センター、外国人留学生別科生に、保健センター・保健室の存在と利用方法を知ってもらえてきている。	①出発前オリエンテーションの効果について、評価ができておらず、来年度は評価方法について検討し、実施が望ましい。 ②外国人留学別科生は、日本語を学んでおり、病状や困っていることを具体的に説明することもできるが、詳しいことになると、言語の問題が見られた。	A	①出発前オリエンテーションについて、春季派遣留学生が医療的に不安に感じていることなど、要望を事前に聴取し、その項目について説明をスマートフォンなどを用いて、一般用語に置き換えて説明をしていく。 ②国際センター職員も、学生対応に積極的に関わってくれ、保健室・保健センターと顔の見える関係ができてきている。	①出発前オリエンテーションの効果の評価を行い、効果的なオリエンテーションに取り組んで行く。 ②言語の問題については、言動の変換をスマートフォンなどを用いて、一般用語に置き換えて説明をしていく。					



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		保健センター		氏名		中野 有美						
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価		自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料				
			[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。	[2]「改善すべき事項」を記述してください。		[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。	[2]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。					
10	学生相談室の運営	①2018年度学生相談室の面接時間は、春学期1週につき約11.5日（精神科医による精神保健相談3.5日、臨床心理士による学生相談約8日）、秋学期14日（精神保健相談6日、学生相談8日）であった。2018年度における精神保健相談・学生相談件数（相談のべ数）は、1,627件であった。 ②「南山大学保健センター報告書第1号（2017年度）」に学生相談室関連各位が2017年度における学生相談室活動に関して記載するとともに、来談者数等の統計資料を掲載した。 ③学生・教職員を対象とした講習会を年間4回（学生対象：2回、学生および教職員対象：2回）実施した。計48名の参加があった。	①学生や保護者の個人面談、教職員へのコンサルテーションのニーズに沿った個人面接体制を整備し、ニーズに応える面接を実施することを目標にした。この点について春学期は面接実施日が少ないため、懸念があったが、春学期も含め通年でニーズに沿った個人面接を実施することができた。 ②学内の教職員に対して、学生相談室に関する客観的データに加えて、学生相談や心理的課題・問題に関連する諸テーマについて、報告することができた。 ③学生および教職員の心身の健康の促進に寄与する講座開催を通して、心身の健康に関する予防的アプローチを実施することができた。	①発達障害も含めたより広いニーズに、よりの確に対応できる目標に向けて、学内の教職員と連携できる体制や保健センター内の体制の整備を行う必要がある。 ②特になし。 ③特になし。	A	①2019年度の面接実施状況を保健センター会議等で確認・検証し、2020年度における適切な面接体制について協議する。 ②特になし。 ③特になし。	①2018年度末に開催の合理的配慮を希望する学生へのサポート体制についての情報共有会議にて、学生相談室を含む保健センターのコンサルテーションについて周知した。また、2019年度に、心理検査（WAIS-IV）を購入し、学生相談室および特別修学支援室の特任助教を中心とした心理検査を実施可能な体制を整える。 ②特になし。 ③特になし。	2019年度第1回保健管理委員会 南山大学保健センター報告書第1号（2017年度）	是非とも教員に対して最低限の日常的な対応の原則だけでもレクチャーする対象としたレクチャーやワークの実施を特別修学支援室が中心となり学生相談室も連携し検討する。	キャンパスライフの中での、学生の発達障害を含めた心理面への対応等について、教員を特別レクチャーやワークの実施を特別修学支援室が中心となり学生相談室も連携し検討する。	×	学生の発達障害を含めた心理面への対応等について、それぞれの授業担当教員と密に連絡を取るなど個別対応はできたが、教員対象に講義形式で説明することは叶わなかった。その理由として、新型コロナウイルス感染拡大により計画していた行事の開催方法や内容を変更するなど、急な事態が重なり、教員対象の講義を開催することができなかった。ひきつづき、検討していく次第である。
11	合理的配慮を視野に入れた、特別修学支援室の事業計画	H24年度に高等教育局が開催した「障がいのある学生の修学支援に関する検討会」等で示された高等教育段階における合理的配慮に関する留意点、すなわち、1) 機会の確保、2) 情報公開、3) 決定過程、4) 教育方法等、5) 支援体制、6) 施設・設備	①6つの項目の中で、次の項目の効果が上がったと考えられる。 1) 機会の確保 4) 教育方法等 5) 支援体制 6) 施設・設備 ②1) 2018年度は、187日間、9:30から16:30まで開室し、学生の随時受け入れを行った。 4) 履修の相談、授業内容に関する補習について、学生サポーターをアルバイトとして募集し、学生の支援を必要とする側面と学生サポーターのマッチングを行ったうえで、マンツーマンで修学に関する困りごとへの具体的な支援を実施した。 5) 修学支援は4)に記載した。合理的配慮については中間モニタリングを開始した。 6) 明るく和らいだ雰囲気づくりのために、グリーンを置いたり、絵画を飾ったりした。	①6つの項目の中で、次の項目について改善すべき点が挙げられる。 2) 情報公開 3) 決定過程 4) 教育方法等 5) 支援体制 ②2) 保健室や学生相談室へ、特別修学支援室が得た情報を公開し、共有する流れを作る。 3) 保健室や学生相談室からの意見を尊重しながら決定過程を作成していく。 4) 5) コーディネーターとして委嘱されていた者を特別修学支援室担当の特任助教とし、マンパワーを充実させる。 個室で話したい学生がいた場合、個室での相談活動が可能になると良い。	B	1) 特別修学支援室の開室時間や日数をさらに増やす。具体的には、授業日は基本的に開室することとし、いつでも入室できる安心感を学生に感じてもらうようにしていく。 4) 学生サポーターに関しては、特別修学支援室の前身が瀬戸キャンパスにあったMa-NAVIという学生支援の機関だったため、これまではその流れの影響で、瀬戸キャンパス内にあった学部（総合政策学部）との連携が中心となっていた。今後は募集システムを工夫して多くの学部から広く募るようにする。修学支援体制についても、説明可能なオープンな体制づくりをする。 5) 合理的配慮については、さらに配慮できる項目の整備、配慮開始後の支援体制の整備（中間モニタリングを含む）を行う。特別修学支援室の特任助教とコーディネーターが中心になって行う。	2) 3) 5) 情報公開と支援体制については、3室連携の手始めとして、学生相談室で働く特任助教との連携が深まるようなシステム作りを工夫する。例えば、■学相カウンター→特修カウンターで働く日を作る。 ■特修カウンター→学相で定期的な面接も担当する。 ■保健室、学生相談室、特別修学支援室のスタッフで、学生に関する情報共有と意見交換の場を定期的に設ける。 ■特別修学支援室を利用する学生で急に個室で相談が必要になった際に、空いている個室が使用できるような仕組み作りを行う。これにより、特別修学支援室利用学生からの相談への対応力を向上させる。 4) 教育方法等について ■学生の仲間作り、横の繋がりを伸ばすため、特別修学支援室での行事をより充実させ場の提供を行う。 ■認知行動療法等の心理社会的資源の活用を促進し、特別修学支援室は外部の就労移行支援事業所の協力を得るなどして見学したり、職場体験できる場所を開発する。 ②キャリア支援室のスタッフによる特別修学支援室見学、特別修学支援室のスタッフによるキャリア支援室の見学を行い、お互いの業務内容や業務の流れについて理解を深める	合理的配慮を希望する学生へのサポート体制についての情報共有会議資料（2019/03/31開催）				
12	特別修学支援室における、学外機関との連携	学内のリソースのみでは十分な対応が困難な状況について、労働関係機関（就労移行支援事業所等）との連携について工夫した。	就労移行支援事業所ノックス葵の安井キャリアコンサルタントに委託し、キャリア支援講座、個別相談を行った。	①就労移行支援が必要な学生が、仕事体験や職場見学ができると良い。 ②本学のキャリア支援室と連携が進むと良い。	B	特別修学支援室の特任助教はキャリアコンサルタントの国家資格を持ち、キャリア支援業務に携わった経験がある。当該特任助教にも、特別修学支援室に来る学生のキャリア支援を学んでもらい、外部の刺激を得ながら内部のスタッフがキャリア支援できるような体制を整える。	①ノックス葵を始めとした外部の就労移行支援事業所の協力を得るなどして見学したり、職場体験できる場所を開発する。 ②キャリア支援室のスタッフによる特別修学支援室見学、特別修学支援室のスタッフによるキャリア支援室の見学を行い、お互いの業務内容や業務の流れについて理解を深める	合理的配慮を希望する学生へのサポート体制についての情報共有会議資料（2019/03/31開催）				



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		全学カリキュラム委員会		氏名		吉田 竹也					
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策		根拠資料	内部保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況 (○/×)	達成できていない理由 (×の場合理由を記載)
1	共通教育科目の開設および編成	第1回委員会ならびに第3回委員会において、2018年度の共通教育科目の登録状況を確認した。	本委員会において、毎年、初回登録抽選漏れ状況を委員に示し、特に抽選漏れが多く発生した科目はクラス数や定員等の再検討を依頼している。また、可能な限り授業定員を上回る収容人数の教室を割り当てることで、教室定員の都合上発生する抽選漏れを防ぎ、学生が履修を希望する授業に登録できるよう努めている。その結果、全学向け科目において2018年度は初回登録の抽選漏れが前年度よりおよそ13%（819名）減少し、66科目5,249名であった。	A	2019年度は改修工事が概ね終了したため、教室割当にやや柔軟性が増す。これを生かし、教室定員による制約を緩和し、抽選漏れ人数の減少を目指す。また、抽選漏れの人数や履修登録状況に応じて、教室変更を行い、履修希望者が可能な限り履修できる環境を整える。		第1回全学カリキュラム委員会_協議資料1 第3回全学カリキュラム委員会_協議資料1	教員間の共通教育科目担当の公平性の確保や定員設定の原則の確立に取り組んでいただきたい。	全学向け科目提供数は全学部学科等の教員配置状況に基づき、毎年協議会にて協議・了承されている。その枠の中での教員間の公平性の確保については、各学部学科等に委ねている。2020年度は本委員会でも、教員間の公平性に留意しつつ、充足率を向上させるよう委員（学部長・センター長）に呼びかけ、理解を求め、定員設定について2020年度までは基本的に国際教養学部設置申請のために文部科学省に提出した文書にしたがう必要がある。2021年度以降は理工学部改組のために文部科学省に提出した（あるいは提出予定の）文書の制約がある。ただし、その文書に記載されているのは理工学部生が履修する科目であり、全学的には定員設定の変更等に柔軟に対応できる体制を整えてある。	○	

(1) 前年度「点検・評価」改善すべき点として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。  
 (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  
 ※必要に応じて行を増やしてください。



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		全学カリキュラム委員会		氏名		吉田 竹也					
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	内部保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況 (○/×)	達成できていない理由 (×の場合理由を記載)
2	共通教育科目の担当・委嘱状況	第2回委員会において、全学向け科目の担当状況を協議した。また、非常勤講師の委嘱状況を報告し、全学にて現状を把握した。	各学科等の全学向け科目提供数の基準合計（471コマ）に対し、実績は482.9コマであり、充足率は100%を超えている。 また、共通教育科目における非常勤講師の委嘱率は、前年度と同程度に抑制できている。	全体では充足しているものの、学科毎には外国語科目を多く提供するスペイン・ラテンアメリカ学科、フランス学科、ドイツ学科、アジア学科に依存しており、12学科・センターで充足率が100%未満である。	B	充足率を示すだけでなく、不足するコマ数を明示するよう資料を改善する。そのうえで、基盤・学際科目等、各学科が提供できる科目を増やすよう、引き続き、本委員会より各開講主体に依頼する。	第2回全学カリキュラム委員会 協議資料1、報告資料1				
3	共通教育科目と学部共通科目および学科科目との調整	第1回委員会において、2019年度の時間割編成に向け、コマ配置方針を確認し、了承した。 第2回委員会において、教室割当の原則を示し、全学に理解を求めた。 第1回および第3回委員会において、国際科目群に指定された科目の登録状況を説明し、今後、全学的に登録を増やすよう努めることを協議し、了承した。	クォーター制による科目の配置が確立されてきた。一層円滑な時間割編成のために、1年次と2年次の学部学科の必修科目配置の優先順位を上げる改善を加えたコマ配置方針を全学的な組織で確認できた。 「設備の使いやすさの要望には、応えられない場合がある。」「教室配置の細かい要望には、応えられない場合がある。」ことについて、昨年度より具体例を多く示した資料を作成した。教室の要望があった際に、この資料に基づき、教務課員が授業担当教員に教室割当の原則を説明することにより、理解を得られるケースが増えてきている。	2018年度の国際科目群に指定された科目履修者は、前年度比10名減の1,321名であり、ほぼ横ばいであった。春学期の履修者が前年度に比べて262名減少しており、特に外国語学部生の減少が顕著であった。また2018年度に国際科目群の修得単位数がNanzan International Certificateの発行基準である24単位に達した学生は3名であり、2015年度からの推移では、11名→8名→7名→3名と減少傾向にある。	B	国際科目群の履修者が特に減少した外国語学部に対し、2019年度の時間割編成において異なる曜日時間に配置するなど、学生が履修しやすいよう配慮を求めた。また、今後は短期留学プログラムを含む、留学前後の学生に対する周知を強化するとともに、南山大学国際化ビジョンの達成に向け、国際科目群の科目数を増やすよう開講主体に引き続きの協力を求めていく。	第1回全学カリキュラム委員会 報告資料10、協議資料2、協議資料3 第3回全学カリキュラム委員会 協議資料2	国際科目群の履修者が減少傾向にあることに加え、国際化ビジョンの達成に向けた検討を開始した。まず、2019年10月に検討課題を整理した。2020年度には、英語以外の外国語で実施される科目の取扱い、Certificateの意義、教職員と学生への広報、国際科目群の管理・運営体制等の課題について、具体的な検討を進めることを予定している。		X	2020年度に英語以外の外国語で実施される科目の取扱い、Certificateの意義については具体的な検討を行ったが、教職員と学生への広報、国際科目群の管理・運営体制等の課題については、十分な検討ができなかった。2021年度中にはこれらも含めて検討を行い、国際科目群の早急な見直しを行う予定である。



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

		委員会/事務組織等名称	共通教育委員会	氏名	佐々木 克巳															
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策		根拠資料													
1	図書費計画的利用	<p>(1) 前年度「点検・評価」改善すべき点として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。</p> <p>(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。</p> <p>※必要に応じて行を増やしてください。</p>	<p>基盤・学際科目科目の分野で、電子書籍を選書し購入した。100万円程度の有効利用ができたと考えているが、一方で、他の分野での利用が減っていること、学生数の関係で当初予算が増額されたこと、次年度持ち越しができなくなったことなどから、結果として残額は増えてしまった。</p>	<p>電子書籍の選書・購入を行い、この意味では図書費の有効利用ができている。</p>	B		<p>年度はじめの共通教育委員会で、全学的な方針の変更に対応した図書費の利用計画を提案し、検討をはじめめる。</p>	第1回共通教育委員会記録報告事項2												
2	委員会の計画・方針の確認	<p>(1) 前年度「点検・評価」改善すべき点として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。</p> <p>(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。</p> <p>※必要に応じて行を増やしてください。</p>	<p>第1回の委員会において、委員会の日程、および、前年度の自己点検・評価報告書に基づく、2019年度の方針を確認した。</p>	<p>委員会で方針を確認することにより、委員会を円滑に運営することができた。</p>	A															
3	共通教育科目の登録者数、抽選漏れの確認	<p>(1) 前年度「点検・評価」改善すべき点として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。</p> <p>(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。</p> <p>※必要に応じて行を増やしてください。</p>	<p>2018年度の状況を委員会で確認した。</p>	<p>極端な抽選漏れ等が起きていないか、適切な教室が割り当てられているか等の確認ができている。</p>	A						<p>適切性の確認に留まらず、学生の満足度をさらに高めるための検証（例えば適切な定員設定、開講授業数など）・改善活動についてご検討ください。</p>	<p>2020年度までは、基本的には国際教養学部設置申請のための検証文書に提出した文書に従う必要があるため、「それに従う」という方針にせざるを得ない。2021年度以降は理工学部改組のために文部科学省に提出した（あるいは提出予定の）文書の制約があるが、その文書では科目を制限して記載するなど、科目の変更に柔軟に対応できる体制を整えてある。</p>	第2回、第5回共通教育委員会記録報告事項1							







2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

		委員会/事務組織等名称	共通教育委員会		氏名	佐々木 克巳																											
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策		根拠資料																										
					内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画		「改善計画」の達成状況 (○/×)	達成できていない理由 (×の場合理由を記載)																								
6	科目の履修条件	全学的な方針に基づき、科目にの履修条件を対応表の形で、履修要項やwebに記載した。	履修条件が、会議体で確認された上で、明確にされ、根拠がたどれる形で整理された。	A			2019年度履修要項30ページ																										
												7	国際産官学連携PBL科目の追加	「大学の世界展開力強化事業」に伴って、国際センターと連携し、国際産官学連携PBL科目を追加した。	新規科目と共通教育全体の枠組みとの整合性等を確認の上で、追加できている。	A			2019年度履修要項30ページ														
																							8	共通教育委員会規程の改正	組織の名称変更や新規科目追加に伴って、委員会規程も改正した。	状況に合わせて、適切な時期に改正ができている。ともなうて、これまでの規程の表現等も見直されている。	A			3月11日大学評議会決定事項要約 ・第2条第1項第10号 ・第4条第2項 ・第4条、了解事項1.3.4			



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		基盤・学際科目委員会		氏名		佐々木 克巳				
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策	根拠資料	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況 (○/×)	達成できていない理由 (×の場合理由を記載)
1	委員会の計画・方針の確認	第1回の委員会において、委員会の日程、および、前年度の自己点検・評価報告書に基づく、2019年度の方針を確認した。	委員会の方針を確認することにより、委員会を円滑に運営することができた。	A		第1回基盤・学際科目委員会記録報告事項2				
2	基盤・学際科目の登録者数、抽選漏れの確認	2018年度の状況を委員会で確認した。	極端な抽選漏れ等が起きていないか、適切な教室が割り当てられているか等の確認ができている。	A		第2, 5回共通教育委員会記録審議事項1				
3	次年度の基盤・学際科目の時間割編成	各回の委員会で、進捗を確認しながら、行った。	各委員会時での進捗や課題を全員の退職等で確認が後手になった部分がある。	B	最初の担当依頼で、候補者の情報をきちんと確認することを行う。	各回の基盤・学際科目委員会記録第3回～第8回審議事項1	確認が後手にまわった原因を洗い直し、今後に向けて何をすべきか検討していきたい	再課程認定申請の文書との整合性の確認が不十分であったこと、また、専任の科目担当者の定年の確認が不十分であったことから、年度末に開講クラスを減らすことになった。今後、文部科学省申請に関係する部分については、執行部との確認をより丁寧に行う必要がある。また、専任教員の定年についてはより確実な確認をするよう事務作業のルーチン化を行っている。	○	
4	基盤・学際科目リーフレットの作成	2019年度用のリーフレットを作成し、新入生に配布した。	前年度までは、各科目のサブタイトルに空欄が目立っていたが、それらも改善に向かっている。	A		2018年度基盤・学際科目案内(リーフレット)第4回審議事項2第6回審議事項3第7, 8回審議事項2				



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		博物館学芸員養成課程委員会		氏名		石原 美奈子					
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策	根拠資料	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況 (○/×)	達成できていない理由 (×の場合理由を記載)	
	[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り留めが成した水準にある [A] 良好な状態にあり、取り留めが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。					[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。
1	(1) 前年度「<点検・評価>改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。  (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  ※必要に応じて行を増やしてください。	クォーター制導入により、学芸員養成課程科目と人類文化学科の必修科目が時間割上重複するケースが見られた。そのために資格取得を目指す学生が、卒業までに必要な科目を履修できずに、学芸員の資格を取得できないケースも報告されている。実際、本年9月に「アゴラ」で、学芸員養成課程科目の開講曜日時限が人類文化学科の必修科目のそれと重複しているため改善策を求めるとする要請があった。	博物館学芸員養成課程科目委員会の委員長は人類文化学科長が兼任しているため、次年度の博物館学芸員養成課程科目と人類文化学科科目の開講予定曜日時限を把握できる立場にある。そのため、資格取得希望者の多い曜日時限に開講している人類文化学科の必修科目も、他の曜日時限への変更が難しくなっている。例年水1、2に配置されているこの演習の履修が見込まれる学生には、2年次のうちに「視覚メディア論」を履修するよう指導するしかないのが現状である。もともと、懸案の演習は哲学系の演習なので、学芸員資格取得を目指す学生の数は多くはない。	とくになし	A	博物館学芸員養成課程科目履修者の大半が人類文化学科生なので、引き続き、人類文化学科長（＝博物館学芸員養成課程委員会委員長）を介して学科との連携をはかりながら、次年度の開講科目の曜日時限の調整を行うこととする。	2018年度シラバス				
2	(1) 前年度「<点検・評価>改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。  (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  ※必要に応じて行を増やしてください。	2017年度を最後に、博物館担当教員は人類文化学科の演習担当から外れた。学芸員養成課程科目と博物館担当教員の演習科目は、高度な専門性を求められる学芸員となるには欠かせない大学院への進学に導く両輪となっていたが、博物館担当教員が演習をもたなくなると、大学院進学率の低下（ひいては学芸員になる可能性の低下）につながる可能性がある。	人類文化学科の考古学担当教員のなかには、博物館で授業を実施する、あるいは博物館所蔵資料を用いた授業を行う教員もおり、これらの授業は大学院に進学を希望する学生を輩出することに貢献しているが、その数は減っている。ただその減少は、博物館学芸員資格を取得する学生の減少とも関連がある。今後も、資格取得に必須となる博物館学実習履修者数の動向には注視する必要がある。	博物館担当教員は人類文化学科の演習担当から外れたことにより、博物館学芸員養成課程科目、および博物館自体の運営に専念できるようになった。	とくになし	A	今後も、人類文化学科に博物館を利用した授業の開講を推奨すること、博物館の活発な利用と、学芸員養成課程科目履修者確保につなげたい。	2018年度シラバス	担当教員が課程や博物館の運営に専念できるようになったメリットに加えて、他の人類文化学科の教員が授業で博物館を有効に活用することにより、課程の履修者や大学院への進学率を毎年確認することにより、博物館学芸員養成課程委員会においてその推移を継続的に検証していく。	○	



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		司書課程・学校図書館司書教諭課程委員会		氏名		宇田 光					
点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策	根拠資料	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況(○/×)	達成できていない理由(×の場合理由を記載)		
No.	[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、抜本的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。			
1	学生の学力やモチベーションを高める工夫  (1) 前年度「<点検・評価>改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。 (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。 ※必要に応じて行を増やしてください。	文章力等は特にそうだが、学生の学力低下が懸念されている。このような状況で効果的な教育を行うために、学生に自らの学習状況や理解度を把握させることが必要となっている。また同時に、課程履修のモチベーションを高める工夫も必要となっている。	学生用の履修カルテ（ポータルフォリオ）を作成した。このことにより、学生が現在の課程の履修状況を自ら把握できるようになった。 また、専任教員が担当する司書課程の講義では数回の小テストを実施した。実施後には詳しい解説を行うことで、学習内容の定着を図ると共に、理解度の自己確認に役立てるようにした。 2018年度は7月と11月にそれぞれ、図書館情報学を専門とする研究者を外部講師に招き、司書課程主催の講演会を実施している。特に司書課程の講義や演習の振替措置はとっていないが、課程履修者の多くが参加していた。	学生の学力やモチベーションを高める工夫については、課程を担当する教員全体で引き続き努力を重ねていく必要がある。	B	履修カルテを年度始めのガイダンスの参加者に配布することで、学習状況の把握を全員ができるようにする。 司書課程主催の講演会については、2018年度は研究者を外部講師として招いたが、2019年度は図書館員も外部講師とする予定である。これにより、司書という職業を意識させて、さらに司書課程を受講するモチベーションアップにつなげる。	年に数回開かれる司書課程・学校図書館司書教諭課程委員会の場、学力やモチベーション向上のための工夫を議論する。	第1回司書課程・学校図書館司書教諭課程委員会記録 第2回司書課程・学校図書館司書教諭課程委員会記録	AI化が進む中で、司書業務が先細る現状において、本課程を受講し資格を取得すること、進路の確保について学生が抱えるような、新たな需要に関する広報が必要であると思われる。 ・司書課程のガイダンスでは、資格が図書館のみならず地方自治体、マスコミ・情報通信業界に就職する際にも活かされることを説明する。 ・学校図書館司書教諭課程のガイダンスは、2020年度から教職課程ガイダンスと同時にを行い、教職志望者にもその魅力を説明する。	○	
2	司書課程・学校図書館司書教諭課程の履修指導における工夫  (1) 前年度「<点検・評価>改善すべき点」として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。 (2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。 ※必要に応じて行を増やしてください。	2019年3月に司書の資格を取得した者の数は昨年度比3名減少し47名、学校図書館司書教諭の資格を取得した者の数は昨年度比3名減少し4名である。なお、2018年4月に司書課程に登録した者の数は昨年度比6名減少し104名、学校図書館司書教諭課程に登録した者の数は昨年度比6名減少し8名であった。	学年初めの司書課程・学校図書館司書教諭課程ガイダンス等を通じて、履修希望者にそれぞれの課程の概要を周知し、積極的に資格取得を考えるよう指導している。課程の履修者数は、司書課程・学校図書館司書教諭課程ともに、ほぼ例年なみの水準を維持している。	司書課程の選択科目は開講科目の中から2科目を修得する必要があるが、2単位の科目を1つ修得しただけで資格取得の要件を満たすと思いをしている学生が一定程度見受けられた。このような学生を従来より少なくしていく必要がある。	A	司書課程・学校図書館司書教諭課程委員会の構成委員が、司書課程の講演会があるときには担当講義等で学生に周知する。これにより、2年次以降の司書課程の受講者の掘り起こしに繋げていく。	学年初めの司書課程・学校図書館司書教諭課程ガイダンスでは、司書資格の取得要件（特に選択科目）について丁寧に説明する。また、2018年に新たに作成した履修カルテでも記述しておく。	第1回司書課程・学校図書館司書教諭課程委員会記録 第2回司書課程・学校図書館司書教諭課程委員会記録			



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		外国語教育センター委員会		氏名		山田哲也						
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策		根拠資料	内部保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況 (○/×)	達成できていない理由 (×の場合理由を記載)	
					[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。						[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。
1	授業	共通教育の英語、初習外国語、日本語に関する科目、および外国人留学生別科の科目を安定的に提供した。開講科目の設定、時間割編成、担当者の割り当て、シラバス作成、履修登録、休講・補講・代講の手続き、定期試験、成績報告、授業評価など、授業運営に関する一連の手続きを行った。(1-1)	共通教育の英語、初習外国語、日本語に関する科目、および外国人留学生別科の科目を安定的に提供することができた。共通教育委員会と緊密に連携した。	特になし。	A	特になし。	特になし。	1-1「外国語教育センター委員会記録」「共通教育委員会記録」				
2	人事	以下の人事を行った。(2-1) ・英語教育部門の上級語学講師1名と語学講師4名の任期を更新した。 ・英語教育部門の語学講師2名を任用した。 ・初習外国語教育部門の上級語学講師1名と語学講師4名の任期を更新した。 ・初習外国語教育部門の語学講師1名を任用した。 ・外国人留学生別科の語学講師2名の任期を更新した。 ・外国人留学生別科の語学講師2名を任用した。 ・各部門において、非常勤講師の委嘱を安定的に行った。	人事計画に沿って教員組織を編成している。年齢や性別などのバランスに配慮して組織を編成している。語学講師の退職などの突発的な事態に対応し、適切に非常勤講師を委嘱している。	英語教育部門において、年度末に退職を願い出た語学講師がおり、その後任人事が間に合わなかった。	A	特になし。	2019年度中に2020年度に向けた語学講師の任用人事を進める。	2-1「外国語教育センター委員会記録」				
3	FD	各部門において、以下のFD研修会を開催した。その内容はどれも外国語教育に直接的に関わる実践的なものだった。(3-1) 【英語教育部門】 ・FD Session (2018年9月14日、2019年2月1日実施) ・Nanzan Language Education Seminar (2018年12月1日実施) 【初習外国語教育部門】 ・FD研修会 (2018年7月24日、2019年1月22日実施) 【外国人留学生別科】 ・日本語教育担当者FD研修会 (2018年5月7日実施、2018年9月3日実施) それ以外にも、定例ミーティングなどにおいて、小規模なFD活動を日常的に行なった。	外国語教育センターでは、活発なFD活動が行われている。また、授業運営についての課題や問題を日常的に教員同士で共有し、改善策や解決策を話し合う風土がある。外国語科目の特徴として、少人数クラスで対話的な授業運営がなされている。	特になし。	A	特になし。	特になし。	3-1「外国語教育センター委員会記録」「外国語教育センターFD活動報告」				
4	図書と視聴覚資料	外国語教育に関する図書と視聴覚資料を購入した。(4-1)	授業運営に必要な図書と視聴覚資料を確保できている。	特になし。	A	特になし。	特になし。	4-1「外国語教育センター委員会記録」「共通教育図書費決算」「視聴覚資料(外国語部門)決算」				



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		外国語教育センター委員会		氏名		山田哲也						
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価		自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況 (○/×)	達成できていない理由 (×の場合理由を記載)
			[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。		[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。					
5	英語プレイズメントテスト	英語プレイズメントテストを実施し、適切なクラス分けを行った。(5-1)	英語プレイズメントテストの結果を踏まえて、適切なクラス分けができている。	特になし。	A	特になし。	特になし。	5-1「外国語教育センター委員会記録」				
6	TOEIC IP テスト	TOEIC IP テストを2回実施した。(2018年6月13日、2018年11月7日実施) (6-1)	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	6-1「外国語教育センター委員会記録」				
7	英語教育部門ハンドブック	英語教育部門において、共通教育英語科目を教える教員向けに「Foreign Language Education Center - English Education Division Handbook」を作成した。(7-1)	このハンドブックを配布、活用することにより、共通教育英語科目を教える教員たちに教務や授業運営についての基本的な情報を漏れなく伝えることができている。また、授業内容、シラバス作成、成績評価、教材などについての方針を統一することができている。	特になし。	A	特になし。	特になし。	7-1「Foreign Language Education Center - English Education Division Handbook」				
8	南山大学外国人留学生別科紀要	『南山大学外国人留学生別科紀要』を発行した (8-1)	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	8-1「南山大学外国人留学生別科紀要」				



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		外国語教育センター委員会		氏名		山田哲也							
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価		自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	内部保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況 (○/×)	達成できていない理由 (×の場合理由を記載)	
			<p>[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」を記述してください。</p> <p>[2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。</p> <p>[3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。</p> <p>[4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。</p> <p>[S] 極めて良好な状態にあり、取り留めが良かった水難にある。</p> <p>[A] 良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である。</p> <p>[B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる。</p> <p>[C] 重度な問題があり、技術的な改善が求められる。</p>	<p>[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。</p> <p>[2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>			
9	ワールドプラザ	ワールドプラザを安定的に運営した。(9-1)	特になし。	特になし。	A	特になし。	特になし。	9-1「外国語教育センター委員会記録」	効果が上がっている点や改善すべき点が見られないことですが、さらにより良い運営が継続されるような方策についても検討ください。	ワールドプラザは、学生たちが外国語のみを使ってコミュニケーションを行うことで、授業などで修得した外国語能力に磨きをかける場所として機能している。教員の指導を受けるのではなく、学生たちが自主的にコミュニケーションをとりあうことが想定されており、それを学生TAたちがサポートする仕組みになっている。学生の主体性を尊重した南山大学らしい施設である。これらの特徴を維持することで、学生たちの期待に応え続けることを目指す。また、適切な頻度でイベントやアクティビティを実施することで、学生同士のコミュニケーションを促すように努める。	評価不能	2020年度は、新型コロナウイルス感染症により、第1、2クォーターについては、ワールドプラザを開室することができなかった。そのため、第3クォーターになって、ZOOMを用いたヴァーチャルなワールドプラザを実験的に開室した。本来のワールドプラザ同様、学生TAを募集し、学生TAにZOOMのブレイクアウトルームを一つずつ割り当て、そこに事前に参加を希望した学生を割り振る、という形式で実施した。他方、本来であれば、各種のイベントを実施するのであるが、学生TA・参加者双方のwifi環境の問題もあり、動画等の映写を行わないなどの制限があり、結局、ZOOM越しに学生TA・参加者が英語で会話をするだけとなり、やや盛り上がり欠けることになった。これは、コロナ感染症に起因するものであって、いわば「非常措置」と考えられるので、現時点で「さらに良い運営(の)継続」案を示すのは適当ではないと史料する。	

(1) 前年度「点検・評価」改善すべき点として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。

(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。

※必要に応じて行を増やしてください。



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		就職委員会		氏名		中村 和彦						
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価		自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料				
			[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。		[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。					
1	職業指導の充実	3年生向け第1回就職ガイダンスの開催を5月に実施していたが、2018年度より4月開催に変更した。早い時期から就職活動のスケジュール、流れを周知することに努めている。また、3年次に夏のインターンシップに参加する学生が増加したため、インターンシップの選考に対応できるように、これまで秋学期に実施していた就職講座（筆記試験、自己理解・自己PR、業界・職種研究、企業研究）を5月から実施した。秋学期には春学期と同じ講座の内容を掘り下げて行った。	南山生の就職活動実態調査の回答によるとキャリア支援室の行事で役立つものについて、就職ガイダンス：2017年度28.93%→2018年度36.19%に増えた。また、最終的な進路先とした企業（団体）の満足度は、2018年度：95.25%と高い。	3年生向けのスタート面談を実施しているが、利用者が少ない。スタート面談：10月から12月に実施。事前予約制で就職に関するどんな相談でも可。（スタート面談件数：2018年度243件、2017年度221件）	【B】	就職活動の環境変化、学生のニーズに応じた支援プログラムを検討し、実施する。	2019年度はスタート面談の参加者を300件を目標にする。3月に入ったらすぐにエントリーシートを提出できるよう、12月までに南山様式履歴書を完成させるよう、引き続きガイダンスで学生に周知する。キャリア支援委員を通じて教員からゼミの学生へキャリア支援室利用について周知を依頼する。（3年生の12月までに）	学生アンケート	内部保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況（○/×）	達成できていない理由（×の場合理由を記載）
2	職業指導に関する広報活動	キャリア支援室主催のガイダンス、講座を学生へ周知し、参加率を向上させるためにPORTAを利用するほか、ミニチラシを作成しキャリア支援室入口、ラーニングcommons入口付近にラックを設置した。2019年1月よりキャリア支援室利用講習会を実施している。	2019年1月から実施した利用講習会は3回実施した。	PORTAのお知らせを見ていない学生が多い。就職に関する情報はPORAで提供することを引き続き、ガイダンスで周知する。	【B】	2019年度は対象学生の8割が就職ガイダンスに参加することを目標とする。就職講座の参加率を昨年度より1割増を目標とする。利用講習会についてキャリア支援委員を通じ、教員に周知する。	3年生5月までにゼミで就職講座のチラシを配布する。		指導生を持つ教員や教員を通じてのアンナウンス、年2回の進路希望調査時に案内文書送付によるアンナウンスを行う。	委員会委員を通じてのアンナウンス、年2回の進路希望調査時に案内文書送付によるアンナウンスを行う。	○	
3	進路把握率	2018年度学長方針：就職率100%を目指す。 就職率（就職内定率） 2017年度98.46%2018年度97.69% 進路把握率 2017年度99.42%2018年度99.39%	就職率100%を目指し進路把握率の向上のため、3月の卒業確定発表、ガウン貸出会場に向き進路届未提出者に提出を促した。2019年度は把握率100%、就職率100%を目指す。	進路届を提出する必要性を学生に伝える機会を設けておらず、提出を拒否する学生がいる。（2名）精神的な配慮から進路届の提出を依頼することが難しい学生がいる。（1名）	【B】	学生がPORTAをよく利用する期間（定期試験時間割発表、成績発表）に進路届提出を促すお知らせを送信する。3年次の就職ガイダンス、就職講座で内定が出たら2018年度より早い時期に推奨求人をもPORTAに掲載する。その際に提出の意図も伝える。	進路届提出の根拠となる「学生等の職業紹介業務運営規程」に基づき、就職率・進路把握率が、大学にとって重要な資料となることを説明する。	内定率	指導生を持つ教員への協力の呼びかけも積極的に進めていく。人的なつながりの活用のためにも、各指導教員による指導生への進路把握努力が重要であるとも思われます。	教員の就職活動支援に対する意識の向上のため、2019年12月に実施したSD企画を、今後も定期的に実施する。なお、指導教員のキャリア支援に対する意識の高揚を目指すための推進を執行部にもお願いしたい。	×	2020年度はコロナ禍の影響により、就職活動を取り巻く環境が激変したため、SD企画は実施できなかった。学生にとって一番身近である指導教員からの就職活動を含むキャリアサポートは、重要である。2021年度からは、SD企画の定期的な実施に向けて、進めていく。







2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		情報センター運営委員会		氏名		野呂 昌満					
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策		根拠資料				
					内部実証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画					
1	BYOD環境整備	<p>1. 無線LAN環境整備 2018年度までに全教室における無線LAN環境整備が完了した。</p> <p>2. PC教室再編成 2018年度開始時点において、前年度の11教室(576台)から7教室(384台)にPC教室を再編成した(1-①)。</p> <p>3. ネットワークプリンタ配置 2018年度開始時点において、学内10か所に12台のネットワークプリンタを配置した(1-②)。</p> <p>4. 幹線PCについて 2018年度新入生を対象に、南山大学推奨モデルPC(1種類)を幹線した。最終的に、1,024台のPCを幹線できた。</p>	<p>1. 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p> <p>2. 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>1. 自己評価の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [A] 極めて良好な状態であり、取り組みが継続した水準にある [B] 軽微な問題があり、さらなる取り組みが必要である [C] 重大な問題があり、抜本的な改善が求められる</p>	<p>1. 全キャンパスにおける無線LAN整備 2019年度には、教員研究室を含む全キャンパスのWi-Fi化を完了する予定である。</p> <p>2. PC教室の整備計画策定 2019年度以降のPC教室整備計画に則り、2021年度までにはPC教室(除く、自習室)を廃止する予定である(1-①)。</p> <p>3. 全キャンパスへのネットワークプリンタ配備 BYODを推進するためには、印刷環境の整備も重要な要素である。このため、Ⅲ・Ⅳ期工事が終了する2019年度までには、キャンパス全体にネットワークプリンタを配備する予定である(1-⑦)。</p>	<p>1. 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>1. 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。複数の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。</p>	内部実証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況(O/×)	達成できていない理由(×の場合理由を記載)
2	eラーニング環境整備	<p>eラーニングの動作基盤として、WebClassを採用している。サポートしている機能は、以下のとおりである。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>マルチデバイスサポート</li> <li>資料公開</li> <li>課題作成/採点</li> <li>会議室</li> <li>成績管理</li> <li>出席管理</li> <li>お知らせ機能</li> <li>タイムライン</li> </ul>	<p>WebClassの機能だけでは、利用者の負担が大きいことから、以下のサービスを行っていた。 【付加サービス内容】 PORTAの全履修者情報をWebClass上のメンバーにコピーする。ただし、WebClass上で個別にメンバーを追加する必要があるため、コピー前の一括削除は行っていない。このため、メンバーの削除は、各担当者に任せていた。</p>	<p>2018年度は、WebClass上で全開講クラスをコースとして一括作成した。メンバーについても、PORTA科目登録者を使用して一括登録した。しかしながら、実際にeラーニングとしてWebClassを利用した割合は、非常に低かった(8.3%(2-①))。</p>	<p>2019年度に向けて更に利便性を向上させるべく、2018年度末に対応を行い、教員が個別にWeb上で登録したメンバーを除いて、PORTAの履修データとWebClass上のメンバーが自動的に連携(追加・削除)できる準備を整えた。これにより、教員の手間が減り、利用しやすい環境が整った。</p> <p>今後、授業方法におけるeラーニングの採用可否は、各担当教員の判断に委ねることになるが、情報センターとしては、引き続きeラーニングの基盤整備、啓蒙活動に取り組んでいきたい。</p>	<p>2-① 「WebClass利用実績」</p>	<p>WebClassの活用に関しては、情報センターによる講習会等の開催と並んで、学部等のFDを通じて、実際の授業での実践例を踏まえた活用の浸透を図る必要があると思われる。</p>	<p>2018年度より、eラーニングシステム(WebClass)の活用をテーマに情報センターFD企画を実施している。併せて学部FDとも連携し、これまで総政政策学部、外国語学部のFD企画に協力し、紹介に努めている。</p> <p>引き続きeラーニングシステムの活用を促進するために、以下の施策を実施する。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>情報センターFD企画(授業における実践等の紹介等)</li> <li>学部FDへの協力</li> <li>動画マニュアル(入門編各5分程度)の紹介</li> </ul> <p>(テスト作成編、レポート課題作成編、資料作成編、アンケート作成編)</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>個別サポート</li> </ul>	<p>2020年度は新型コロナウイルス感染症防止により、FD企画を実施することができなかった。一方で、オンライン授業対応のために講義資料DLサーバを設置し、課題提出先として講義資料DLサーバとともにWebClassを活用した。オンライン授業の実施により、WebClassの利用は以下のとおりとなった。</p> <p>2017年度：8.4% 2018年度：8.4% 2019年度：15.6% 2020年度：56.3% (参考資料：WebClass利用率一覧)</p>	×	



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		図書館委員会		氏名		山田 望						
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価		自己評価	将来に向けた発展方策		根拠資料	内部保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況 (○/×)	達成できていない理由 (×の場合理由を記載)
			[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。	[2]「改善すべき事項」を記述してください。		[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。	[2]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に(到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等)を記述してください。					
1	現在の図書館の顕著な老朽化に伴う問題を解決するための対策	老朽化に伴う問題を解決するための抜本的な対策を講じるには至っていない。 今年度発生した施設に関するトラブルは、以下の通り。 ・図書館1階中央階段前の防火シャッターの故障 (2018年9月10日) ・図書館棟工事に伴う図書館B2保存庫内での粉塵および水滴の発生 (2019年2月14日)	キャンパスの施設設備計画Ⅲ・Ⅳ期に基づき、2019年2月～3月にトイレ改修が行われた。	老朽化に伴う問題とその他の問題に対する早急な対策が求められる。	C	施設課の中・長期事業計画に基づき、2019年8月、故障により利用できなくなった図書館内の空調機器 (GHP、EHP) の一部が更新される予定である。	老朽化に伴う問題を解決するための抜本的な対策を講じる必要があることを、大学執行部へ訴えていく。ただし、二重投資とならない根本的かつ長期的な視野に立った整備が必要である。	2018年3月1日付「図書館整備ワーキング・グループ報告書」図書館内投書箱 (あなたの声) No. 18-01 図書館内投書箱 (あなたの声) No. 18-02				
2	狭隘化を解決するための対策	2017年度より学外書庫を活用し、約26万冊の資料を学外書庫で保存している。また併せて、オープンアクセス (他大学のWebページや機関リポジトリ等で公開) されているタイトルの除籍を行うために、オープンアクセス状況調査を進めている。	学外書庫等の活用により空いた書架スペースを有効活用すべく書架構成の再検討を行った。資料の移動は、2019年度～2020年度に実施予定であり、これにより、収蔵スペースの有効活用と今後も必要な資料を継続的に収集することが可能となる。また、塵除けのない最上段への配架を避ける等、利用者にとって利用しやすい配架が可能となる。	特記事項なし	B	特記事項なし	特記事項なし	2018年度第6回図書館委員会資料 (2019年3月13日開催)	資料の所在が「学外書庫」である場合には図書館側の蔵書を、利用者の側にも不便が生じています。学外書庫の活用は図書館内書庫の狭隘化の解決には有効と考えられますが、同時に利用者サービス面から学外書庫を利用することの検証作業も必要とされます。	2017年度キャンパス統合時に瀬戸図書館の蔵書を、2018年度以降は名古屋図書館の蔵書の一部を学外書庫へ移設し、運用してきている。学外書庫からの取り寄せ冊数は2017年度2375冊、2018年度2218冊、2019年度(12月末時点) 1579冊であった。今後は取り寄せされている資料を検証し、図書館のスペースを考慮のうえ、継続的に検討して配架の適正化を図りたい。また、学外書庫に特化するものではないが、図書館サービスの充実に向けて、現在学生向けにアンケートを実施しているため、その結果も今後の検証に活用する予定である。	○	



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		図書館委員会		氏名		山田 望						
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価		自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況 (○/×)	達成できていない理由 (×の場合理由を記載)
			[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。	[2]「改善すべき事項」を記述してください。		[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。	[2]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。					
3	共通教育を担うセンターへの学部配分図書費の配分	共通教育を担当する教員が所属する各センター組織（外国語教育・教職・情報・体育教育・国際・保健）が立ち上がったが、センター所属教員に学部共通図書費が配分されず、学部所属教員との間に不均衡が生じた。	2019年度より、各センター所属教員に学部配分図書費が配分される配分方法へ変更した。また併せて、図書館委員会の委員構成に当該センターのうちから1名の教育職員を追加した。	特記事項なし	A	特記事項なし	特記事項なし	2018年度第5回図書館委員会資料（2019年1月16日開催） 南大図書第18-152号「共通教育を担うセンターへの学部配分図書費の配分について（伺）」（副学長（総務・将来構想担当）182314）				
4	延滞料制度の見直し	2018年度は、貸出制限と督促の強化を図ったところ、資料を返却しない延滞者・延滞資料数は一定数存在するものの、長期延滞者および長期延滞資料数が、2017年度と比較して約30%減少していることを確認できた。しかし、当該データは4月～12月で分析したものであり、1月～3月も同様の傾向が続くのか、また、卒業生の返却状況に変化がみられるのか把握することができないため、より正確なデータに基づき分析するため、延滞料制度の試行期間を、2019年1月～3月までのデータや卒業生の返却状況のデータが出揃うまで延長することとした。	2017年度より貸出制限と督促の強化を図ったところ、2018年4月～12月のデータにおいて、長期延滞者および長期延滞資料数が、2017年度と比較して約30%減少した。	資料を返却しない延滞者・延滞資料数は一定数存在している。	B	2018年度の長期延滞者、長期延滞資料数や卒業生の返却状況等を分析し、現在の貸出制限、督促の効果を検証する。そのうえで、2019年度の早い時期に分析結果ならびに必要なに応じて貸出制限・督促強化のための具体策を提示する。	資料を返却しない延滞者・延滞資料数は一定数存在することが想定されるため、一定の範囲内で収まるよう、継続して貸出制限・督促の効果を検証していく。	2019年2月14日開催大学協議会資料				



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		自己点検・評価委員会		氏名		鳥巢 義文							
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策		根拠資料						
					内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画							
1	委員会の活動（自己点検・評価）	<p>南山大学自己点検・評価委員会は、2017年度の規程の改正をうけ、自己点検・評価に関する次の活動を行った。(1-1)</p> <p>①「2017年度自己点検・評価報告書」について、南山大学内部質保証推進委員会の提案による点検・評価方法を審議した。</p> <p>②「2017年度自己点検・評価報告書」点検・評価結果について、南山大学内部質保証推進委員会の確認内容について、審議した。(1-2)</p> <p>③「2018年度自己点検・評価報告書」について、南山大学内部質保証推進委員会の提案による様式を審議した。(1-3)</p> <p>④「2017年度自己点検・評価報告書」点検・評価結果に対する、学部等各組織のコメントを審議した。(1-4)</p> <p>⑤「南山大学内部質保証システム体系図」の制定、「内部質保証の方針」の改正について、南山大学内部質保証推進委員会の提案をうけ、審議していくこととした。(1-5)</p>	<p>①「2017年度自己点検・評価報告書」について、南山大学内部質保証推進委員会の提案を受け、各組織に対して「意見・指示」を提示し、それに対する「改善計画書」の提示を行う予定であったが、「コメント」を求めるにとどまった。</p>	B	<p>①「2018年度自己点検・評価報告書」への点検・評価方法については、南山大学内部質保証推進委員会の提案をもとに検討をする。</p>	<p>1-1. 第1回委員会記録 1-2. 第4回、第5回委員会記録 1-3. 第5回、第6回委員会記録 1-4. 第6回委員会記録 1-5. 第6回委員会記録</p>	<p>内部質保証推進委員会との関係性や役割分担について、明確にする必要があると思われる。</p>	<p>内部質保証推進委員会での原案の審議を経て、内部質保証推進委員会との役割を明確にするため、内部質保証システム体系図の制定について審議を行っている。 (第4・5回委員会) また、自己点検・評価委員会の名称を「内部質保証委員会」に変更するとともに、両委員会の役割を明確化するため、「南山大学自己点検・評価規程」「南山大学内部質保証推進委員会規程」の改正について審議する予定である。</p>	○				







2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		内部質保証推進委員会		氏名		吉田 竹也						
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価		自己評価	将来に向けた発展方策		根拠資料	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況 (○/×)	達成できていない理由 (×の場合理由を記載)
			点検・評価	自己評価		将来に向けた発展方策	根拠資料					
1	委員会の役割	ピア・レビュー委員会を廃止し、自己点検・評価委員会の下に、本委員会を新設した。本委員会は自己点検・評価委員会の実行部隊として点検・評価活動を行っており、内部質保証システムを実効性を伴ったものとして機能させることにつながっている。本委員会の役割としては、学部・研究科等の各組織において教育研究活動のPDCAサイクルが適切に運用されているかを確認するとともに、自己点検・評価委員会が学部・研究科等の各組織に対して適切なマネジメントを実施することができるように評価・報告等を行うことである (1-1、1-2)。	委員会を新設したことにより、各組織に対して内部質保証の取り組み計画の立案と計画に沿った活動、その活動内容の評価と評価結果に基づく改善という一連の取り組みの方向性を示すことで、内部質保証の実効性をより高めることができる。	本委員会と自己点検・評価委員会の役割関係にやや不明瞭な部分がある。教育研究の内部質保証の実効性を確保するために全学的な観点から自己点検・評価を行う本委員会と、自己点検・評価に基づく改善活動など内部質保証を担う、親委員会である自己点検・評価委員会との間で、実態と名称にずれがあるといえる。また、内部質保証システムの体系図にも改良の余地がある (1-3)。	B	内部質保証の実効性をより高めるため、本委員会の意義や各組織からの自己点検・評価結果に基づく全学的観点からの自己点検・評価について各委員会の役割をより明確化する可 能性について今後検討する。また、その中で明らかとなった内部質保証の意義や自己点検・評価の有効性についても改良を行い、自己点検・評価委員会へ提案していく。	本委員会と親委員会である自己点検・評価委員会の名称と実態等のずれについては、名称変更等を通じて各委員会の役割をより明確化する可 能性について今後検討する。また、内部質保証システムの体系図について 1-1…「内部質保証推進委員会規程」 1-2…「2018年度南山大学外部評価委員会のテーマおよび評価ポイントについて」(2018年度外部評価委員会資料) 1-3…「南山大学内部質保証推進システム体系図について」(2018年度第4回内部質保証推進委員会資料)	自己点検・評価委員会との関係性や役割分担の明確化に関して、是非ともご検討いただきたい。	親委員会である自己点検・評価委員会との役割を明確にするため、次の原案を検討し、自己点検・評価委員会に上程した。 1. 自己点検・評価委員会および内部質保証推進委員会の役割を明確化することも含め、内部質保証の方針および内部質保証システム体系図の原案を検討した。(第2～5回委員会) 2. 自己点検・評価委員会の名称を「内部質保証委員会」に変更するとともに、両委員会の役割を明確化するため、「南山大学自己点検・評価規程」「南山大学内部質保証推進委員会規程」を改正することについて原案を検討した。(第4回委員会)	○		

(1) 前年度「点検・評価」改善すべき点として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。  
(2) 上記 (1) 以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  
※必要に応じて行を増やしてください。







2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		FD委員会		氏名		三浦 英俊		
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	
					内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画		「改善計画」の達成状況(○/×)
1	「学生による授業評価」アンケート回答率の低下	<p>二学期制時の回答率とクォーター制導入後の回答率を比較すると、以下のとおり低下している。これは授業アンケート実施回数が年2回から4回に増えたこと、およびマークシート使用からWebアンケートへと方法を変更したこと等が要因として考えられるが、回答率を上昇させるために、学生にはPORTAを通してアンケート回答をこまめに依頼し、教員には授業中のアンケート実施アナウンスを徹底するよう依頼した。結果として、二学期制の時ほど回答率は高くはないが、おおむね安定している。また、授業評価結果をより分かりやすく提示するために、「学生による授業評価」まとめ冊子の目次を中心に、簡潔且つ読みやすいように変更してWebページを通して提示した。</p> <p>【二学期制・マークシートアンケート】                      2015春：66.81%                      2015秋：61.04%                      2016春：65.28%                      2016秋：61.20%                      【クォーター制・Webアンケート】                      2017年度：Q1_62.44% Q2_47.37%                      Q3_44.49% Q4_41.94%                      2018年度：Q1_50.16% Q2_46.51%                      Q3_44.33% Q4_42.15%</p>	<p>改善すべき事項として、引き続き「学生による授業評価」アンケート回答率の低下が挙げられる。学生の回答を促す仕組みとして、①PORTAを通して学生にアンケート回答をこまめに依頼する、②教員に授業中のアンケート実施アナウンスを徹底するよう依頼する、③「学生による授業評価」まとめ冊子の目次を中心に簡潔且つ読みやすいよう変更し、Webページに掲載する、という3点を実施したが、回答率は上昇しなかった。しかしながら、「現状の説明」に記載の2017年度、2018年度の回答率を比較するとおおむね安定した回答率となっていることから、上昇はしなかったが、ある一定の効果はあったものと考えられる。</p>	【C】	<p>到達目標：回答率の上昇</p> <p>2019年度に向けた改善方策として、以下の3点を実施する（①②は継続）。</p> <p>①PORTAを通して学生にアンケート回答をこまめに依頼する。→FD委員会事務局（教育・研究支援事務室）にてPORTAの学生お知らせへ掲載。</p> <p>②教員に授業中のアンケート実施アナウンスを徹底するよう依頼する。→PORTAの教員お知らせへ掲載、およびFD委員会各FD委員へ教授会等での声かけを依頼。</p> <p>③学生に改めて授業評価の重要性（どのように学生に還元されるのか）を説明し、回答への協力を仰ぐ。→FD委員会事務局（教育・研究支援事務室）にてPORTAの学生お知らせ掲載。</p>	<p>全教室でのAXIAが利用可能となったことでwebによる学生の授業評価は容易となった。しかし、以前のマークシート方式のときはマークシート提出後に教室を退出するという手順のため、回答に一定程度の「強制力」が働いていた事と比べると、webによる授業評価の場合はその強制力が弱いため、回答率が低下したという理由が考えられる。</p> <p>一方で、学生による授業評価はあくまでも自主的な回答を求めているので、内部質保証推進委員会のご指摘、「アンケートがどのように生かされているのかを学生に提示し、理解と協力を求める取り組みを進める必要がある」とも重要である。学生向けへの、授業評価の結果のまとめの提示を改善して、回答率を高める工夫に取り組みたいと考えている。</p>	×	<p>2019Q1 50.89%                      2019Q2 46.13%                      2019Q3 42.16%                      2019Q4 46.23%                      2020Q1 実施せず                      2020Q2 52.4%                      2020Q3 42.2%                      2020Q4 41.5%                      という数値の推移である。2020年度の回答率は、Q2は前年同期比で上昇したがQ3とQ4は低下した。コロナ禍のため、計画した改善案に着手できなかったことと、オンライン授業とハイブリッド授業が主体であったため、教員からの授業評価の呼びかけがうまく周知できなかったことが原因ではないかと考えられる。</p>



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		FD委員会		氏名		三浦 英俊		
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策		根拠資料	
					内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画		「改善計画」の達成状況 (○/×)
2	「学生による授業評価」アンケートの実施方法の検討	2017年度の活動を通じた課題として、2018年度は「学生による授業評価」アンケート実施回数増加に伴い、教員や学生への負担が増えたことに対して、FD委員会事務局にてアンケート実施回数を減らした場合のメリット・デメリットを洗い出し、FD委員会委員長に報告をした。この報告をもとに、2019年度以降、教員および学生への負担を軽減するための新たな「学生による授業評価」の仕組みを検討・構築する予定である。	「学生による授業評価」アンケート実施回数を減らした場合の、メリット・デメリットを洗い出すことを、2018年度に向けた改善方策としていたが、メリット・デメリットの洗い出しは完了した。主なメリット・デメリットは以下のとおり。 【メリット】 ●実施回数が減るため、教員および学生への負担が減る。 【デメリット】 ●Q1とQ2、Q3とQ4にまとめて年2回の実施とするが、授業評価科目選出を実施するQ1およびQ3では、Q2とQ4の受講者数が確定していないため、結果として ・受講者5名未満の科目を選出する ・5名以上の科目を選出から外す可能性がある。	【A】	到達目標：「学生による授業評価」の新たな仕組みを検討・構築する。  2019年度に向け、洗い出したメリット・デメリットを元に、「学生による授業評価」実施スケジュール、科目選出方法、授業評価報告書スケジュールを具体的に検討し、教員や学生への負担を軽減するための新たな仕組みを構築する。→FD委員長・FD委員会事務局（教育・研究支援事務室）にて原案を作成し、FD委員会・自己点検・評価委員会にて審議。2020年度からの運用を目指す。			
3	「学生による授業評価」自己点検・評価報告書の提出率上昇	2017年度および2018年度の「学生による授業評価」自己点検・評価報告書において、報告書入力締切日翌日の提出率は以下のとおり。 2017年度 Q1：38% Q2：39% Q3：41% Q4：38% 2018年度 Q1：32% Q2：35% Q3：37% Q4：29% 提出締切後、FD委員会事務局（教育・研究支援事務室）から2回、学部長から2回～3回督促を依頼し、報告書の提出を依頼するが、大体すべての報告書が提出されるまでに、2ヶ月～4ヶ月程かかる（報告書入力締切日翌日から）。	改善すべき事項として、「学生による授業評価」自己点検・評価報告書入力リマインド時の教員の対応から、スケジュールを把握していない教員が多いことが挙げられる。スケジュールは授業評価実施期間も含め、①各教員のメールアドレスへ紙面にて案内を配付、②PORTAにて案内を掲載・再掲しているが、①は報告書入力1ヶ月程前の配付でタイムラグがあること、②は教員によってPORTAの確認にばらつきがあることがスケジュールが浸透しない要因であると考えられる。	【C】	到達目標：「学生による授業評価」自己点検・評価報告書の提出率上昇  2019年度に向けた改善方策として、以下の2点を実施する。 ①『「学生による授業評価」実施について（ご案内）』にPORTAに案内を掲載するため、必ず確認していたかどうか一文を追加。→FD委員会事務局（教育・研究支援事務室）にて一文追加、FD委員会にて審議、自己点検・評価委員会にて報告。 ②専任教員は報告書入力を教授会等で依頼する。→FD委員会にて、各FD委員に声がけを依頼。		提出率の低下傾向の歯止めと改善のための厳格な措置の必要性について検討が必要があると思われる。また、全学のFDの取り組みの一つとして、授業評価で高得点を得た担当者を含めたワークショップやシンポジウムの開催を検討したい。	○



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		大学院委員会		氏名		鳥巢 義文						
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価		自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況 (○/×)	達成できていない理由 (×の場合理由を記載)
			[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。		[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。					
1	入学者数の増加	2018年度末での定員充足率は博士前期・修士課程の取容定員266名に対し、在籍者数141名で充足53%、博士後期課程の取容定員84名に対し、在籍者数24名で充足率29%、専門職課程(法務)の取容定員60名に対し、在籍者数16名で充足率27%と全体で定員割れを起こしている。	定員充足率を上げ、定員数の学生を確保する。過去5年の5月1日現在在籍者数は2014年度[博士前期190、博士後期27、専門職97]、2015年度[博士前期 190、博士後期25、専門職73]、2016年度[博士前期161、博士後期27、専門職66]、2017年度[博士前期143、博士後期26、専門職36(ビジネス専攻最終)]、2018年度[博士前期144、博士後期24、専門職19]と、低下の傾向にある。文部科学省「学校基本調査」によると、全国的にも、大学院等への進学率は、平成22年度(平成22年3月)をピークに8年連続低下している状況にあるが、まずはこの低下傾向に歯止めをかけることを目標としたい。	B	定員割れの状況を改善するための方策や、大学院生の受け入れを強化するための方策について、各研究科および大学全体として引き続き検討する。具体的には、研究科・専攻の魅力や大学院奨学金などの学生補助をWebページ、大学説明会を中心に告知していくことが考えられる。	2014～2018年度 5月1日現在在籍数(学生課作成)	文部科学省「学校基本調査」	学内生向けの進学説明会や社会人向けの講演会、修了生や企業の採用担当者も交えたキャリア支援プログラムの実施など、志願者の増加へ向けた取り組みを行っている研究科においては、2021年度の募集に向けてその取り組みについてパンフレットやWebページ等を通じて発信を行う。 ・各研究科・各専攻において、定員充足に向けた取り組みを検討し、2020年度内に具体的な方策を提示する。		○		
2	広報活動の強化	大学院広報は大学院説明会を中心にしているが、それだけではなく、大学Webページ、研究科独自Webページをリニューアルし、対外的な情報発信を強化した。また、入試課と検討して南山大学大学院を紹介するポスターを作成し、学部生への周知を図った。	社会科学研究科、法務研究科独自のWebページがリニューアルされ、情報が見やすいページに構築された。	B	リニューアルがまだ行われていない研究科にも協力を依頼するとともに、広く一般に向けた大学院進学説明を兼ねた講演会を行う可能性などの新たな広報を大学院全体として検討していく。		社会科学研究科、法務研究科 独自Webページ					
3	研究倫理教育	2018年9月17日、11月26日、2019年1月21日、2月25日開催の大学院委員会大学院委員会にて報告事項として取り上げ、各研究科の研究科長、専攻主任に大学院生未受講の現状を伝えている。会議の席上で各専攻から大学院生未受講者に受講するよう指導を依頼している。	2018年度の大学院生未受講者は2019年3月4日現在で該当者総数188名に対し、3名未受講者となっており、98%の受講となっている。	A	引き続き大学院委員会で随時受講状況を報告し、専攻主任を通じて大学院生未履修者に受講するよう促していく。		大学院委員会議事録 研究倫理受講状況(2018年度)					



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		学務部		氏名		児玉 和典							
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価		自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料					
			点検・評価	自己評定		将来に向けた発展方策	根拠資料						
		[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 [S] 極めて良好な状態にあり、取り留めが建った水準にある [A] 良好な状態にあり、取り留めが概ね適切である [B] 軽度な問題があり、さらなる努力が求められる [C] 重度な問題があり、技術的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまで、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規模の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合URLを必ず明示してください。	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況 (○/×)	達成できていない理由 (×の場合理由を記載)
1	業務目標の設定と達成状況の評価	学長方針、大学事務部長方針の達成に資するべく、学務部としての目標を設定している。これに基づき各課室においても年間目標、方針を策定し、その達成のための業務遂行を目指している。	毎年度当初に学務部の年間目標を設定し、部内会議、課室内ミーティングにおいて共有している。また、これを元と各課室でも同様の目標を設定し周知徹底している。これらにより所属職員の認識、業務遂行における方向性を統一している。上位組織の目標を元にして下位組織が目標を設定しているため、大学としての方向性から外れることはないと考えられる。	前年度各課室の業務目標達成状況については、課室長の業務目標シート等を元にした面談で個々に評価しているが、部内会議等で部長・課室長間で共有する対応をしていない。	A	部全体の方向性を確認するために、各課室で設定している目標を部内会議等で共有する。	課室別目標の達成状況については、課室長との面談時に大まかに確認しているが、これを明確にするとともに、年度当初の部内会議において、達成状況と今後の取組について共有する。もちろん、課室間の優劣をつけることが目的ではなく、他課室の目標内容や達成状況を共有することにより、部内の協力体制を構築することにつなげていきたい。	学務部業務目標 部内会議記録					
2	超過勤務の削減と業務の平準化	超過勤務については増減を繰り返していたが、2011年度あたりから事務システム開発に関連して教務課を中心に増加してきた。その後開発作業の終了とともに減少したが、2015年の理工学部移転、2017年のキャンパス統合とクォーター制導入により急増している。特に教務課、入試課の超過勤務が突出しており、この削減が課題である。関連して、課室内における個々の職員の担当業務量の平準化も目指している。	一部課室を除き、全体として超過勤務時間は減少している。また、適宜業務分担の見直しも行われており、所属職員間での業務不均衡も解消されつつある。合わせて、部内での協力体制も徐々に導入しており、繁忙期に他課室応援を依頼しやすい雰囲気も醸成している。	学務部内においては入試課、教務課の超過勤務時間が他課室に比べ圧倒的に多くなっている。教務課はキャンパス統合やオーダー制の導入、入試課は学部設置による入試種別の増加やカトリック系高校入試制度改革等による業務量の増大、入試広報活動の拡大等が要因となっている。個々の業務分析、削減のための方策を課室長と検討しているが、両課室ともかなりの業務量を抱えており、課室レベルの判断による縮小が困難な業務も多く、実効性のある対応を見いだせていない。また、これら課室の超過勤務削減のために、他課室との関連で業務移管等で対応可能かどうかの検討も十分とは言えない。	C	特定課室のみならず、全課室長と定期的に面談を実施し、業務の進捗や超過勤務時間の評価について話し合う機会を設ける。その際に業務分担についても合わせて検討し、下記3にある資質向上も考慮しつつ対応する。また、必要に応じて実態に即した事務組織変更の素案を作成し、上部組織に提案する。また、関連業務で複数課室に跨るものがあれば、これらを適切に配分することによる超過勤務の削減を検討する。時期的には、超過勤務の多い課室が繁忙期となる前、かつ次年度の業務状況がある程度見通せる時期である年内を目処に繁忙期および次年度の削減目標を設定する予定である。	・課室超過勤務一覧 (前年度対比) ・課室業務分担表	他の課室の協力による超過勤務の解消に向けては、以前発生したミスへの対応、なぜそのような状況に至っているのか、原因を突き止めていたと存じます。また、教員の側からの協力も不可欠だと思います。まずは勤務の厳しい実情を各教員にしっかりと理解をさせ、対応を始めていきます。	特に超過勤務については、以前発生したミスへの対応、なぜそのような状況に至っているのか、原因を突き止めていたと存じます。また、教員の側からの協力も不可欠だと思います。まずは勤務の厳しい実情を各教員にしっかりと理解をさせていきます。	×	学務部各課室においては、新型コロナウイルス対応業務に追われた一年であり、超過勤務を抑制するところが増加させる結果となった。入試課では、試験時の感染防止対策の実施、追試験の設定、試験室の見直しなど、イレギュラーな案件への対応に忙殺される毎日であり、10月からは月80時間近くの時間外勤務となる職員が4名から5名おり、他課室からの応援職員を手配するような追い込まれた状況であった。教務課では、新年度開始から、通常授業は行えず、急遽、オンライン授業へ転換を余儀なくされ、今までとは全く異なる授業運営となり、ゼロからの組み立てを行ってきた。秋学期からは、ハイブリッド授業を実施するための準備を夏期休日を要変更して遂行してきた。さらに、1月以降は、一週での休日振替を進めていく。また、全体としては複数教係間でのさらなる連携、業務の再配分も進めていく。教員への理解については、事務サイドとしては有り難いご指摘として受け止めているが、具体的な方策については教学上の役職者（教務部長等）と意見交換しながら進めていきたい。		



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		学務部		氏名		児玉 和典						
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価		自己評価	将来に向けた発展方策		根拠資料	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況 (○/×)	達成できていない理由 (×の場合理由を記載)
			[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。	[2]「改善すべき事項」を記述してください。		[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。	[2] 500字以内で簡潔に記載してください。					
3	所属職員の資質向上	学務部業務目標の一つとして「職員資質向上」を掲げ、担当業務の定期的な変更による業務処理能力の向上、外部セミナーの積極的活用による学校職員としての資質向上を目指している。	各課室において、業務に関連するセミナー、研修会等には積極的に職員を参加させている。また、業務分担を定期的に見直しており、所属職員全員の業務知識向上を図っている。	セミナー、研修会については、参加できる職員が限定される傾向がある。また、参加後の課室へのフィードバックについては十分とは言えず、参加者個人に留まっているケースも多い。	A			学外セミナー参加状況				
4	職員、業務の適正配置と組織体制の検討	キャンパス統合に伴う業務量と人員配置の問題について、必要に応じて組織変更を含めて検討する。	キャンパス統合時からの継続課題である。詳細な分析までには至っていないが各課室の業務状況、超過勤務状況から見る限り、特定課室を除き概ね適切と判断できる。	特定課室においては、キャンパス統合以降超過勤務が増加し続けており、その業務量に現在の人員では対応できていない可能性がある。合わせてこれら課室においては過去の処理ミスがいくつか発覚しており、これらの対応にも時間を費やしているため、超過勤務の増加とキャンパス統合の因果関係も分析できていない。	C	業務量の増加が続いている課室については、原因の詳細な分析を行い、業務の効率化や統廃合も検討する。さらに、担当業務や配置職員数のみならず、組織体制についても見直しを行い、課室か係の分割等、必要に応じて組織変更を提案する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>・課室超過時間一覧（前年度対比）</li> <li>・課室業務分担表</li> </ul>					



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		学生課		氏名		後藤 真貴子						
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料					
					内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画		「改善計画」の達成状況 (○/×)	達成できていない理由 (×の場合理由を記載)			
		[1] 点検・評価項目を設定し、簡潔な項目名を記入してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 点検・評価項目ごとに現状を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 「改善すべき事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 自己評定の結果として、S、A、B、C のいずれかを記入してください。 【S】極めて良好な状態にあり、取り組みが卓越した水準にある 【A】良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である 【B】軽度な問題があり、さらなる努力が求められる 【C】重度な問題があり、技術的な改善が求められる	[1] 「効果が上がっている事項」については、さらに伸ばさせる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。				
	1 委員会の適切な運営	学生課で所管する委員会等は以下のとおりであり、それぞれ事務局として開催通知発信、資料準備、事前打合せ、書記、記録作成、事後処理をおこなった。  ①学生委員会：計11回（うち臨時2回）開催 ②奨学生選考委員会：計9回開催 ③学生交流センター委員会：計2回開催 ④南山大学大学院日本学生支援機構第一種奨学金返還免除候補者推薦委員会：計2回開催 ⑤保健管理委員会：計2回開催 ⑥学生部会議：計41回開催 ⑦保健センター会議：計11回開催 ⑧合理的配慮サポート会議：計12回開催	事務局として、学生部案件は学生部長と、保健案件は保健センター長と事前に相談・打ち合わせを行って資料を準備し、学内手続きに漏れがないよう適切な運営を実施した。 学生課で原案を作成、提案するものについては、学生部会議や保健センター会議で協議を重ね、関係委員会への審議を進め、実施することができた。 また、学生委員会、奨学生選考委員会、学生部会議、保健センター会議においてはペーパーレスを推進し、データ配信（回収資料を除く）により委員が各自PCあるいはタブレット端末を持参し実施した。	委員会資料に誤りがあり、訂正が必要になることがあるため、ミスのない資料作成をすることが重要である。	B	常に改善意識を持ち、学生部会議や保健センター会議で検討するための提案資料の根拠を示して作成し、学生部や保健センターと連携して協議を進め、期限を定めて着実に学内手続きをおこなっていく。	各種委員会前に、学生部会議や保健センター会議で資料を事前に確認しているが、より慎重に点検して委員会資料を作成する。	左記①から⑧の各委員会資料および記録				
	2 大学行事・イベントの遂行	①フレッシュマン祭：（3/31-4/5）：フレマン祭実行委員会への助言 ②上南戦（7/7-9）：上南戦実行委員会への助言 ③ゆかたフェス（7/13）：ゆかたフェス実行委員会への助言 ④野外宗教劇（10/14）：公認団体野外宗教劇への助言 ⑤大学祭（11/3-5）：大学祭運営委員会への助言 ⑥降誕祭（12/8）：降誕祭実行委員会への助言 ⑦学生交流センター（セントルム）でのランチトーク：19回	各種行事の実施、運営に際し、各実行委員会、運営委員会を組織する学生の相談に乗り、助言し、大きなトラブルなく開催できた。 特にキャンパス工事に伴いパッセスクエアの使用が制限された野外宗教劇や大学祭において、施設課との調整を密に行い、適切な情報を学生へ提供することで、予定通り開催することができた。 また、学生交流センター（セントルム）で昼食時間に開催しているランチトークについて、2018年度は19回の開催となり、前年度31回開催に比較すると減少したが、学生TAが主体的に実施するようになったため、趣旨にあった運営ができるようになった。	課外活動は学生が主体的に行うものであるという前提のもと、学生課として助言を行っているが、学生が学生課を頼りすぎる面もあり、その間わり具合が難しい。 複数の課外活動団体において、会計上の不備があり、学生部会議で対応を検討し、指導をおこなった。	A	各行事終了後に、学生部会議で意見を集約し、その意見を各実行委員会、運営委員会の学生へ伝える振り返りミーティングを開催し、次年度開催に向けて問題点や課題を整理する。	各実行委員会、運営委員会が主体的、安定的かつ継続的に運営できるような助言をおこなっていく。 会計の問題については、課外活動登録時において通帳などの根拠資料を学生課窓口で確認し、誤った運用をしている団体に対して指導をおこなう。	・2018年度学生部会議資料および記録 ・2018年度第2回・第4回・第6回・第7回・第9回・学生委員会資料および記録				
	3 業務改善、提案	以下を提案、実施した。  <共通> 委員会、会議資料のデータ化による印刷費削減  <厚生関連> ①新入生ガイダンスの短縮化に伴うガイダンス内容の見直し ②休退学の申請書様式改訂 ③給付奨学金の選考基準の見直し ④入学手続きWeb化の提案 ⑤学長表彰の人数枠の見直し  <課外活動関連> ⑥デジタルサイネージの導入 ⑦南山チャレンジプロジェクトの募集時期早期化  <保健関連> ⑧「障がい者サポートプロジェクトチーム」を「合理的配慮サポートチーム」へ名称変更	①他課室の応援を得て、入学書類回収と学生証交付を別教室に分けて同時に実施し、効率化を図った。 ②従来書き間違いが多く、トラブルの原因となっていたことから、書式を見直した。 ③従来JASSOに準拠していた選考基準を見直し、認定所得に基づく家計基準に統一する運用を提案した。 ④入学手続きWeb化を提案し、2020年度入試より実行するため現在システムを設計している。 ⑤国際教養学部設置や短期大学の廃止、英米と総合政策の定員削減、経済、経営、フランス、ドイツ、ソフトウェア工、機械電子制御工の定員増により表彰される人数枠を検討する必要が生じ、これまでの基準と照らしながら新たなルールを提案した。 ⑥キャンパス内の掲示板のひとつとして丸善が契約しているデジタルサイネージをS棟店舗前から1SVOKUへ移設し、課外活動等の活動を掲載できるように交渉、実現した。 ⑦2017年度新規提案し実施した南山チャレンジプロジェクトの募集時期を早期化し新年度開始から活動を開始できるようにした。 ⑧学生および保証人のなかでは「障がい者」という名称で扱われることに不満を示すケースがあり、「合理的配慮」へ名称変更した。	⑥キャンパス整備が進むなかで整備された壁などを毀損させないようにするためにデジタルサイネージの活用を推進していくが、キャンパス内で効果的な掲示場所が乏しいため、課外活動の活性化にとっては従来課外の掲示板の新設は必要である。	A	・日々の業務を通じて、問題点や課題を見出し、学生部会議や保健センター会議へ改善策を提案する。 ・各々の会議において、教員との協働で検討を進め、学内手続きを経て実行していく。 ・学生側、大学側の双方で効率化、省力化を図るための施策を今後も提案していく。	⑥特にイベント時の掲示について、学生団体の意見を取り入れながら、新たな掲示板の設置を提案していく。	①～⑧学生部会議資料 ①1/28事務部長会議資料 ②1/〇協議会議 ③ ④11/26個人情報保護委員会資料および2/25協議会議資料 ⑤11/26協議会議資料 ⑥10/19学長室会議資料 ⑦ ⑧9/10協議会議資料				



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		学生課		氏名	後藤 真貴子						
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策		根拠資料	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況 (○/×)	達成できていない理由 (×の場合理由を記載)
					[1] 「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2] 記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3] 到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4] 500字以内で簡潔に記載してください。						
4	学生支援体制の適切な整備	<p>①学生部長、学生部次長（厚生担当、課外活動担当、学生交流担当）で組織される学生部と学生課が連携して対応している。</p> <p>②各学部選出の学生委員を通じ、学生部、学生課と連携をはかっている。</p> <p>③新任用教員に対して、学生支援の体制等を説明している。</p> <p>④学生一人ひとりに担当教員を割り当てる指導教員制度をとっている。</p> <p>⑤学生交流センターを学内に設置している。</p>	<p>①学生部と学生課が連携し、学生が心身共に健康で充実した学生生活を過ごすことができるように、週1回学生部会議を開催して情報共有や様々な検討をおこない、学内の各部署、学外の諸機関と密な連絡、調整を行っている。</p> <p>②各学部から1名の学生委員が選出され、月1回開催される学生委員会、奨学生選考委員会での報告事項、審議事項により各学部へ情報提供をおこない、学生部・学生課との連携を行っている。</p> <p>③毎年度4月初旬に開催される「新任用教員職員研修」において、学生課長より「学生関係の制度と手続き」について説明し理解を得ている。</p> <p>④指導教員が学業、授業料、奨学金、休・退学等、学生の抱えるさまざまな問題に対処できるよう、学生課より情報提供し、問合せに応じている。</p> <p>⑤学生交流センターが設置目的である「学生が集い他の学生と関わり合い、教え合って、学生相互が支援・協働活動を行うこと」を達成できるよう、学生TAのサポートをしている。</p>	A	<p>・新入生ガイダンスにおいて、学生生活案内、学生生活スタートブック、カカワリの配布を継続するとともに、2019年度から新たに実施する。学生委員による各学科での学生生活ガイダンスで、学生生活に関する情報を提供する。 ・今後も関係部署との連携、調整を密にし、学生支援体制を継続していく。</p>	<p>①「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 ② 500字以内で簡潔に記載してください。</p>	<p>①南山大学管理職制第20条～第23条 ②南山大学学生委員会規程 ③新任用教員職員研修資料 ④学生生活案内 ⑤学生生活案内、カカワリ</p>	<p>長年ゼミ生の相談を受けてきた経験から、まずは指導教員が様々な相談を気軽に受けられるような、教員の側の意識改革が求められていると思います。保健センターとも協力して、是非ともカウンセリングの基礎知識や「半グレ」の浸透などの新たな社会問題の実態や対処法等に関するセミナーやワークショップを開いていただきたいと思っています。</p>	○		
5	障がいのある学生に対する修学支援および学生の相談に応じる体制の整備	<p>①障害者差別解消法に基づき、障がいを持つ学生の支援をおこなっている。具体的には合理的配慮の願いが出た場合に、状況や要望を伺い、「合理的配慮サポートチーム会議」で配慮内容を協議して、可能な限り対応している。</p> <p>②特別修学支援室において、修学面で困難を抱える学生一人ひとりの実情に対応した学習環境を整えるための相談窓口を設けている。</p> <p>③学生相談室において、さまざまな困難に直面した学生に対する支援として、カウンセラー（公認心理師、臨床心理士）による学生相談と精神科医による精神保健相談をおこなっている。</p>	<p>①合理的配慮学生の要望を伺い、合理的配慮サポートチーム会議で協議できる資料を準備し、協議後の手続きをおこない、教室内における座席指定、授業担当者へ障がいや症状の周知、支援機器や装具の使用許可、試験問題の文字サイズ拡大や時間延長などの支援をおこなうことができた。また、新年度開始前に学長担当副学長が全学科長を召集し、「障がい学生に対するサポート体制についての情報共有会議」を開催し、合理的配慮を必要とする学生からの要望事項と大学の対応について情報提供、共有をおこなった。</p> <p>②特別修学支援室において、開催される「履修登録相談会」「学生サポーターによる個別学習支援」「メンタルヘルズ講座」「キャリアデザイン支援講座」などの修学支援について、事務手続きをおこなった。</p> <p>③学生相談室において、学業をはじめ、課外活動、対人関係、家庭、人生についての疑問や目標、将来の進路選択等について、ともに考え、よりよい解決策を見つけ出すための援助と助言をしているが、保健室は保健センター総合受付として、カウンセリングの予約や事前資料準備をおこなった。</p>	A	<p>①文部科学省「障害のある学生の修学に関する検討会第二次まとめ」のなかで、修学支援措置の適切性のひとつとして、合理的配慮対象の学生に対し、モニタリングをおこなうことが求められ、Q4開講中にモニタリング面談を保健センター・特別修学支援室主導でおこなった。そこで、当該年度の配慮の妥当性や修学状況などを合理的配慮対象学生本人に確認し、ほとんどの学生から「満足」との評価を得た。今後もQ4開講中に実施し、次年度における配慮につなげていく。</p>	<p>①「合理的配慮の妥当性」については、その適切な判断のために学内における各部署間の連携や学校医などの専門家の介入、ときに当該学生本人と、モニタリングをおこなうことが重要であり、常にそれらの整備をすることが必要である。 また、全学的な「合理的配慮対象学生へのサポート」という観点から、保健センター・特別修学支援室と学部学科との連携を通じ、合理的配慮サポートの醸成をおこない、また今後は、教職員への「私立大学における合理的配慮の努力義務」についての講習などを検討していく必要がある。</p>	<p>①合理的配慮サポートプロジェクトチーム概念図 ②③保健センター利用案内パンフレット</p>				

(1) 前年度「点検・評価」改善すべき点として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。  
(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  
※必要に応じて行を増やしてください。

(1) 前年度「点検・評価」改善すべき点として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。  
(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。  
※必要に応じて行を増やしてください。



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		学生課		氏名		後藤 真貴子		
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価	自己評価	将来に向けた発展方策		根拠資料	
					内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画		「改善計画」の達成状況 (○/×)
6	奨学金その他の経済的支援の整備	<p>①給付奨学金は7種類（うち1種類は新規採用なし）あり、経済的困窮度（JASSO基準準用）、成績優秀（GPA）をもとにして奨学金を給付した。</p> <p>②貸与奨学金は2種類あり、入学時に資金を必要とする場合、家計が経済的に不測の事態に陥ったときに、経済的困窮度（JASSO基準準用）をもとにして、奨学金を貸与する制度を用意している。</p> <p>③学外奨学金は2018年度30種類あり、経済的困窮度（JASSO基準準用）や成績優秀（GPA）、財団の意向をもとにして推薦者を選考した。</p>	<p>①給付奨学金制度について、2013年度に制度改革後5年が経過したことから、昨今の家庭の経済状況を鑑み検証した。大学給付奨学金および友の会給付奨学金について、家族の構成を考慮した選考基準を取りやめ、認定所得に基づく家計基準に変更して運用することを提案し、2019年度から運用するための学内手続きが完了した。</p> <p>②希望者がいなかった。</p> <p>③前年度と比較すると、3つの財団からの募集が増加し、学生の経済的支援の枠が広がった。</p>	<p>①選考基準を変更することとなったが、現状の枠組みでは困窮度の高い学生すべてが救済されない。給付奨学金の枠組み（予算）の拡大を近い将来検討することが必要である。</p> <p>②③特になし</p>	特になし	<p>①さらなる制度の充実のためには、給付対象者の拡大が望まれるため、今後も議論を重ね、見直しを行うことにより、給付型奨学金制度の充実を図っていく。</p> <p>②③特になし</p>	<p>①9/24協議会資料 ③奨学生選考委員会資料</p>	
7	課外活動支援の整備	<p>①南山チャレンジプロジェクト：7つの団体を採択</p> <p>②有志団体Meal for Refugees at Nanzanとローソンとの商品共同開発をサポートした。</p> <p>③学長表敬訪問を新規実施した。（9/26；体育系6、文化系6）</p> <p>④名古屋キャンパス施設設備計画（Ⅲ・Ⅳ期）におけるセミナー室およびPC教室設置に伴う課外活動利用教室の変更、また、グラウンド改修工事期間中の活動支援を提案し、工期中の代替措置をおこなった。クラブハウス改修工事に伴う各クラブの部室引越越し、再生された更衣室等共用スペースの利用ルール指導等を行った。</p> <p>⑤学生連盟等の団体加盟費、学外施設の借用・使用料、全国大会出場者への参加費・交通費、奨励クラブコーチへの謝礼金などの援助をおこなった。</p> <p>⑥学生部長表彰を実施（3/20）した。</p>	<p>①各採択団体が計画に沿って実行できるよう助言し、学内調整、予算執行をおこなった。</p> <p>②2017年度採択団体のひとつ、有志団体である、Meal for Refugees at Nanzanがローソンと商品共同開発を進めるに当たりサポートし、商品開発が実現した。10/17には記者発表もおこなった。</p> <p>③学長に、学生の活動を知っていたために、優れた成績を修めた個人や団体、様々な活動を行っている個人や団体を選定し、学長への表敬訪問を実現した。</p> <p>④工事計画により課外活動で利用している教室やグラウンド、部室等が利用不能となる期間中の代替措置を提案し、学生の活動に支障がでないように学内手続きをおこなった。また、クラブハウス改修により再生した共用部の利用ルールを策定、学生への指導をおこなった。</p> <p>⑤学生の課外活動発展のための各種援助制度について、課外活動団体を集めて説明会をおこない、関連委員会資料にまとめて学内手続きをおこなった。</p>	<p>①7つの採択団体のうち、1つの団体から計画倒れのため支援の取り下げがあった。</p> <p>②③④⑤⑥特になし</p> <p>このほか、補導出張制度に関するルールが一部古くなり、現状から乖離しているところがあるため、改正を検討する。</p>	<p>学生が主体的に活発な活動ができるようサポートしていくとともに、改訂計画の課外活動への影響に応じ、代替措置を検討する。</p>	<p>①採択団体に対して、毎月末に活動報告の進捗を報告してもらい、途中で計画倒れにならないよう進捗を管理し、目的を達成できるようサポートしていく。</p> <p>②③④⑤⑥特になし</p> <p>補導出張制度の改正に関して、春学期中をめぐり、学園関連施設等の利用料改訂に応じた出張費支給ができるようルール改正を検討し、引き続き、ルール全体の見直しを図る。</p>	<p>①～⑥学生委員会資料および記録 ①2018年度第2回学生委員会資料 ②9/10協議会資料 ③学生部会議資料 ④4/9協議会資料 ⑤⑥2018年度第9回学生委員会資料</p>	



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		教務課		氏名		谷本 達哉						
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価		自己評価	将来に向けた発展策		根拠資料	内部保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況 (○/×)	達成できていない理由 (×の場合理由を記載)
			[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。		[1]「効果が上がっている事項」については、さらに伸長させる方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。					
<p>(1) 前年度「点検・評価」改善すべき点として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。</p> <p>(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。</p> <p>※必要に応じて行を増やしてください。</p>	1	カリキュラム編成および履修に関する事項	<p>南山大学事務分掌規程にしたがい、2019年度学年暦の原案作成、2019年度授業時間割編成、2019年度入学者用履修案内の編集・発行ならびに日常的な学生の履修登録支援を行った。</p> <p>2018年度の学年暦では、15回の授業日程があらかじめ確定できない授業科目が年間624科目あり、個別の調整により、15回目の授業日を設定しなければならなかった。これを解消し、学生や教員にとって分かりやすく適切な学年暦とすること、また事務負担を軽減することを目標に、2019年度学年暦は、すべてのクォーター、すべての曜日で8週間の授業日程を確保することを念頭において原案を作成した。その結果、新入生ガイダンスの短縮等により、土曜日以外は8週間を確保する学年暦を完成し、教務委員会ならびに評議会の承認を得た。</p>	<p>曜日等の関係で、毎年継続して8週間を確保できるかが不透明である。また、祝日の確保も課題である。</p>	B	<p>2018年度と同様の方針で適切な授業回数を確保できるよう原案を作成する。その一方、将来に向けてはクォーター制点検ワーキンググループにて、現状を正しく報告し、適切な学年暦を作成する方策を具申する。</p>	<p>2019年度授業日予定表_第5回教務委員会_審議事項4</p>	クォーター制度導入第4年度を前に、更なる問題点の洗い出しと修正をお願いします。	2018年度までは曜日によって15回目の授業を別曜日・時限に設定する必要があり、学生・教職員に混乱を招いたが、2019年度は土曜日を除き、8週間確保する学年暦とすることでこれを改善した。2020年度も同様の学年暦を継続している。一方で祝日の授業実施やQ2の定期試験が8月上旬まで続くことによる留学出発への影響などの拡大したことから、これらを是正するため、2021年度から100分授業に移行する方向性が全学的に了承されているため、教務課では2020年度中に100分授業実施のための具体的な準備を進める。	○		
	2	授業・定期試験等に関する事項	<p>南山大学事務分掌規程にしたがい、日々の授業運営における教室管理、教育職員の出席状況管理、毎クォーターの定期試験・追試験の準備・運営を行った。</p> <p>キャンパス内の改修工事のため、授業や定期試験における教室調整は難航したものの、全学カリキュラム委員会にて示された教室割当の原則にしたがい、すべてのクォーターにおいて滞りなく教室を割り当てを行うことができた。割り当て後も登録変更による履修者の増減、授業担当教員の要望等に応じて、可能な限り教室の調整を行い、快適かつ適切な学習環境を提供できるよう努めた。</p>	<p>定期試験日程が各クォーター4日間（予備日を除く）であるため、授業と同じ曜日・時限に試験を実施することができず、定期試験の時間割編成に苦慮している。特に学生一人ひとりの試験時間割が重複することのないよう細心の注意を払っており、複数名でのチェック作業に多くの時間を費やしている。</p>	B	<p>2019年度は改修工事が概ね終了したため、教室割当にやや柔軟性が増す。これを生かめ、教室定員による制約を緩和し、抽選漏れ人数の減少を目指す。また、抽選漏れの人数や履修登録状況に応じて、教室変更を行い、履修希望者が可能な限り履修できる環境を整える。</p> <p>2019年度も引き続き、各クォーター4日間（予備日を除く）の定期試験日程であるため、2018年度と同様、すべての学生の試験時間割が重複することなく適切に受験できるような時間割編成を行う。重複チェック等の事務負担を軽減するため、2019年7月に教務課員の業務分担変更を行い、定期試験業務を担える人員を増やす。将来に向けては、定期試験期間を各クォーター1週間ずつ確保できるよう、クォーター制点検ワーキンググループにて、現状を正しく報告し、適切な学年暦を作成する方策を具申する。</p>	<p>教室割当の原則_第1回全学カリキュラム委員会_報告事項10</p>					



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		教務課		氏名		谷本 達哉						
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価		自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況 (○/×)	達成できていない理由 (×の場合理由を記載)
			[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。		[1]自己評定の結果として、S、A、B、Cのいずれかを記入してください。 [S]極めて良好な状態にあり、取り組みが継続した状態にある。 [A]良好な状態にあり、取り組みが概ね適切である。 [B]軽度な問題があり、さらなる努力が求められる。 [C]重度な問題があり、技術的な改善が求められる。	[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2]500字以内で簡潔に記載してください。					
3	成績管理に関する事項	南山大学事務分掌規程にしたがい、成績の管理、卒業論文等の受理、2018年度卒業・修了判定資料の作成、在学生・卒業生への各種証明書の発行を行った。	卒業論文等の受理にあたっては、期限を厳守するよう教務課Webページにて学生や指導教員に周知し、厳格に運用している。また、2018年度より未提出者の成績入力も教務課が担当することとなったが、提出期限後のスケジュールを見直し、著しく遅延することなく、指導教員へ卒業論文の受け渡しを完了することができた。	卒業・修了判定を正しく行うために、システムの設定から資料準備、実際の判定に至るまでの各段階において、必ず複数名でのチェック体制を敷いている。これまで教務係のみで行っていた作業を他の係の者でも担えるよう、チェック項目を見直し、課室全体で協力体制を構築したが、依然として特に年度末の超過勤務が顕著であり、職員健康管理や疲労の蓄積によるミスの発生が懸念される状態にある。	B	卒業・修了判定ルールシステムのシステム設定、確認等の外部委託化などにより業務の効率化、負担軽減、超過勤務の抑制を目指す。	2018年度3月卒判チェックリスト (両面印刷).x1s	原因を分析したうえで、是非とも事務職員の超過勤務の解消に努めていきたいと存じます。その際、運用変更やシステム化、外部委託化の検証についてもお願いしたい。	2019年度は教務課基本方針に「毎日ひとり15分残業時間を削減する」ことを目標に掲げ、超過勤務を削減する意識を課内全員が毎日持つことを目指している。加えて、外部委託化やシステム化が認められた事柄について、運用を開始している。2020年度には、引き続き、日々の超過勤務を無理のない範囲で抑制することを目指しつつ、超過勤務の理由を分析する。毎年必ず発生する業務、単年度のプロジェクトの業務、不測の事態への対応など超過勤務の理由を分類し、それぞれに対策を検討する。	×	2018年度の超過勤務は課室全体で7,512時間、2019年度は7,016.75時間、2020年度は6,961.25時間とわずかながら削減できている。また、課室業務の可視化を2020年度の教務課基本方針に掲げ、各業務の所要時間や進捗状況を把握することで、真に必要な超過勤務であるかを見極める努力を継続している。2020年度は新型コロナウイルス対応、全学的なカリキュラム改訂、データサイエンス学科の教職課程認定関連業務等が不測の事態への対応あるいは単年度のプロジェクト的な業務として分類されるが、これらに伴う業務量や超過勤務時間等の分析は、まだ行っていない。加えて、カリキュラム検証の外部委託化による効果の見極めや更なる外部委託可能な業務の洗い出しなどは道半ばである。	
4	共通教育ならびに各センターに関する事項	南山大学事務分掌規程にしたがい、共通教育委員会の開催、事後処理、外国語教育・教職・体育教育の教育補助ならびに各センターの管理・運営を行った。	2018年度より外国語教育・教職・体育教育センター長会議、外国語教育・教職・体育教育センター合同協議会等報告会が発足し、それぞれ10回ずつ会議が開催され、事務局として円滑に準備・運営・記録作成を行った。外国語教育・教職・体育教育センター長会議が出席する協議会、評議会等の情報を遺漏なく、効率的に各センター所属教員に伝えられる仕組みを構築できた。	学部事務室と同様の業務を担う各センターにおいて、研究費管理や人事管理等について、十分なノウハウが蓄積されておらず、学事課（学部事務室）から都度、助言を得ながら、業務を進めている状態である。2018年度は体育教育センターにおいて専任教育職員の留学、退職、採用があり、一連の手続を経験した。各センターにおいても事例等を蓄積し、事務処理の流れが確立しつつある。	A	今後も当面は新たな事例が発生するたびに、会議体等の流れを確認し、遺漏なく事務処理を行う。その際、学事課（学部事務室）で所有している各種資料やマニュアルを共有いただくことも検討する。また、外国語教育・教職・体育教育の各センターで共通する、あるいは類似する事例は、相互に情報や資料を共有し、事務処理の効率化を図る。	毎回の外国語教育・教職・体育教育センター長会議議事録、協議会等報告会議事録					

(1) 前年度「点検・評価」改善すべき点として示された事項について引き続き点検・評価する場合は、この欄にも記載してください。

(2) 上記(1)以外の事項についても点検・評価項目を設定して記載してください。

※必要に応じて行を増やしてください。



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		キャリア支援室		氏名		寺本 将史								
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価		自己評価	将来に向けた発展方策		根拠資料						
			[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。		[1]「改善すべき事項」については、その改善方を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）を記述してください。 [2]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。							
1	キャリア支援室の利用促進について	キャリア支援室には、大いに役立つ資料を用意しており、就職情報出版社にはない情報（求人票を含む）を保有している。そして、経験豊富なキャリアカウンセラーやスタッフを配置している。2017年度卒業生対象 南山生の就職活動実態調査において、キャリア支援室を利用したことがない学部学生は45.84%であった。	2017年度のキャリアカウンセラーの配置は、定常枠1（2017年4・5月および2017年9月～2018年3月）および臨時枠1（繁忙期のみ：2017年4・5月、2018年2・3月）であった。2018年度は、学生窓口相談を充実させるため、キャリアカウンセラーを2名増員し、3枠（通年雇用）を提案し、2020年3月末までの配置が認められた。これにより、学生の窓口相談体制を充実することができた。	「キャリア支援室利用講習会」は実施したばかりのため、まだ周知されていない。	【B】	キャリアカウンセラーの配置は、2019年度の運用および実績を確認し、さらに適切な配置を検討する。  就職を含めた進路相談等を行うキャリア支援室を身近に感じてもらうため、就職活動年次生だけでなく、低年次生にも活用してもらおうため、その年次にあった「キャリア支援利用室講習会プログラム」を作成する。	「キャリア支援室利用講習会」については、認知度を上げるために、学生および教職員に対して、学内掲示板やチラシの配布（ミニチラシなど）、キャリア支援委員会委員を通じてアナウンスしていき、周知していく。	様々な悩みを抱える学生の身近な相談相手である各指導教員の意識改革と適切な対応に向けて、保健センターとのタイアップも含めて、ぜひともセミナーやワークショップの開催をお願いしたいと存じます。そのような出口におけるきめ細かい配慮は、必ずや社会の評価を受けると確信します	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況 (○/×)	×	2020年度はコロナ禍の影響により、就職活動を取り巻く環境が激変した。この対応に終始したため、SD企画は実施できなかった。学生にとって一番身近である指導教員からの就職活動を含むキャリアサポートは、重要であると、キャリア支援委員会で認識している。2021年度からは、SD企画の定期的な実施に向けて、進めていく。	
2	相談体制の充実について	2018年度は、学生窓口相談を充実させるため、キャリアカウンセラーを2名増員し、3枠（通年雇用）を提案し、2020年3月末までの配置が認められた。これにより、学生の窓口相談体制を充実することができた。	学生相談が専門であるキャリアカウンセラーを充実させたことにより、専任および専任嘱託職員は、事務に専念する時間が増えた。	学生相談が落ち着いた時期に、キャリアカウンセラーが対応する担当業務をどう振り分けていくか課題である。	【B】	2020年3月末までキャリアカウンセラー3枠が認められている。この体制をきちんと評価し、次年度以降の体制を検討する。	現在、専任職員が担当している業務の内、キャリアカウンセラーが担当できる業務（例えば、進路届未提出の学生への連絡、進路先未決定者のフォローなど）を確認し、振り分けをしていく。	指導生を持つ教員向けのFDを、学部との共催で計画されたいかか。	2019年12月にSD企画を実施した。学部のキャリア支援委員会委員や学事課と情報交換し、FD企画の共催を検討する。	×	2020年度はコロナ禍の影響により、就職活動を取り巻く環境が激変した。この対応に終始したため、FD企画の実施（共催）は実現できなかった。FD企画はSD企画と同様に、重要であると、キャリア支援委員会で認識している。2021年度は、キャリア支援委員会委員や学事課と情報交換して、FD企画実施（共催）を前向きに検討していく。			
3	キャリア支援室体制について	キャリア支援室は、キャリア支援係および就職支援係の2係体制である。また、2019年度より、就職委員会とキャリアサポート委員会を統合し、キャリア支援委員会を発足した。	特になし。	キャリア支援係はキャリアサポートプログラムとインターンシップを担当し、就職支援係は就職支援プログラムを担当している。就職活動の環境変化により、2係の業務の切り分けが難しくなっている。今後の就職環境に応じた支援体制を検討していく必要がある。	【A】	特になし。	センター化を含め、よりよいキャリア支援室の体制を検討する。							



2020年度自己点検・評価報告書（①2018年度自己点検・評価報告書の「改善計画」の達成状況）

様式3

委員会/事務組織等名称		学事課		氏名		南 宏幸					
No.	点検・評価項目名	現状の説明	点検・評価		自己評定	将来に向けた発展方策		根拠資料			
			[1]「効果が上がっている事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。	[1]「改善すべき事項」を記述してください。 [2]記述内容を裏付ける客観的証拠も記述してください。 [3]到達目標を設定して、点検・評価をしてください。 [4]500字以内で簡潔に記載してください。		[1]「改善すべき事項」については、その改善方策を具体的に（到達目標、いつまでに、誰が、どのような方法で等）、記述してください。 [2] 500字以内で簡潔に記載してください。	[1] 記述を裏付ける根拠資料の名称を記載してください。 規程の場合は具体的な条数を、冊子の場合は具体的なページ数をウェブの場合はURLを必ず明示してください。				
1	学部事務室専任・専任嘱託職員2名体制の構築	2017年度に学部事務室の業務分析を行い、2018年度中に全学部事務室の専任職員・専任嘱託職員を合わせて2名以上の体制とした。	2名体制にすることで、教授会資料などを異なった視点でチェックすることができ、間違いを抑制できている。また、相談する相手が身近にすることで、精神的負担を軽減している。（課長面談時における各事務室担当者からの報告による）	学部事務室専任職員1名体制では年次休暇の取得も難しかったため2名体制としたが、2018年度学事課年次休暇取得は112.5日（年次休暇取得率20.9%）であり、まだ効果が出ているとは言いがたい。	A	新たに配置された職員がジョブチェンジを行うなどお互いが学部事務室のチェック機能も高まる。また、どちらかの職員が異動になった際も、他の職員が事前に引き継ぐこともできるので、スムーズな業務移管が可能となる。	新たに職員が配置となった事務室は新規追加職員が業務を覚えていく過渡期でもあり、交代で休みにくい状況があったが、今後はその状況が改善され、年休取得率も向上する。また、法律的にも2019年度から年休5日取得義務が発生するので、そのことも後押しして年休取得率は向上する。	内部質保証委員会からの意見・指示	意見・指示を受けて組織が立てた改善計画	「改善計画」の達成状況 (○/×)	達成できていない理由 (×の場合理由を記載)
2	南山大学短期留学特別奨学金の設立	2018年度から南山大学短期留学特別奨学金が設立され、29名1,372,000円の奨学金を貸与した(2018年度時点では外国語学部、国際教養学部が対象)。また、返還については2018年12月から開始し、返還予定額金額が返還された。2018年度は初年度ということもあり、学事課長直轄の下で運営を開始したが、2019年度は外国語学部事務室、国際教養学部事務室に引き継いだ。	2019年度から外国語学部事務室、国際教養学部事務室が奨学金担当となって運営していくため、業務引継ぎを漏れなく進める必要がある。また、奨学金の督促方法が定まっていないので、2019年7月までに確定する必要がある。	A	外国語学部事務室、国際教養学部事務室に業務を漏れなく引き継ぐためにマニュアルを整備し、それを元に学事課長から説明を行う。また、督促方法については上長と相談しつつ、学生課にも実際の運営のノウハウを確認しながら、内容を確定していく。なお、次回督促の2019年7月までには内容を確定する。	南山大学短期留学奨学金貸与規程					
3	学生セミナー室、学生ロッカーの運用	Ⅲ・Ⅳ期施設整備計画に従い、学生セミナー室・学生ロッカーが設置されるため、セミナー室・ロッカー室ワーキング内で運用が審議され、学事課が担当することとなった。2019年度からの体育センター・Q棟・K棟の学生ロッカー、セミナー室の運用に関する準備を行った。	学生セミナー室に関しては、各学部で運用・割振りを検討し、運用準備を進めた。学生ロッカーは学事課で在学(一部の学科は新入生)の数を元にロッカーの割振りを決めた後、ロッカー番号のロッカーへの付与、ロッカーエリアへの案内掲示、学生への周知を行い、大きなトラブルもなく運用開始となった。	A	ロッカー内荷物の対処方法については、総務課と協力しながら法的根拠の確認、清掃委託業者への協力依頼などを2019年内に確定する必要がある。それと同時にマニュアルの整備も進める。また、今後は2019年度に発足した学生セミナー室・学生ロッカー委員会にて割振り等を審議し、委員会主導で進めていくこととなる。	セミナー室・ロッカー室ワーキンググループ報告書(2019年3月4日開催協議会協議事項6) 南山大学学生セミナー室・学生ロッカーの運用に関する規程					